

改訂版

「心のノート」を生かした 道徳教育の展開



—「心のノート」活用事例集—



文部科学省

まえがき

文部科学省では、これまで、各学校における「心のノート」の活用を促進する観点から、教師用の指導の手引きの作成・配布を行うとともに、平成15年7月には、本書の前身である『「心のノート」を生かした道徳教育の展開』を刊行し、具体的な活用事例等の紹介を行ってきました。

また、平成21年度には、新学習指導要領に対応した「心のノート」の改訂を行ったところであり、また、平成22年度以降は、ウェブを通じた利用を進めてきました。

こうした状況を踏まえ、このたび『「心のノート」を生かした道徳教育の展開』についても、その内容を更新するため改訂を行いました。

さらに、平成24年度補正予算によって、平成25年度使用分から、「心のノート」の全小中学生への配布が再開されることとなっています。

各学校におかれては、本書に掲載した事例を参考にしつつ、学校や地域、児童生徒の実態などに即して、「心のノート」のより効果的な活用に取り組み、道徳教育の一層の充実を図られることを期待しています。

最後に、本書の作成に当たって多大な御協力をいただきました作成協力者をはじめ関係の各位に対しまして、心から感謝の意を表します。

平成25年3月

文部科学省初等中等教育局長

布村幸彦

目次

第1章 「心のノート」の効果的な活用を促すために	7
1 「心のノート」を生かした道徳教育の充実	8
2 多様な場面での子どもの活用とそれを促す工夫	10
3 活用を広げるための課題とその取組	12
参考 「心のノート」の内容の構成	14
第2章 「心のノート」の効果的な活用の実例	17
【1】学校や家庭の日常生活での活用	
朝や帰りの話合いで活用する [小学校].....	18
朝の読書タイムで活用する [中学校].....	20
休み時間や放課後の時間に活用する [小学校].....	22
家庭と学校の往復の中で活用する [小学校].....	24
学校・学級掲示板で生かす [中学校].....	26
家庭で家族と共に活用する [小学校].....	28
日常生活での活用を促す [中学校].....	30
長期休業で活用する [小学校].....	32
【2】各教科での活用	
国語科で活用する [中学校].....	34
社会科で活用する [小学校].....	36
数学科で活用する [中学校].....	38
理科で活用する [小学校].....	40
生活科で活用する [小学校].....	42
音楽科で活用する [中学校].....	44
図画工作科で活用する [小学校].....	46
家庭科で活用する [小学校].....	48
技術・家庭科で活用する [中学校].....	50
保健体育科で活用する [中学校].....	52
外国語科で活用する [中学校].....	54
【3】道徳の時間での活用	
道徳の時間の導入で活用する [小学校].....	56
道徳の時間の導入で活用する [中学校].....	58

1 時間を通して活用する① [小学校].....	60
1 時間を通して活用する② [小学校].....	62
1 時間を通して活用する① [中学校].....	64
1 時間を通して活用する② [中学校].....	66
道徳の時間の終末で活用する [小学校].....	68
道徳の時間の終末で活用する [中学校].....	70
道徳の時間の事前に活用する [小学校].....	72
道徳の時間の事後に活用する [中学校].....	74
【4】外国語活動での活用	
外国語活動で活用する [小学校].....	76
【5】総合的な学習の時間での活用	
総合的な学習の時間で活用する [小学校].....	78
総合的な学習の時間で活用する [中学校].....	80
【6】特別活動での活用	
学級活動で活用する [小学校].....	82
学級活動で活用する [中学校].....	84
クラブ活動で活用する [小学校].....	86
児童会活動で活用する [小学校].....	88
生徒会活動で活用する [中学校].....	90
学校行事で活用する [中学校].....	92
【7】家庭や地域社会との連携等での活用	
家庭や地域社会との連携の中で活用する [小学校].....	94
家庭や地域社会との連携の中で活用する [中学校].....	96
学校間交流の場面で活用する [中学校].....	98
■ 「心のノート」の世界を広げるファイルをつくってみよう.....	100



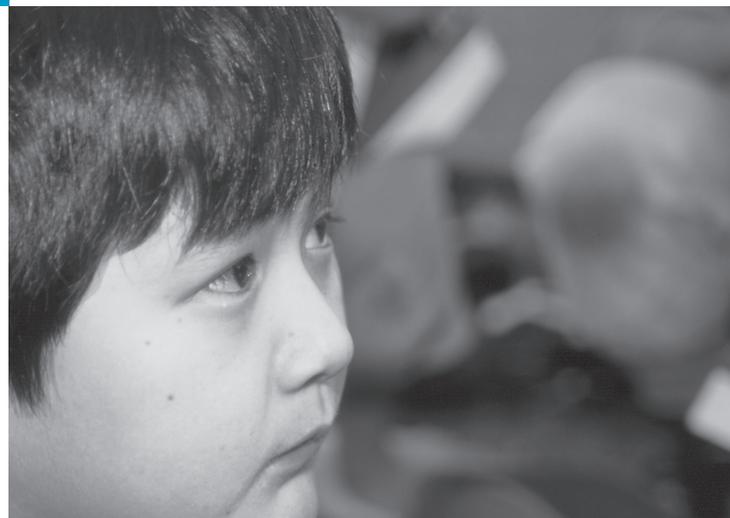
目次

第3章 「心のノート」の効果的な活用を促す計画例	103
学校全体での活用を促す計画例 [小学校]	104
道徳教育の全体計画例 [中学校]	106
全教師で生きてはたらく諸計画をつくる [中学校]	108
道徳の時間の年間指導計画例 [小学校]	110
学級における指導計画例 [中学校]	112
「心のノート」の活用記録の様式例 [小学校]	114
参考 小学校学習指導要領 (抜粋)	116
参考 中学校学習指導要領 (抜粋)	117
参考 「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表	118



「心のノート」小学校5・6年用「友だちっていいよね」のイラストより

第1章 「心のノート」の 効果的な活用を 促すために



1 「心のノート」を生かした道德教育の充実

1 子どもが道德性を自ら育むための「心のノート」

子どもはだれでもよりよく生きたいと願っている。その気持ちを生活の中で実現していこうとする豊かな人間性とその基盤となる道德性を育てることが心の教育であり、道德教育が目指すものである。

しかし、現在、子どもの道德性の育成を阻害している状況も種々指摘されている。例えば、家庭や地域社会の教育機能が揺らいでいること、社会全体のモラルが低下していること、子どもの自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であることなどが挙げられる。また、国際化、情報化、環境問題の深刻化、福祉や健康への関心の高まりなど、社会の変化などへの対応が求められている。

このような状況を踏まえ、道德教育の一層の充実を図ることが必要であり、「心のノート」もそれに資するために作成され10年が経とうとする。子どもの心に寄り添いながら、子どもと共に育つ姿勢で、「心のノート」が生かされることが期待される。子ども一人一人が、「心のノート」を手掛かりとして、人間としてよりよく生きようとする心や共に生きようとする心など「生きる力」を自ら育んでいくことを願っている。

2 道德教育の改訂の要点と「心のノート」

道德教育の改訂については、「心のノート」活用のために（小学校・中学校）」においてまとめられている。小・中学校の各「学習指導要領解説 道德編」に道德教育の目標の改善に加え、以下の事項が示されている。今後の「心のノート」の活用に当たって特に留意すべき視点として押さえておきたい（○は小学校版、●は中学校版、◎は共通）。

- ◎道德の時間を「道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」と示し、その中核的な役割や性格を明確にした。
- ◎学習指導要領の各教科等の記述部分において、各教科等の特質に応じて適切な指導を行うよう道德性の育成について明記した。
- 集団宿泊活動などの豊かな体験活動を通して子どもの内面に根ざした道德性の育成に配慮すること。
- 職場体験活動などの豊かな体験活動や道德的実践を充実させ、生徒の道德性の育成に配慮するよう示した。
- 道德の時間の目標に「自己の生き方についての考えを深める」ことを加えた。
- 道德の時間の目標を「道德的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め」として、中学校段階における特質を一層明確にした。
- ◎道德の内容項目について新たに加えたり表現を改善したりするとともに、各学年段階ごとの内容項目は相当する各学年において全て取り上げることを明記した。
- ◎校長の方針の下に道德教育推進教師を中心とした協力体制を充実し、道德教育の全体計画について各教科等の内容及び時期を示すなど一層具体的な計画の作成について示した。
- 自立心や自律性、自他の生命を尊重する心をいずれの学年段階においても重視するとともに各学年段階ごとに特に配慮すべき重点化の内容を具体的に示した。
- 今日の問題状況や生徒の実態等に即した指導をより一層充実し展開できるよう、生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、特に配慮すべき重点化の内容を一層具体的に示した。
- ◎道德の時間の指導について、児童（●生徒）が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用、表現する機会の充実、情報モラルに関する指導等への配慮について示した。
- ◎授業の公開、家庭や地域社会との共通理解について一層強調した。

3 作成の趣旨や特徴から考える「心のノート」の生かし方

(1) 子どもが道德的に成長していくための課題を見つけられるように

「心のノート」には、学習指導要領に示された道德の内容が、言葉や図でわかりやすく表現されていたり、ワークシートが盛り込まれていたり内容が充実している。子どもが自らの興味・関心を高めるよう全てのページをリプリントしたものを用意するなど子どものニーズに合うよう教室に備えておきたい。子どもが自由に見て、活用する環境を整えておく。教師は、子どもの実態に応じて子どもが自己の課題を見つけられるように種々援助することが大切である。

(2) 子ども自身の「心の成長の記録」となるように

「心のノート」は小学校第1学年から中学校第3学年まで用意されている。教師は、適宜子ども一人一人分を印刷し、それを綴じてファイルさせるなど「○○の心のノート」などを作成するようにしたい。子どもは、自分自身について考えたいとき、新しい出来事に会ったとき、学習で活用したときなどに折に触れて記入することにより、自分自身を見る目を豊かにしていく。教師はそのような活用が促されるように機会を捉えて指導したい。そうすることによって、「心のノート」は子どもの心の成長の記録となり、「心の宝物」となるであろう。

(3) 要となる「道德の時間」の指導において活用が促されるように

「心のノート」は、各教科で用いられる教科書や道德の時間で広く活用される副読本に代わるものではない。日常生活や学校の教育活動全体を通じて子ども自身が道德的価値について日常的に考えることに資する教材として作成されたものである。しかし、日々の「道德の時間」の指導において、例えば、導入や終末において効果的に活用したり、話し合い・意見交流など1時間を通して活用したりする手立てを工夫することが求められる。

(4) 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の指導において活用が促されるように

各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動において道德教育を一層重視することが求められている。したがって、子どもの日常の学習場面において、各教科等の特質に応じて「心のノート」の活用をさらに進めたい。それぞれの学習内容が道德教育の内容項目とどのような関連が図られているか検討し、必要な箇所をダウンロードするなどして補助的な教材として活用したい。また、特別活動は子どもの道德的実践を促す重要な場でもある。学級活動のみならずクラブ活動、児童会・生徒会活動等でも活用を図りたい。

(5) 学校や家庭の日常生活での活用が促されるように

「心のノート」は、子どもが日常生活や教育活動等の中で活用するものとして編集されている。したがって、教師はどの子どもも意欲的に活用することができるように、学校の日常生活や各教科等以外の教育活動の中でも、機会を捉えて用いるようにしたい。特に、朝や帰りの会、学級・学校における各種掲示物としての活用を図るようにしたい。

また、長期休業中などには必要な部分を印刷して家庭に持ち帰らせ、自分なりのノートとしてファイル化させることも一つの方法である。

(6) 学校・家庭・地域社会の連携を進める資料として生かすことができるように

「心のノート」は、家庭や地域社会との「心の架け橋」としての役割を果たすことが期待される。家庭でも、子どもと一緒に「心のノート」の内容を話題としたり、「心のノート」に書き込んだりして、学校と家庭が連携して子どもの道德性を育むことができるようにしたい。また、「心のノート」を地域社会の人々との道德教育の共通理解のための資料として生かすなどして、保護者、地域社会の人々、教師の連携が一層充実していくことが期待される。

2 多様な場面での子どもの活用とそれを促す工夫

子どもが「心のノート」を活用する場面は、全ての教育活動で多岐にわたって考えられる。学校では、子どもが日常的に用いることを基本に、各教科等の学習活動、特に道徳の時間に生かすことで、子どもの活用が一層促される。活用の工夫や主な留意点を以下に例示する。

(1) 学校や家庭の日常生活の中で子どもが活用する

例えば、学校においては、朝や帰りの話合いや読書タイム、休み時間や放課後などの時間などでの活用が考えられる。また、学級に掲示コーナーを作るのも一つの工夫である。家庭においても子どもが活用したり、家族と話題にしたりすることが期待される。そのために、日にちを決めて書き込む時間を設定したり、長期休業中の活用を促したり、家庭で家族と話題にすることを子どもに助言したりすることなどが考えられる。

(2) 各教科の学習内容との関連で活用する

各教科の内容と関連する「心のノート」のページを教材として用いることが考えられる。例えば、挨拶などの礼儀の内容や読書を推奨するページなどは国語科との関わりで用いることができる。郷土や我が国の伝統と文化、国際理解等に関わるページは、社会科、生活科、音楽科、図画工作科、美術科などの内容と関連させて用いることができる。また、各教科との関連で「心のノート」を生かすことで、それぞれの学習が自分の生き方に強く関わっていることを子ども自身がより強く意識することが期待される。

具体的には、調べたり話し合ったりするときの補助教材としたり、動機付けやまとめの際の情報として生かしたりすることが考えられる。

(3) 道徳の時間で活用する

道徳の時間の教材として「心のノート」を活用することもできる。「心のノート」の内容が子どもの心に響くメッセージやイラストなどを中心として構成されているので、その教材の性格から、道徳の時間においては補助的な資料として用いることが多いと考えられるが、1時間を通して活用する教材として指導計画に位置付けて生かすことも考えられる。

道徳の時間においては、例えば、次のような場面で活用することが考えられる。

- ①導入段階の題材として、文やイラスト、写真を用いて主題への関心を高める。
- ②展開段階の資料として、ある内容項目に関する4ページの構成全体を生かしたり、詩や作文、いくつかの絵や写真で構成されたページを生かしたりして内容を深める。
- ③展開段階の補助資料として、話合いを一層深めるための参考としたり、新たな道徳的価値に気付くための手掛かりとしたりする際に用いる。
- ④子どもが自己の体験を想起するときに、記入する時間をつくったり、記入した内容を発表し合ったりするために用いる。
- ⑤終末段階の題材として、名言や詩などを用いて学習したことの明確化を図るために用いる。
- ⑥道徳の時間の事前に学習につながる問いを考えたり、関連するページに記入したりする。

なお、教師が指導に用いる際、各ページの内容への子どもの受け止めを大切に、子どもが自己を見る目を豊かにするきっかけとなるような生かし方をすることが大切である。

(4) 外国語活動(小学校第5学年及び第6学年)で活用する

外国語活動では、外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験しながらコミュニケーション能力の素地を養うとともに、日本と外国との生活、習慣、行事などの違いや多様なものの見方や考え方があることを知り、外国や我が国の文化の理解を深めることができるようにする学習を主としている。その際、「心のノート」で我が国の文化を知ったり、世界に視野を広

げたりすることに役立てることができる。例えば、「心のノート」に紹介されている俳句などから日本の文化を知る手掛かりとしたり、地球という一つの星に乗り合わせた同じ人間として、異なる文化などを理解する心が世界を結ぶことにつながることを考えたりすることができる。

(5) 総合的な学習の時間の動機付けや自らの生き方を考える際などに活用する

総合的な学習の時間では、「心のノート」を課題を見つけるヒントにしたり、体験的な学習への動機付けとしたりして役立てることができる。例えば、「心のノート」にも、国際理解、情報、環境問題、福祉や健康、伝統と文化に関わる題材などが織り込まれている。それらの図や写真、メッセージを拡大して提示し、考えを深めるための情報などとして生かすことができる。

(6) 特別活動の各内容と関連させて活用する

特別活動では、特に学級活動における活用が考えられる。小学校においては、例えば、学級活動(2)、とりわけ「希望や目標をもって生きる態度の形成」や「基本的な生活習慣の形成」などで、中学校においては、(2)の「社会の一員としての自覚と責任」「望ましい人間関係の確立」、「望ましい人間関係の形成」に関わる指導などで生かすことができる。また、学級活動

(1)においても、子ども自身が生活上の諸問題の解決や集団生活の向上などを目指した話合い活動、あるいは、協力して楽しい学級や学校の生活づくりに参画する自主的な取組などの中で活用することができる。学校行事においては、例えば、様々な活動の事前指導や事後に体験したことを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動などに、また、動機付けを図る際の題材としても生かすこともできる。児童会(生徒会)活動における自治的な活動や共通の興味や関心を追求するクラブ活動でも、子どもの自発的な取組への動機付けの際などに生かすことができる。

なお、学級活動(1)や、児童会(生徒会)活動などの子どもの自発的、自治的な実践が中心となる活動においては、教師が助言等で補助的に用いるなどして、子どもの自主的、実践的な態度が育まれるよう配慮することが大切である。

(7) 学校、家庭、地域社会の連携を図るために教師や保護者、地域の人々が用いる

「心のノート」には、大人が読んででも生き方を考えることのできるページが多くある。学校で、家庭で、また、地域社会などで子どもと一緒に話し合い、子ども理解を深める題材とすることができる。学年通信や保護者会などで紹介し、大人が連携して活用することも考えられる。

例えば、教師、保護者、地域の人々による連絡協議会や懇談会などで道徳教育について話題にするときに、「心のノート」の内容を提示することによって、道徳教育への共通理解を深めることができる。また、道徳の時間の公開授業での活用、各種通信や地域掲示板での利用等によって、連携をより一層充実させることができる。

(8) その他、各学校間交流の際などに子どもや大人が活用する

各学校同士の交流の際にも、「心のノート」を用いて多様な交流を促すことができる。

例えば、隣接する小・中学校の子どもが互いの意見を交換する際に「心のノート」を生かした話合いをすることが考えられる。また、同じ学年段階の子どもたちが共通のページを見ることができるといった利点を生かし、学校間の意見交流会をもつことも考えられる。

このような場合、子ども同士が互いに高め合うという意識で用いるように工夫することが大切である。また、子どもの個人的な情報の取扱いには十分に配慮しなくてはならない。

3 活用を広げるための課題とその取組

子どもによる「心のノート」の活用が今後一層広がり、充実するようにするための課題としては、例えば、次のようなことなどが考えられる。

(1) 学校としての用い方の方針を決め全教職員で共通理解を図る

「心のノート」は、学校の特色や地域の実態に応じて教育活動全体に生かすことができる。したがって、学校として「心のノート」をどのように生かすかについて、教育方針の一環に位置付けるとともに、学校の全教職員で共通理解を図ることが大切である。

さらに、その方針を受けて、各学年、各学級での具体的な生かし方について検討する。その際、道徳教育推進教師や学級担任等の創意工夫が生かされるようにすることが大切である。

(2) 道徳教育の計画への位置付けをする

「心のノート」は、教師の創意ある用い方があってこそ、子どもの活用が促される。そのために教師は、自由に工夫しながら用いたいという思いがあり、指導計画に位置付けていると制約されるという声も聞かれる。確かに、子どもの実態に応じた多様な用い方は、子どもを目の前にした教師のそのときどきの柔軟な対応に負うところが大きい。

しかし、学校としての用い方の方向に一貫性をもたせ、それを確保するものは指導計画である。また、「心のノート」は2～3年間で共通の内容を用いるために、学年間、学級間の用い方のバランスをとる上でも、計画への位置付けが必要となる。

道徳教育の計画に位置付けるには、例えば、次のような手順を踏むことが考えられる。

- ①道徳教育の全体計画への位置付け……例えば、「心のノート」の生かし方の方針、日常での活用の促し方、道徳の時間での生かし方、家庭や地域社会との連携における生かし方などを位置付ける。
- ②道徳の時間の年間指導計画への位置付け……道徳の年間35時間（小学校第1学年は34時間）の中の一定の主題の学習場面に活用できるように位置付ける。また、教師の創意工夫によって、計画にない場合も柔軟に用いることも考えられる。そのことも含め、用いたときの記録欄を設けることが、次年度に生かされるようになる。

なお、「心のノート」を子どもが複数学年用いる間に、学級担任が変わったり学級編成替えをしたりすることもある。学級によって用い方の特色が出るのは当然であるが、その調整を図ることや次学年への引継ぎ事項とすることが必要になる。

(3) 道徳教育推進教師の役割として位置付ける

平成22年度から、「心のノート」が文部科学省のホームページからダウンロードして用いられるようになったことにより、これまで以上に、校長の方針に基づいた学校としての計画的、発展的な活用が求められる。そこで、学級担任等が適宜ダウンロードして活用するだけでなく、道徳教育推進教師が中心となり、教育方針や教育活動と関連する「心のノート」のページをダウンロードして教職員に配布するなど、積極的に情報提供する役割が求められる。

例えば、次のような機会が考えられる。

- ・年度当初に、自分の特徴を記録できるページ（フェイスシート等）を用い、各学級の自己紹介の機会に生かす。
- ・「あいさつ運動」や「人権について考える週間」など、特定の期間に取り組む活動に関わ

りのあるページを用い、事前や事後の指導に生かす。

- ・懇談会や保護者説明会等の資料として用い、家庭や地域社会との連携に生かす。
- ・全校朝会等の校長講話として用い、教育方針の徹底等の指導に生かす。

道徳教育推進教師は、常時、道徳教育の全体計画や年間指導計画等に目を通し、「心のノート」を用いて、全教育活動における道徳教育の推進、充実に努めることが大切である。

(4) 子どもの思いや子ども一人一人の事情等への配慮をする

「心のノート」には、子どもが自分の心の成長の記録として、心の内を書き出すページや記入欄が多い。したがって、特に小学校高学年や中学校段階の子どもは教師や保護者に見られにくいという思いになることもある。「心のノート」を用いるときには、そのような子どもの心情に配慮する必要がある。例えば、「心のノート」に記述した内容について、子どもが発表し合ったり、見合ったりするときには、子どもに理解や承認を求めることも必要になる。また、あるページを印刷し、その用紙に書いて交流するなどの方法も考えられる。

このように、個別への配慮をしながら、「心のノート」を介して心の対話などが深められるようにすることが大切である。

そのためにも、学級の中で、教師も自己を語る機会をつくるなどして、子どもが感じたこと、自分について考えたこと等が率直に語り合える雰囲気が醸成されるよう努めることも大切である。

(5) 一人一人が違う個性的なノートになるように援助する

「心のノート」は子どもが進んで活用するものであり、子どもや学級によって用い方が異なる。したがって、一人一人のノートの内容も自ずと個性的なものになる。授業の中で、共通の学習ノートの代わりに用いるだけの繰り返しでは、同じところしか書き込まなくなる。そこで、道徳教育推進教師や学級担任等が、事前に文部科学省のホームページからダウンロードした「心のノート」を用意するなどして子どもが自由に用いる環境をつくり、書き込む機会を充実させ、日常の活用につなげることが大切である。

また、記入したからといって、そのページが終わったということではなく、記入をさらに付け加えたり、見直したり、別の紙を貼り込んだりすることも考えられる。「心のノート」を文部科学省のホームページからダウンロードするようになったことから、子どもたちには、そのページをファイリングしながら、自分の個性的なノートが作られるようにするなど、継続的、発展的な活用への意欲を高める援助が必要である。

(6) 校内研修などの資料として生かす

「心のノート」は子どもが用いるだけでなく、教師が研修等に生かすこともできる。

例えば、道徳教育への理解を深めるために、「心のノート」活用のために」や本冊子等を併用して研修する方法が考えられる。また、「心のノート」の内容を参考にした調査項目や質問項目を設定して子どもの実態を捉え、指導に生かす視点について話し合うといった用い方も考えられる。さらに、各学級での子どもの活用の実態や教師の生かし方の工夫などについて、研修の場で報告し合い、情報交換を行うことによって、子どもの活用を促すための創意工夫を広げていくことができる。

参考 「心のノート」の内容の構成

各冊子の構成

「心のノート」は小学校1・2年、3・4年、5・6年及び中学校でほぼ共通の構成をもっている。次の点に着目することによって、内容構成を理解することは、「心のノート」の有効な生かし方を考える手掛かりとなる。

- ①表紙 …………… 1・2年用冊子には、幼児期から児童期になる頃の2人の子ども、3・4年用は好奇心旺盛に体験を広げていく活動的な子ども、5・6年用は中学生への希望をもって空や鳥を見つめる子どもが配置されている。その中には、双葉、若木、大きく成長した木がそれぞれに配されている。中学校用は、たくさんの木の葉を背景に大きな一枚の葉をまん中に配して、それが水に映る様子を図案化している。
- ②自分だけの名前 …… 子どもが「心のノート」を自分の「宝物」として大事にしていくことができるように、例えば自分だけの名前をつけたり、イラストを描いたり、写真を貼ったりすることができるスペースを設けている。
- ③心のノートを開く …… 子どもが自分の悩みや考えたい課題に合わせて、どのような場で活用するとよいのか、イラストや写真を入れ、具体的な活用場面を提示している。
- ④自己像 …………… いわゆる「フェイスシート」と呼ぶことができるページ。子どもが自分の好きなことなどについて書き出していくうちに、自分をより深く見つめることができる。
- ⑤心を見がく・育てる …… 4つの視点ごとに左右の見開きで置かれている。視点ごとに色分けがされており、それぞれ内容項目の全体イメージを表している。
- ⑥各内容のページ …… 子どもが自分を見つめ、自分らしい生き方を考える内容項目の「窓口」。各項目が4ページずつで構成され、例えば、問題提起、役立つ情報の提供、記入枠、メッセージなどがイラストなどとともに構成されている。
- ⑦特設ページ …… 子どもが好きなときに自由に書き留めるページとしている。子どもの継続的な活用への意欲を引き出すのに役立つことができる。
- ⑧寄稿メッセージ …… 「心のノート」のために、特別に寄せられた言葉を掲載している。子ども一人一人の未来に向けて呼びかけるメッセージとなっている。
- ⑨次学年等へ向けて …… これまでの自分を振り返り、次の学校、学年へ向けて、新たな一歩を踏み出す子どもへの励ましやメッセージとなっている。

4冊の「心のノート」それぞれの特徴

4冊の「心のノート」は、それぞれの発達の段階に合わせて、例えば、次のような特色をもっている。

小学校1・2年用

- 寓話的で、夢をもつことができるイラストを中心に、ゆとりのある紙面構成がされている。
- 学校だけでなく、家庭での活用が有意義な1・2年。そのことを考慮し、家庭で話題にしたり、家族に書いてもらったりする欄を多く設けている。
- 繰り返し読むことによって温かな心がふくらみ、自分を大事に思う気持ちがわくようなメッセージを多く置いている。



小学校3・4年用

- よりよくなるようとする意欲がわく言葉や、道徳の内容をわかりやすく捉え、自覚を高めるための視点となる言葉を多く置いている。
- 3年と4年に分けて計画的に書くなどして、長期的に振り返ることのできる記入欄を多く設けている。
- 家族とともに話し合ったり、家族に取材したりして書き込むことのできる記入欄や、疑似体験的に書き込むことのできるページなどを多くしている。

小学校5・6年用

- ページごとに情報量や文字の大きさなどに変化をつけ、子どもを引きつけるレイアウトになるよう工夫している。
- 高学年段階の発達を捉え、子どもの知的好奇心を強め、問題意識を高めることのできるような問い掛けや投げ掛けを多く置いている。
- 自分なりのやり方、こだわり、やりたいことを率直に書き出すことのできる記入欄を多くしている。



中学校用

- 子ども一人一人が、それぞれ直面する課題や悩み・葛藤などをもとに、人間としての生き方について自問自答しながら考えを深めることができるように構成している。
- 自己の生き方を考える参考となるような格言や箴言しんげんを多く掲載している。
- 「コミュニケーション」や「生命」などについて、多様な視点からより深く考えることのできるようなページを特設している。

第2章 「心のノート」の 効果的な活用の 実際例



- 1 学校や家庭の日常生活での活用…………… 18～33
- 2 各教科での活用…………… 34～55
- 3 道徳の時間での活用…………… 56～75
- 4 外国語活動での活用…………… 76～77
- 5 総合的な学習の時間での活用…………… 78～81
- 6 特別活動での活用…………… 82～93
- 7 家庭や地域社会との連携等での活用… 94～99



「心のノート」中学生用『自分の人生は自分の手で切り拓こう』のイラストより

朝や帰りの話合いで活用する

1 学校や家庭の日常生活での活用

本場面におけるポイント

- 日常の活用を広げるきっかけとして
話合ひの中で「心のノート」のページを話題にすることで、子どもが「心のノート」に親しみ、日常での活用の幅を自由に広げることができる。
- 一日の生活への前向きな気持ちをもつために
朝のすがすがしい気持ちを高める生かし方、一日を気持ちよく締めくくる生かし方などを工夫する。
- 継続的な振り返りの機会として
朝や帰りの話合ひの機会をつないで継続的に用いることで、子どもが自分の考えや行動の変化などに気付く。



● 「心のノート」を活用した朝や帰りの話合ひ（5年）

第5学年のある学級では、朝と帰りの話合ひを以下のように展開している。学級の子どもは、配布された「心のノート」をファイルに綴じておき、自分で管理している。また、一度扱った「心のノート」のページは、印刷して教室に置いておき、自由に持っていけるようにしている。併せて、教師が朝や帰りの会の話合ひで「心のノート」を自由に使えることを語ることによって、活用の幅を広げるようにしている。

- ### 朝の話合ひの活動
- 1 あいさつ
 - 2 出欠確認・健康調べ
 - 3 1分間スピーチ
 - 4 モーニングタイム
*火曜日の朝に「心のノート」に書き込む時間を設定している。
 - 5 先生からの話

● 1分間スピーチの話題を「心のノート」の中から見つけたり、スピーチの際に「心のノート」を用いたりする工夫を助言する。

● 学級全員が「心のノート」を一緒に開いて、各自が自由に見たり書き込んだりする日を週1回つくる。



「心のノート」を使ってスピーチをする子ども

- ### 帰りの話合ひの活動
- 1 今日の日
 - 2 よいこと発見
 - 3 係や日直からの連絡（くわ）
 - 4 先生からの話
 - 5 あいさつ

● 一日を振り返るときに、「心のノート」をきっかけにすることができることを伝えておく。

● その日の子どもたちの生活の様子を把握し、明日からの生活に希望がもてるような話をするとともに、「心のノート」の内容を生かすこともある。

週1回の「モーニングタイム」に「心のノート」を活用することによって、その時間だけでは書けなかったことを休み時間や放課後の時間を使ったり、家に持って帰ったりして書く子どもが増えてきた。朝の時間が、子どもにとって「心のノート」の活用に見通しをもったり、自分自身を見つめたりする時間になっていると感じられた。

生活の節目で生かす「心のノート」が、一日の意欲を高める

また、「1分間スピーチ」のときの話題が見つかりにくい子どもに、「心のノート」からヒントを見つけてみようとして投げ掛けた。すると、「心のノート」を手にしながらかスピーチをしたり、一日の振り返りに「心のノート」を生かしたりする子どもも見られるようになった。なお、右のような手引を用意して子どもに働き掛けることも考えられる。



「心のノート」をこんなふうに使おう

朝の会

例 「心のノート」を使った1分間スピーチ

- 1 「心のノート」の○ページを開いてください。
- 2 ここには、…が書いてありますが、わたしはこう考えます。それは、…。
- 3 何か質問はありますか。

帰りの会

例 「心のノート」を使った今日の振り返り

■ 今日、こんなことがありました。「心のノート」に、…と書いてありますが、わたしはこう思いました。…。

● 「心のノート」を読んだり書いたりする「心の時間」を設定（1年）

1年生のある学級では、1週間が始まる月曜日の「朝の会」を「心の時間」とし、子どもが、「心のノート」に触れることができる機会を設けている。1・2年生用P.12「ここにこしているかな」、P.13「むねをはっていこう」、P.14～15「気持ちのいい一日」など、自分の生活を見直したり、目標を設定したりするのに適したページがある。子どもたちは、「心の時間」に、「心のノート」を開いて、1週間の目標や頑張ってみたいことを自由に記入している。また、「心の時間」には、担任が子どもの書いた記述内容に寄り添ったり、共感したりしながら、子ども一人一人と対話することを大切にしている。それにより、目標設定を苦手としている子どもや何を書けばよいのか困っている子どもに対応することができる。



これまで記入したところからもう一度書いてみたい部分を選んで、新たに記入している子ども



1週間の目標を決め、「心のノート」に記入する子ども



自分が記入したページについて、友達と交流する子ども

朝の読書タイムで活用する

本場面におけるポイント

- 自己の生き方を考えるきっかけとする
傍らに「心のノート」を置き、読書を通して感じたり考えたりしたことを思い思いに記入することで、自己の生き方について考えることができる。
- 読書への興味・関心が喚起される
「心のノート」には多くの名作からの言葉が紹介されている。その言葉をきっかけに、読書への興味・関心が喚起される。
- 生き方についての考えを広げ深める
「心のノート」に記入した読書記録を掲示することで、より多くの人と間接的な意見交流が可能になり、生き方についての互いの考えを広げ、深めることができる。



● 自由な読書での活用事例

子どもが好きな本を毎日継続的に読む朝の読書タイムで、「心のノート」を常に手元に置いておくようにした。子どもたちは、読書をしながら好きなときに「心のノート」を開いて、以下の2通りの方法で記入していた。

- ① 中学校用P.139「私が出会った言葉／心に響いたあのひと言」のページに、読んでいる本から言葉を選び、書き留める。
- ② 自分が感じたり、考えたりしたことを、その内容に該当するページに書く。

子どもの記入例(②感じたり考えたりした内容に該当するページに記載した例)

多くじけそうなときどうする?
目標に向かって努力しようとしたが、なかなか思うように進歩しないとき、人はだれでもくじけそうになるものだ。— そんなとき、何が必要なのだろうか。

「スロークラブをもう一球(山崎潤司)を読んで、「オリンピックに出たい」という気持ちを持ち続け、練習を続けている主人公の努力に感動しました。僕は今、バドミントン部で目標をもと取り組んでいます。改めて、もっと努力が必要だと思いました。

中学校用P.24

楽しいこともあればくじけくしくすることもある友達関係。ワイワイガヤガヤしているのは仲のいい証拠。でも、自分がつまづいたときや落ち込んだときにそっと力をくれる、そんな友達がいるとうれしい。生涯のたからものはきっとたくさんあるけれど、友情もそのひとつに違いない。そんな友情にもう出会っていただろうか。友情のぬくもりに触れたとき、あなたの思いを書き込んでみよう。

「タイムマシン」(H.G.ウェルズ)を読んで主人公と出会った未来人の友情は、生涯の宝物になったと思えました。私もあのようい友情をつくっていかたいなと思えました。

〇〇年△月□日

中学校用P.53

読書の傍らにある「心のノート」が、生き方を考える手助けとなる

● 課題読書での活用事例

- ① 指定された共通の読み物を読む読書タイムでは、小説、説明文、論説文、随筆、ノンフィクション、詩など多様な内容が選ばれるが、その読書の記録として、**中学校用P.139「私が出会った言葉／心に響いたあのひと言」**のページを配り、読んでいる本から言葉を選び書き留め、読書ファイルに綴じさせた。
- ② 「心のノート」の中にも数多く、名作からの言葉が引用されている。朝の読書タイムで、数回に分けてその作品を紹介した。その内容を含んだ「心のノート」の該当ページを配り、感じたことや考えたことを記入し、ファイルに綴じさせた。



例) サン・テグジュペリ『星の王子さま』 中学校用P.12~13

● 読書記録での活用事例



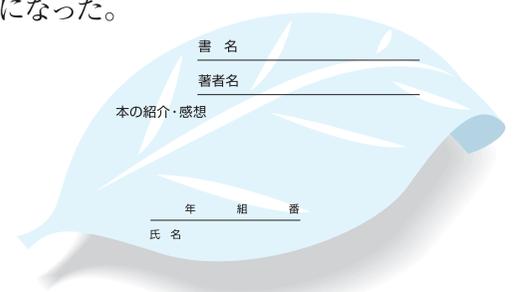
新しい本との出会いのきっかけは、他の人からの紹介によることも多い。そこで、「中学生の間に会いたい4つの木(枝)」として掲示板「読書の木」を作成し、葉の形をした用紙に読書記録を記入させ掲示した。

日々の読書での記録は読書ファイルや**中学校用P.139**に記入しておき、学級活動や朝の読書タイムなどで定期的に「まとめの時間」を設定し、用紙に記入した。

4つの「読書の木(枝)」に、内容項目を表す「心のノート」**中学校用P.14~15「生きる—自分を見つめ伸ばして」、P.40~41「出会い—思いやる心を」、P.70~71「大自然—この星に生まれて」、P.88~89「自由—社会に生きる—員として」**の各ページを掲示しておき、自分の読書記録を4つの視点に照らし合わせて提示させた。

子どもたちはいろいろな人の感想を読むことで、その言葉をきっかけに読書への興味・関心が喚起された。また、「読書の木(枝)」を通して出会った本を読んで、自分はどうか考えたかを花や木の実の形をした追記用の用紙を使って、段階的に記入し掲示していく形をとることで、広がりのある学年の枠を越えた多くの人との交流が可能になった。

留意点 読書ファイルに、**目次、中学校用P.10~11「いまここに24の鍵がある」**をはさませておくことで、分類をする際の助けとなる。掲示スペースや取組を行う規模によって(学級・学年・学校)、「読書の木」「読書の枝」を工夫して使い分けるとよい。また、図書委員会の読書キャンペーンや国語科の読書指導とも連携した取組が可能である。



休み時間や放課後の時間に活用する

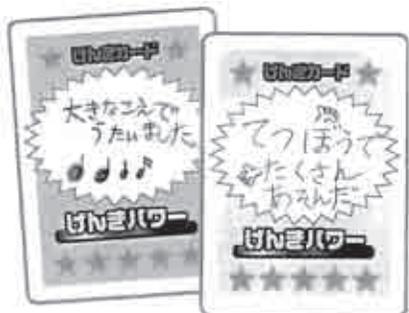
本場面におけるポイント

- **新たな考えを付け加える**
これまで書いてきたものを読み返し、自分の考えを振り返ったり新たな考えを付け加えたりする。
- **読み物として楽しんで読む**
休み時間や、放課後の時間などに、読み物の一つとして楽しんで読む。
- **友達や他の人との交流に生かす**
友達、上級生、身近な大人などと話題にして、心のつながりを広げる。
- **相談するときに生かす**
困っていることや悩んでいることを相談するときに生かす。



● 休み時間に「心のノート」を自由に開いて書き込む

1年生のある学級では、1・2年用P.56～59「みんなみんな生きてるよ」の中にある「げんきカード」が画用紙に印刷されて、教室に置いてある。「心のノート」にある2枚のカードを書き終わった子どもから「もっとたくさん作りたい」という声が出たのを受けて、教師が用意して置いたカードである。



1・2年用P.55を生かした「げんきカード」

子どもは物を集めるのが好きである。思い付いたときに書き込んで、色をきれいに塗って、「げんきパワー」をためていく子どももいる。

また、友達と一緒に思い切り遊んだ後に、1・2年用P.46～47「ともだちパワーをあつめよう」のページを広げて、友達からもらったうれしい言葉を書き込む子どももいる。教師は、より多くの子どもがそのページに書き込みたくなるように、機会を捉えて助言したい。

● 異学年の交流の機会に「心のノート」を生かす

ある学校では週1回「異学年集団のグループで遊ぼう」という活動を進めている。その中の一つのグループは、雨の日、高学年の子どもの呼び掛けで、「心のノート」の最後のページ「心のアルバム」(1・2年用)、自由黒板(3・4年用)、わたしのページ(5・6年用)をそれぞれ持って図書室に集まった。

そこで、自分の「心のノート」に書かれていることを交流する子どもたちの姿が見られた。また、低学年の子どもの中には、1・2年用P.87「みんなでできることをさがそう」を教師に印刷してもらい、上級生に書き込んでもらう場面もあった。

「心のノート」を異学年の子どもが互いに紹介し合う機会は、子どもの「心のノート」への興味を一層高めることになる。



「このページを一緒に読んでみよう」

休み時間や放課後などの自由な活用で自分を見る目を広げ、深める

● 友達と一緒に楽しむための題材を「心のノート」から見つける



子どもが進んで生かした「心のノート」のページ

子どもたちは、「心のノート」に日常的に親しみながら、そのページの内容の中から遊びのための題材を見つることがある。ある学校の4年生では、次のような子どもの様子が見られた。

◇3・4年用P.98～99「季節を感じる心をみがこう!」のページに書き込む中身を見つけるために、昼休みに秋探しに行った子ども。

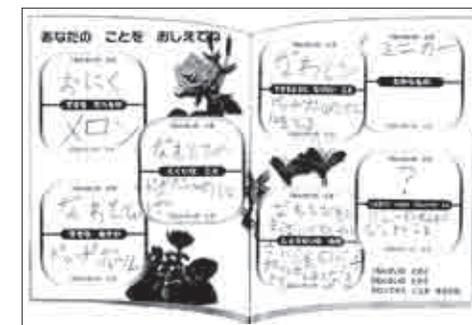
◇P.19「やりとげられたら金メダル」のページで、実際がんばり抜いたときの自分に自分からあげるための金メダルを紙で作る子ども。

◇P.38「心がかよい合う「あいさつの言葉」」のクロスワードパズルを見て、他の種類の言葉で別のクロスワード作りを始めた子ども。

● 身近な大人に「心のノート」で自分のことを紹介する

2年生のある子どもは、毎朝、「おはよう、車に気を付けて。」と声を掛けてくれる交通安全指導員と親しくなった。

そこで、自分のことを知ってもらおうと、1・2年用P.8～9「あなたのことをおしえてね」のページを教師に印刷してもらって、自分のことを伝えていた。子どもは、「おじさんから小さかった頃のお話をしてもらった。」と喜んでいた。



1・2年用P.8～9の「あなたのことをおしえてね」

● 「心のノート」を子どもと教師の「交換ノート」として活用する(3年)

3年生のある学級では、「心のノート」の様々なページをあらかじめ印刷しておき、子どもたちが、自由に手にすることができるようにしている。また、書いたものをファイルに綴じておき、このファイルを子どもと教師の「交換ノート」として活用している。子どもは、「心のノート」のページから書きたいところを自由に選び記入する。そして、希望者は、書いたページを教師に提出する。教師は、子どもが記入したところにコメントを書いて返却する。



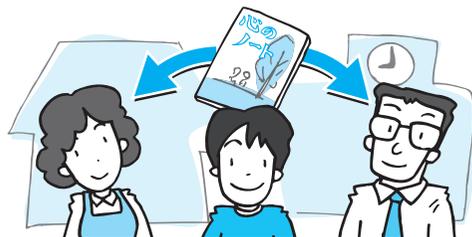
この取組により、教師は子どもたちの様々な考えを知る手掛かりとなり、児童理解へつなげることができるようになった。また、子どもたちにとっては、「心のノート」がより身近な存在へと変わり、自分の考えを表現する一つの手段となった。

家庭と学校の往復の中で活用する

1 学校や家庭の日常生活での活用

本場面におけるポイント

- 「心のノート」の柔軟な活用を広げる
家庭と学校の両方で話題にしなが、
「心のノート」のページに一層親しみ、柔軟に活用する。
- 関わり合う力を高める
それぞれの関わりを通して、コミュニケーション能力などが育まれる。
- 保護者と教師のネットワークをつなげる
子どもの心の成長についての保護者と教師の共通の関心となり、家庭と学校との連携に役立てることができる。



● 学校で話題にし「家でも話し合ってみよう」と呼び掛ける

3年生のある学級では、交流会で高齢者に様々にお世話になった日の帰りの話合いで、3・4年生用P.51「わたしの「ありがとう」」をプリントアウトして配布し、詩「朝がくると」(まどみちお作)を読んだ。「この詩を読んでどんなことを感じるかな。」と投げ掛けると、子どもは、

「ほかにも、自分が作ったのでもないものがたくさんある。」と言い、例えば、お店、公園、遊ぶときのボールなどを次々と挙げた。

そこで、詩を読んで感じたことを家で書いておくことを勧め、「ぜひ、家の人と一緒にこのページの詩を読んでみよう。」と呼び掛けた。その次の日、書き込んだ感想を見せてくれる子どもや、家で話し合ったことを伝えてくれる子どもがいた。例えば、家の人から左のようなことを話してくれたと伝えられた。



「お母さんだって自分で作ったものがないのがたくさんあるわね。感謝しなくては。」

「自分が作ったものだけで暮らそうとすると、原始人みたいになってしまうね。」

「朝ごはんをたまには、○○が作ってみるのもいいね。」

● 「心のファイル」を作って家庭と学校をつなぐ

5年生のある学級では、子どもが持ち帰ったページをファイリングしていくためのファイル(8ツ切色画用紙を二つ折りにしたもの)を作った。子どもは、それを「心のファイル」と呼んで、家に持ち帰るときや、学校に持ってくる時に活用している。

例えば、勤労感謝の日の前日の帰りの会で、5・6年生用P.92～93「働くってどういうこと?」のページを配布して「家の人にはなぜ働いているのかな。」と問い掛けた。

すると子どもたちは、次のように思い思いの意見を出した。「家族が生活するため。」「お金をためて何かを買うため。」

そこで、担任が「お金も大事だけれど、それだけでしょか?『勤労感謝の日』に家の人と『働く』ということについて話し合ってみましょう。」と投げ掛けた。

祝日明けは、家の人から聞き取った「働く」ことの意義について、楽しそうに交流していた。



家庭と学校の間での心のキャッチボール

● 「心のノート」を使って保護者の思いを集め、学級通信を作る

4年生のある学級では、総合的な学習の時間の「1/2成人式」とからめて3・4年生用P.80～81「わたしの成長を温かく見守り続けてくれる人…家族」のページを配布し、話し合った。その後、「学級通信作りに協力してほしい」と呼び掛け、保護者にP.83のページへの書き込みをお願いした。

担任は、集めたページを整理し、学級通信で「保護者の声」として紹介し、担任の思いもあわせて掲載した。

「1/2成人式」保護者からのメッセージ

- 元気に大きくなったね。
- もうお母さんの背を抜きそうです。
- いろんな思い出ができましたね。
- あっという間の10年でした。
- これから健康でいてね。
- かっこいい大人になってね。

みんな立派な1/2成人に成長しました。次は10年後、楽しみですね!

● 「心のノート」の感想を保護者会で交流する

ある3年生の学級では、保護者会の場で、子どもが持ち帰って保護者とともに書き込んだP.96～P.97「こんなことをしたらわたしははずかしい」についての感想を出し合っていた。

その際、保護者会のテーマや話し合ってもらいたい内容に応じて「心のノート」のページを拡大して黒板に貼り、書き込んだ内容や子どもと語り合った内容を基に、話し合いを進めた。左のページで紹介した「心のファイル」を活用している場合は、保護者一人一人が自分の子どものファイルを見ながら進めると効果的である。



3・4年生用P.96～97

ご家庭で大切にされている決まりについて、話し合ってみましょう!



保護者会で出てきた声

◇子どもと一緒に話し合う機会になりました。

◇そのきまりは、私も書きこみました。同じですね。

◇新たに加えたいきまりがありました。早速話をします。

◇一度決めたきまりは、家族みんなで徹底することが大切。

留意点 子どもには、それぞれ様々な個別の事情がある。そのことへの配慮を欠かさないようにすることが大切である。

学校・学級掲示板上で生かす

本場面におけるポイント

- **学校・学級掲示板上を大いに利用する**
「心のノート」は大判で印刷することができ、カラフルで子どもにとってもなじみやすいので、掲示板等での利用にも適している。折々の生活や課題意識に関連したページの掲示は、子どもたちの道徳性を養う上で大いに有効である。
- **目に触れる機会を増やす**
子どもたちが様々な情報を求め意識的に目を向ける学級掲示板等の素材に生かすことで、「心のノート」が目に触れる機会も増え、活用を促すことにつながる。また、多くの来校者の目に触れることによって、学校における道徳教育の取組について保護者や地域の人々が理解を深め、学校と家庭や地域社会との「心の架け橋」となる。
- **意見交換の場ができる**
一方的なメッセージの掲載だけでなく、子どもたちの声を聞いたり、子ども同士の意見交換に生かしたりする。

● 学校行事や学級の実態を意識した活用事例

ある学級では合唱コンクールを間近に控えた10月、**中学校用P.90～91, P.104～105**の見開き2ページずつ計4ページを掲示した(下写真)。

実はこの学級では、合唱の事実上のリーダーとなる指揮を担当した子どもが、学級をまとめようとするあまり、クラスメイトに多くを求めすぎ、その子どもと他の子どもとの関係がギクシャクし始めていた。そんなとき、その子どもが学級担任との話合いの中で次のようなことを言ったのである。



(「心のノート」の掲示を見て)
私は一人ががんばり過ぎていたかもしれないと思う。自分は一人じゃない。もっとみんなに頼ってみよう。

それからは、合唱練習の中で曲を自分のイメージに近づけようとするよりも、クラスメイトの意見を取り入れ、みんなで一つの曲を作り上げることを心掛けた。

練習は活気を取り戻し、よい雰囲気の中、合唱コンクール当日を迎えた。結果は目標の優勝には届かなかったものの、子どもたちの表情はさわやかであった。

学級掲示板上に掲示した「心のノート」が、学級の中で孤立しかけていたこの子どもを救うとともに、よりよい集団をつくるきっかけになったといえる。

子どもに訴えかける学校掲示,子どもが見える学級掲示

● 課題作文に活用した事例

1年生のある学級では、毎週末、作文の課題を出している。中学生にとって自分の考えを表現することは大切なことであり、同時に難しいことでもある。その表現の方法として自分の思いを文章にして記述させているのである。この作文の題材探しに「心のノート」を生かしてみた。事前に教師が題材となりそうな「心のノート」のページを学級掲示板上に掲示し、子どもが自分の心に留まったものについて自由に思ったことを書かせたのである。子どもたちはそれらのページをきっかけに様々な内容について作文を書いた。作文の中から子どもの理解を得ていくつかを学級掲示板上に掲示したことにより、子どもたちの興味・関心は多様な方向に広がった。

次の文章は、ある子どもの作文である。

～自分の個性を伸ばそう～

先日、学校で「心のノート」の掲示を見ていたら、「あなたらしさがあなたの個性」というところが目に留まりました。自分の中にあるよいところ、改めたいところに、さらなる磨きをかければ、自分の個性はきっとよりよく伸びる、というような内容でした。

私は自分のことについて考えてみました。私には「理屈っぽい」という面があります。無意識にも人の嫌がることを言っているのでは…と思い、直さなくてはとっていました。しかし、これを読んだ後、あまり悪いように考え過ぎずに、よい方向へ考えてみようと思いました。すると、この理屈っぽいところも生かせば私は「人を納得させる」ことができるのではないだろうかと思ったのです。この他にもいろいろな自分の悪い面をよい面としていけたらよいかなと思いました。



中学校用P.36～37

● 委員会活動の中での活用事例

ある学校では、生徒会活動の中の委員会の一つである保健委員会が、**中学校用P.18～19, P.20～21**「元気ですか あなたの心とからだ」の見開き2ページずつ計4ページを掲示した。自分たちのアイディアで、朝ごはんアンケート結果もあわせて掲示した。



● 様々な時間での記述を掲示した事例

子どもたちが様々な時間に「心のノート」に記述した内容を掲示した。授業の中で十分に交流しきれなかった子どもたちの意見や疑問を紹介するよい機会とすることができた。

なお、掲示による意見交流を考える場合は、そのことを子どもたちに伝えるようにする。また、関連する「心のノート」のページや授業で使用したワークシート、通信、子どもたちの写真などを掲示することにより、教育活動全体を通じて行う道徳教育の指導の充実につながる。



中学校用P.110への記述内容を掲示

家庭で家族と共に活用する

1 学校や家庭の日常生活での活用

本場面におけるポイント

- **自分をゆっくりと振り返る**
ページを家に持ち帰り、書き込んだり、家族と話し合ったりして、自分をじっくりと見つめる。
- **自分の新しい面を知る**
家族との話合いの中で、自分の知らなかったことや新しい面を発見する。
- **家族の中の自分の立場を感じる**
家族新聞などを一緒にまとめるなどして、家族の中でかけがえのない一人としての自分を感じ、家族を愛する思いを強める。



● 家族に「心のノート」を知ってもらう(4年)

4年のある学級では、新年度の初めに、「心のノート」のURLと「もくじ」をプリントし、「心のノートだより1号」として配布した。

「心のノート」だより 1号

心のノートをひらいてみよう 1-5
そっと自分に聞いてみよう 6-7
心をみが大きく育てよう 8-9

かがやく自分になろう

ふみ出そう ひとり立ちへのたしかな歩み 12-15
「きまりよくなりた」という心をもとう 16-19
勇気を出せるわたしになろう 20-23
自分に正直になれば、心はとてもしなくなる 24-27
自分のよいところはどこだろう? 28-31
*いまの自分もみがこう みんなの中で自分を生かそう 32-33

人とともに生きよう

礼儀 形を大切に心をかよわせよう 36-39
思いやりの心をさがそう 40-43
ひとりじゃないからがんばれる 44-47
みんなにささえられているわたし 48-51
*喜び合い ささえ合い 助け合い 52-53

3・4年生「心のノート」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1302316.htm

いのちを感じよう

54-67
生きているってどんなこと 56-58
植物も動物もともに生きている 59-63
自然の美しさみふれて 64-67
*たつたりとつわたしのいのち だからかがやいて生きる 68-69

みんなと気持ちよくすごそう

70-95
やくせやくまきまりを守るから仲よく生活できる 72-75
みんなのために通すあせはとも美しい 76-79
わたしの成長を温かく見守り続けてくれる人―家族 80-83
学校はどこなところ? 84-87
わたしたちの心を育ててくれるふるさと 88-91
わたしたちの国の文化に親しもう 92-95
*こんなことをしたら わたしははずかしい 96-97

季節を感じる心をみがこう! 98-99
みんなのことを知ろう 自分を見つめてみよう 100-104
自分をふりかえって考えよう これからの自分 105-108
道とくの時節で見つけた たからもの 109-112
心に残したい言葉 113-117
自由黒板 3年 118-119
自由黒板 4年 120-121
また、新しい春が来た 122

「心のノート」は、子どもと共にいろいろなことを話し合えるものです! いろいろな機会に、様々なページを持ち帰ります。お楽しみに!

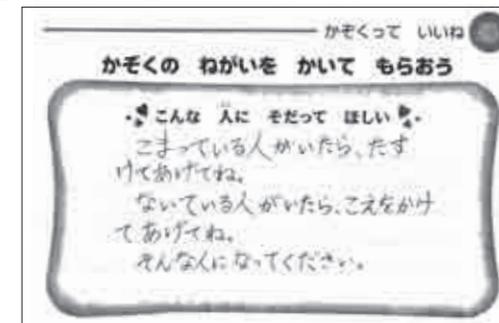
上のアドレスから全てのページを見ることができます。

- ◇ 学校生活の様々な機会に応じて、タイムリーなページを持ち帰らせ、家庭で話し合ってもらえるようお願いをした。
- ◇ 持ち帰る機会や書き込みを集めた際に、担任の思いや家庭で話題にしてほしいことを「『心のノート』だより」としてメッセージを発信することも有効である。

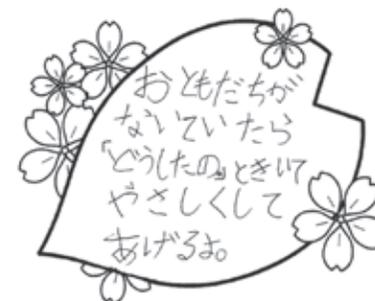
家族との話合いの機会をつくり、心を膨らませる

● 保護者から子どもへのメッセージに返事を書くことを促した事例(1年)

1・2年用P.80～81「かぞくが大すき」の中に「こんな人にそだってほしい」という保護者から子どもへのメッセージ欄がある。1年生のある学級では、家庭での関わりを一層深めてもらいたいと考え、このページを印刷して子どもに持ち帰らせ、保護者にそのページに書き込んでもらうように依頼した。



保護者からの「こんな人にそだってほしい」



子どもから保護者へのメッセージ

ページが集まってきたところで、保護者の願いを整理してまとめ、「おうちの人は、みんなにどんな人になってもらいたいのかな?」と話題にし、様々な保護者の願いを紹介した。

その後、返事を書きたいという子どもの声をもとに、子どもから保護者へのメッセージカードを作って配布した。

● 子どもが家族の中で自分の居場所を確かめる「家族新聞」(5年)

5年生のある学級では、5・6年用P.96～99にある「わたしの原点はここにある」の中のP.99「家族新聞」を書いてみないかと提案した。興味をもった数名の子どもが「家族新聞」作りに取り組み、朝の会のスピーチなどで楽しそうに紹介する姿が見られた。

◆ 家族新聞を書いた子どもの感想

「〇〇家のユーモア新聞」を書きました。はじめは、ちょっとめんどろかなと思ったけれど、お母さん、お姉ちゃんといっしょに書いていたら、だんだん面白くなってきました。お父さんに見せたら「これは楽しい新聞だね」と言っていました。



ユーモアたっぷりの家族新聞▶

◆ 家族新聞を書いた家族の感想(連絡帳より)

きのうの夜、娘たちと新聞を書きました。「わが家のニュース」「わが家のベスト5」などを考えていくうちに、不思議なくらいに盛り上がりました。こんなことを話し合ったのは今までなかったように思います。すぐに「第2号も作ろう」という話がまとまりました。

日常生活での活用を促す

本場面におけるポイント

●オリエンテーションを実施する

日常生活の中で「心のノート」が自主的に活用されるためには、その意義、内容、使い方、保管方法、提出の有無などについて十分な理解が得られることが大切である。

●継続的な活用が促されるように工夫する

「心のノート」が継続的に活用されるためには、関心をもつテーマについて一定期間取り組んだり、振り返りの場を設定して自己の成長や変容を確かめたりする機会をつくることが大切である。



●子どもに対するオリエンテーションの事例(第1学年)ー裁量の時間を活用してー

活動の概要「心のノート」を開いてみよう(まとまった時間がとれないときは、分割して実施する)

主な活動例	指導援助の方法及び留意点	期待する子どもの姿
<ul style="list-style-type: none"> ・担任が準備したアルバムを見たり、思い出に耳を傾けたりする。 ・「心のノート」のファイルが配布され、しばらくの間、自由の中を見る。 ・班ごとに、自分が一番気に入ったページとその理由を紹介し合った後、学級全体でも交流する。 ・どんなときに活用したいか各自でインデックスを付ける。 ・自分たちの「心のノート」に関する考えや要望を出し合いながら、約束事を確認する。 ・思いを込めて「心のノート」に名前を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任自身のアルバムを示しながら、いくつかの写真について思い出やそのときの気持ちを語る。 ・心のアルバム、心のポートフォリオなどの言葉を使い、関心を高める。 ・「こんなことがあったときに」「こんな気持ちになったときに」「こんな時期に」の観点で分けて板書する。 ・インデックス、付箋紙等を準備しておく。 <p>《約束事の例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常にかばんに入れておく。 ・自由に記入してよい。 ・授業で一斉に使うこともある。 ・見られたくないページがあればその気持ちを尊重する。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・成長や思い出を記録しておくことの意義に気付き、関心を高める。 ・期待をもって「心のノート」のファイルを受け取り、興味のあるページを読む。 ・活用のきっかけをイメージする。 ・日常生活の中で、読んだり、書き込んだりできそうなページを意識する。 ・使い方、保管の仕方、提出などについて理解するとともに、活用への意欲を高める。

子どもの意見・感想から

「このころ両親とけんかになり、頭にくることが多い。そんなとき「家族だからこそ」を読むと少しは素直になれそう気がする。



中学校用P.112~113

中学校用P.142



・卒業式が近付いたら、友達に「新しい出発」のページに書いてもらいたい。

日常生活での自主的・継続的な活用を促すために

●各自がテーマを決めて一定期間取り組んだ事例

「心のノート」についてのオリエンテーションを実施したところ、子どもそれぞれに、今、関心をもっている内容項目があることがわかった。そこで、その発展として一ヶ月程度それぞれがテーマを絞って取材や書き込みを行うことを試みた。

本実践を通して、子どもは「心のノート」を身近な存在として意識するとともに、日常の体験を道徳的価値に照らして見つめることができるようになってきた。「心のノート」は、気付いたこと、感じたことを自由に書き込んでいくことが基本であるが、ときには自分が悩んでいることや疑問に思っていることに焦点を当てて、一定期間取り組んでみるのも効果的である。

次に示すのは、発展途上国の現状と日本の役割に関心をもっていた生徒の記述である。

●異文化に接した経験、そして考えたこと

中学校用P.129

300円あれば貧しい国の何人もの子どもたちに予防接種ができるというコマーシャルを見た。日本人は、今のようないたくな生活をしていていいのだろうか。

○年□月△日

テレビで、モンゴルの砂漠に命がけで木を植えようとしている遠山さんが紹介された。すごいと思った。はじめは協力してくれなかった地元の人たちが手伝うようになり、「日本人に感謝している。」と言ったのがとてもうれしかった。

△年○月□日

●自分の成長や変容を振り返るときに活用した「振り返りシート」の例

先のような取組だけでなく、一定期間ごとに「心のノート」を読み直し、自分の成長や変容を確認することが大切であると考え、次のような「振り返りシート」を作成した。

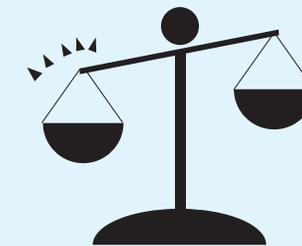
「心のノート」を使って最近の自分を振り返ってみよう

2 最近、あなたの心が動いた出来事は何ですか。

1 最近読み直したり、書き加えたりしたページはどこですか。

3 最近、ものの見方や考え方が変わったことは何ですか。

4 最近、家族や友達との話の中で話題となったページはどこですか。



5 最近の自分を一言で言うと、次のうちどれに近いですか。

- ・輝いている
- ・疑問をもっている
- ・悩んでいる
- ・迷っている
- ・努力している
- ・考え直している
- ・感謝している
- ・その他

名前

記入日

長期休業で活用する

本場面におけるポイント

- **地域への興味や関心**
地域を多様な視点で見て発見するときに様々なヒントや視点を与えてくれる。
- **自分らしさの発見**
ゆとりの中で自分の好きなことや自分らしさなどを探すときに生かすことができる。
- **課題発見の手掛かり**
長期休業中にやってみたいことや挑んでみたいことを見つける手掛かりとなる。



● 長期休業前に、自分の生活を振り返ってみよう

長期休業は、生活のリズムを整えることや学習の計画を立てることなど、丁寧な指導が必要である。その際、「心のノート」のページを活用することが効果的である。

3年のある学級では、夏季休業の事前指導で、P.12～13「ふみ出そう ひとり立ちへのたしかな歩み」を配布し、1学期にできるようになったことを話し合い、成長を認め合った。そして、夏期休業の課題とあわせてP.15「自分がもっとかがやくために」のページを配布し、気が抜けてしまいがちな長期休業中の目標を考えさせた。子どもたちは、次のようなことを書き込んで持ち帰った。

- 冷たいものを食べすぎない。 ○宿題は毎日コツコツする。 ○早ね早おきをする。
- きまりを守って仲よく遊ぶ。 ○家の仕事を1つ選んでやってみる。

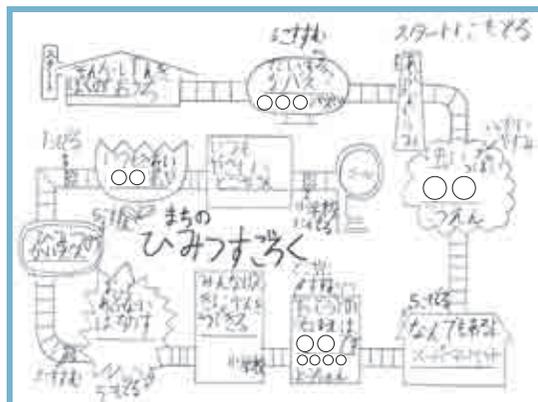
※1・2年用 (P.92～93), 3・4年用 (P.96～97), 5・6年用 (P.112～113) を用いて休み中のルールやマナーについて考えさせることも有効である。

● 「心のノート」を手掛かりに自分の課題を見つけて取り組んでみよう

例1 「ふるさとすごろくづくり」(2年)

長期休業に入る前に、1・2年用P.88～89「あなたがそだつまち」を一緒に読んで、自分の地域に関心に向ける機会をつくることも考えたい。

例えば、「休みの間に、地域の様々なところに出掛けて、いいなと思う場所を見つけてみよう。カードなどにメモしておく面白いわ。」などと伝える。P.90～91の新聞作りのページについても、「楽しみながら作ってみよう。」と配布することも考えられる。そのとき、「心のノート」の中に紹介されている施設、環境、人物などが参考になることを助言する。



楽しんで作った「まちのひみつすごろく」

ある子どもは、このページを使って「まちのひみつしんぶん」を作り、さらに左図のような「まちのひみつすごろく」を作ってきた。そして、休み明けに、学級で、そのすごろくを実際に活用して楽しんでいた。

このような活用は、中学年の場合、3・4年用P.88～91「わたしたちの心を育ててくれるふるさと」を生かして進めることもできる。

このような活用は、中学年の場合、3・4年用P.88～91「わたしたちの心を育ててくれるふるさと」を生かして進めることもできる。

自分自身と家庭・地域を結ぶ「まち発見」「自分発見」

例2 「不思議を調べよう～ぼく・わたしの課題研究」(6年)

5・6年用P.28～31「好奇心が出发点」のページは、子どもの「不思議だ」「便利だ」などと感じた体験を思い起こさせ、知的好奇心を呼び覚ます。

そこで、長期休業の前などに、P.29の「考えよう くふうしよう」のメッセージを教室で一緒に読んで、「同じようなことを感じたことがありますか。」と問い掛ける。すると、子どもは疑問や便利さを感じた体験などを話し始める。さらにP.31を配布して「思いついたことを一つ書いてみよう。」と投げ掛ける。そのことによって、調べてみたいこと、挑んでみたいことなどが引き出される。

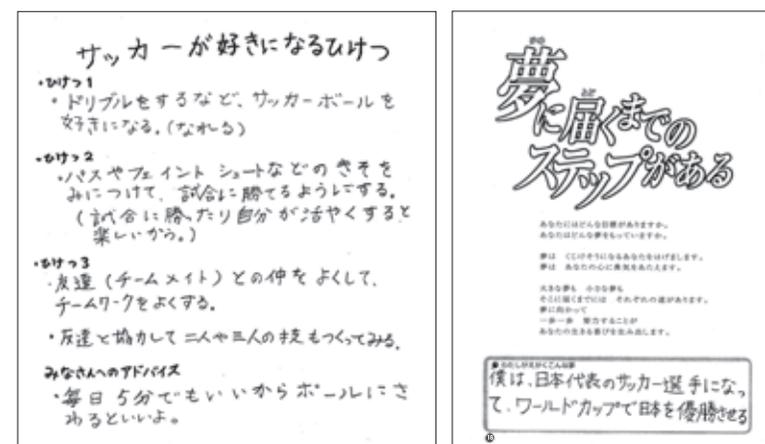
なかには、湯川秀樹やマリー＝キュリーなどの歴史上の人物そのものを調べてみたいと思う子どももいる。そのような興味や関心も大切にします。

● 自分らしさ発見のためのファイル作りをしよう

長期休業中は、子どもにとって、様々な体験を重ねながら「自分探し」をする好機となる。そこで、長期休業前に、例えば、5・6年用P.16～19

「夢に届くまでのステップがある」、P.32～35「自分を見つけみがきをかけよう」などを用いて、休みの間の「自分探し」への思いを膨らませる。

5年のある学級では、休業前に、子どもたちに、「自分のいいところや、得意なことをもっと見つけてみよう。」と投げ掛けて、次のような方法を伝えた。



「サッカーが好きになるひけつ」

「わたしがえがくこんな夢」

【「自分探し」の方法(例)】

- ア P.32～34を用いて、今の自分のよいところや変えたいところについて考える。
- イ P.35に長期休業中に取り組むことを書き込み、休業中の課題とともに持ち帰る。(その際、家族に「()に聞いてみた」の欄に書き込んでもらう)
- ウ そのページを先頭にして、休業中に取り組んだことを「自分の〇〇ファイル」としてまとめる。(製作物や大型の絵などは写真にしてはさみ込むとよいことを知らせる)

なかには、先頭のページを家の机に貼って意識化し、自分らしいと思うことなどを次々とファイリングする子どもがいた。

長期休業が明けてから、「心のノート」やファイルの中で、特に伝えたいことについて小グループで伝え合う活動を行った。このような活動は、子どもの生活への自信を深め、友達のよさを発見することにもつながる。



ファイルを用いて自分の得意なことなどを紹介

国語科で活用する

本場面におけるポイント

- 題材と自己をつなぐことに生かす
「心のノート」で自分の体験を想起し、主人公の生き方と自分の生き方を重ね合わせることによって、感動を深めることができる。
- 伝え合う力を高めたり、言語感覚を豊かにしたりすることに生かす
「心のノート」に書き留めた感動を話したり、文章にしたりすることによって、伝え合う力を高めたり、言語感覚を豊かにしたりすることができる。
- 学習内容の補助資料として生かす
例えば、文学的な文章ではものの見方や考え方を捉えるために、説明的な文章では話題への興味・関心を高めるために、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の学習では言葉と生活場面との関連を深めるために、補助資料として生かすことができる。



● 「心のノート」で学習後の感想を深めさせる事例(第2学年)

- 1 題材名 「走れメロス」
- 2 ねらい
メロスやセリヌンティウスの言動を通して、人間の在り方や人間にとって大切なものについて考えるとともに、場面ごとの情景や心情の変化を捉え、表現のよさを味わう。
- 3 指導計画(6時間)と「心のノート」活用の実際
 - (1) 太宰治作「走れメロス」を読んで、あらすじを捉え、初発の感想を発表する。(1時間)
 - (2) メロスが激怒した理由を考え、メロスと王の考えの違いや人物像についてグループで話し合う。(1時間)
 - (3) 走るのをやめたときのメロスの心理や、再び刑場に向けて走り出した理由を考え、「恐ろしく大きなもの」について話し合う。(2時間)
 - (4) セリヌンティウスとメロスが殴り合ったときの互いの気持ちを考え、王を改心させた理由について話し合う。さらに、P.54「互いを高める友情はどこにある?」にある問いについて考え、友情や人間の生き方等についての考えを深める。(1時間)
 - (5) 漢字や語句等についてまとめる。(1時間)

例えば、友情という観点からあなたはどんなことを考えますか。あなたが考えたことを『心のノート』に書いてみましょう。



この時間の一部に活用する



中学校用P.54



感動を深め、伝え合う力を高める「心のノート」

● 学習意欲を高め、言語生活に生かす事例(第3学年)

- 1 題材名 「敬語の使い方」
- 2 ねらい
敬語の働きについて理解し、場面や状況に応じて、敬語を適切に使うことができる。
- 3 指導計画(3時間)と「心のノート」活用の実際
 - (1) 中学校用P.44「礼儀知らずは恥知らず?」を読んで、礼儀は相手を尊敬する気持ちの表れであり、コミュニケーションを図るために大切なものであることを理解する。そして、敬語には相手を敬う気持ちが表現されていることをつかみ、学習への意欲をもつ。(1時間)
 - (2) 丁寧語、尊敬語、謙譲語の働きについて理解する。(1時間)
 - (3) 敬語の適切な使い方や意義について考える。(1時間)

中学校用P.47「T.P.O.を考えた言動ができていますか?」を見て、どこがおかしいのか発表し、「とき」「ところ」「場合」を考えた言動の大切さに気付く。



どんな行為について、誰が誰に敬意を表しているかについて考え、常体の例文を敬語を使った表現にする。

グループごとに、敬語を使った会話の場面を設定し、場面や人間関係に応じた敬語を考え、役割演技をする。



いらっしゃいませ。何をお探ですか。



「どうぞいただいでください。」
「何を召し上がれますか。」など、日常生活の中で、敬語の使い方がおかしいと思ったことを中学校用P.47「あなたが考えるT.P.O.」の表に書いて発表する。
敬語の正しい使い方について考える。

もしもし。〇〇中学校の古川と申します。町の環境問題についてお聞きしたいのですが。



社会科で活用する

本場面におけるポイント

- 国土への興味や関心を引き出す
富士山など国土の写真を導入部分で活用し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てることに生かす。
- 学習のまとめや振り返りとして
学習したことを振り返り、社会貢献について考える活動を取り入れることで、平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことに生かす。
- 自分の生き方を考えるきっかけとして
社会科で学習したことをそれぞれの道徳的価値に照らして自分の生き方について考えることに生かす。



● 仕事とくらしを考える学習を通して、勤労の大切さに気付くための活用（第3学年）

- 1 単元名 はたらく人とわたしたちのくらし
- 2 ねらい
 - ・人々が生産や販売に関する仕事をしていて、生活を支えていることがわかる。
 - ・身近な地域の生産活動や販売活動の仕事に携わる人々の工夫を具体的に考える。
- 3 単元展開の構想（全23時間）

〈実施時期9～12月〉

子どもの意識と学習活動	教師のはたらきかけ
1 スーパーマーケットで見つけたよ⑨ ・インタビュー ・品物はどこから	◆スーパーマーケットの見学を通して、工夫に気付くようにする。 ◆「心のノート」P.36～37の活用 インタビューの事前学習として、礼儀について学習する。
2 まちの人びととともに③ ・地域の店を調べよう	
3 キャベツ農家へ行ったよ⑩ ・インタビュー ・いよいよ取り入れ	
4 まとめと振り返り①	◆「心のノート」P.76～77の活用 学習を通して、勤労について考えさせる。

4 「心のノート」活用の実際

- ① インタビューの事前学習として
3・4年用P.36「礼ぎ」を活用し、インタビューするときの挨拶など礼儀について学習する。



3・4年用P.36

公民的資質の基礎を養う学習に生かす

- ② 学習を終えたまとめの段階で
3・4年用P.76～77「みんなのために流すあせは とても美しい」の中の「働くことはだれのため？」という投げ掛けを生かして、勤労の大切さについて考える機会をもった。



5・6年用P.76～77

● 国土について考える学習を通して、社会貢献の大切さに気付かせるための活用（第5学年）

- 1 単元名 わたしたちの国土と環境
- 2 ねらい
 - ・我が国の国土の自然などの様子について理解し、国土に対する愛情をもつ。
 - ・国土の理解と人々の生活や産業との関連について考える。
- 3 単元展開の構想（全20時間）

〈実施時期1～3月〉

子どもの意識と学習活動	教師のはたらきかけ
1 さまざまな自然とくらし⑨ ・国土の広がりや気候の様子 ・特色ある地域の人々のくらし	◆「心のノート」P.104～105を電子黒板や実物投影機で見せる。
2 わたしたちの生活と環境⑤ ・公害からくらしを守る	◆生活と環境のあり方について自分の考えをもたせる。
3 わたしたちの生活と国土⑥ ・森林資源の働き ・自然災害の防止	◆「心のノート」P.94～95の活用 災害の学習を通して、社会貢献について考えさせる。

4 「心のノート」活用の実際

- ① 導入で
5・6年用P.104～105「見つめようわたしのふるさとそしてこの国」のページを生かして、我が国の国土に対する興味や関心を引き出した。



5・6年用P.104～105



5・6年用P.94～95

- ② まとめ段階で
学習を終えた段階で、5・6年用P.94～95「社会の役にたとうとする心」の中の「あなたにもできる社会のためになることが」のページを生かして、社会貢献について考える機会をもった。

数学科で活用する

本場面におけるポイント

● 学習意欲を高めるために用いる

「心のノート」を通じて、目標に向かって努力することの大切さに気付くことによって、学習意欲を高めることができる。

● より深く考えることの必要性に気付くために用いる

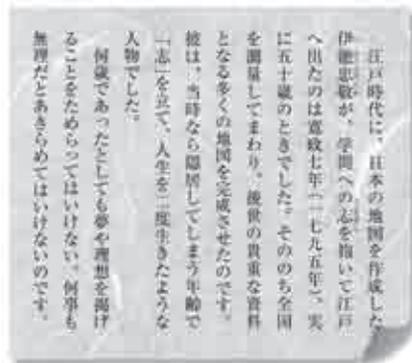
「心のノート」に記入した意見を班や学級の間で発表し合うことによって、他の人の考えを知ると同時に、より深く考えることの大切さに気付くことができる。



● 学習意欲を高めるために用いる事例(第1学年)

- 1 題材名 文字を使った公式(文字と式)
- 2 ねらい 図形についての公式を、文字を使って表すことができる。
 π の意味を理解する。
- 3 指導計画(1時間)と「心のノート」活用の実際
 - (1) 平行四辺形や三角形の面積の公式を文字を使って表す。
 - (2) 小学校で学んだ円周率を、これからは3.14ではなく π で表すことを理解する。
 - (3) 円周率の近似値を求める方法の話をして、 π に対する興味を深めさせる。
 - (4) 「心のノート」P.33の伊能忠敬の話を読む。
 π を小数に直すことに力を注いだ世界の数学者たちのことを紹介する。

*伊能忠敬と同じ時代に生きた、関孝和や建部賢弘ら和算の大家たちのことを紹介することで、日本人を誇りに思う気持ちを育てることもできる。



中学校用P.33 伊能忠敬の文

どうすれば円周率 π を小数に直すことができるのかな？



中学校用P.32~33



学習意欲を高め考えを深める「心のノート」

● より深く考えることの必要性に気付くために用いる事例(第2学年)

- 1 題材名 平行四辺形になるための条件(図形の性質)
- 2 ねらい 平行四辺形になるための条件を理解し、それを利用して図形の性質を証明することができる。
- 3 指導計画(3時間)と「心のノート」活用の実際
 - (1) 平行四辺形になるための条件を理解する。(1時間)
 - (2) 平行四辺形であるかどうかを判断する。(1時間)
 - (3) 平行四辺形になるための条件を利用して問題を解く。(1時間)
 - (4) (3)の時間で、他の生徒の発表を通じて、いろいろな証明方法があることを知る。
平行四辺形になるための条件を使った証明方法がいくつもあることを知る。
・解けたからよいということではなく、他により証明方法がないかより深く考える必要があることを理解する。
・「心のノート」P.60~63を活用して、いろいろな見方や考え方があることを知る。
・「心のノート」P.63に記入した意見を班やクラスで発表し合うことによって、他者の考えから学ぶ必要があることを知る。



*上の事例以外にも、複数の解法がある様々な問題で「心のノート」を活用することができる。



中学校用P.60~63

人の真意にノットと気づいたり、なるほどと驚いたり、これを生かそうと考えたりしたことがありますか。
他の人の答えを見て、自分よりよい証明方法があることに気付いた。これからは、他にも証明の方法がないか考えたいと思いました。

どの条件を使うのがいいと思いますか？



このように数学科では、主に学習意欲を高めたり、より深く考えることの大切さに気付いたりするために、「心のノート」を活用することができる。

理科で活用する

本場面におけるポイント

- **学習への興味・関心を高める**
学習内容に関わりがある写真やイラストをもとにした話合いや、記入などを通して学習への興味関心を高める。
- **計画的・継続的な活用**
年間を見通しながら計画的・継続的に記入させることで活動への意欲を高めたり、学習内容を深めたりする。
- **家庭との連携を生かした学習内容の深化**
各家庭に持ち帰り、学習内容と関連するページへの記入や話合いを行うことで、学習内容を補ったり深めたりする機会とする。



● 季節ごとの動植物の様子の違いに気付くための活用 (第4学年)

- 1 単元名 生き物の1年間をまとめよう
- 2 ねらい 生物を観察し、季節ごとの動植物の様子に興味・関心をもって調べた1年間の記録をもとに、季節による動植物の様子の違いや関連を捉えるようにする。
- 3 単元展開の構想 (全3時間) 〈実施時期3月〉

学習活動の流れ	
第1時	1年間観察してきた生き物の様子について話し合う。
第2時	これまでの記録をもとに、生き物の様子についてまとめる。
第3時	まとめたことを発表し、1年間観察してきた生き物の様子の変化と最近の様子について話し合う。

- 「心のノート」を生かす工夫
- ◇理科の時間をはじめ、朝や帰りの会などで時間を確保し、継続して記入させる。
 - ◇単元のまとめとして新たに配布し、また春が巡ってきて気が付いた生き物の様子を記入させる。

4 「心のノート」活用の実際

① 単元の導入として

3・4年用P.98～99「季節を感じる心をみがこう!」に記入した内容を活用しながら話し合った。それによって多様な生き物の様子の変化が発表された。



3・4年用P.98～99の記入例

生命や自然の大切さを考える学習に生かす

② 単元のまとめとして

3・4年用P.98～99「季節を感じる心をみがこう!」を改めて配布し、「春」の欄に記入させた。1年前には気が付かなかったことや、1年前との比較を記入しながら、春がまた巡ってきたことを実感することができた。

また、3・4年用P.64～65「自然の美しさにふれて」を用いて、自然の美しさやすばらしさを感じとらせた。



3・4年用P.64～65

● 生命を尊重する態度を育成するための活用 (第5学年)

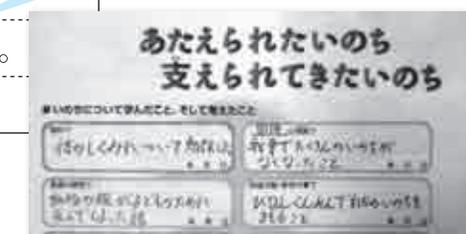
- 1 単元名 ヒトのたんじょう
- 2 ねらい
 - ・資料を活用しヒトの受精卵の様子や母体内で成長して生まれることを理解する。
 - ・生命の連続性について考えるとともに、生命を尊重する態度を育てる。
- 3 単元展開の構想 (全7時間)

学習活動の流れ	
第1時	いのちについてこれまで学んできたことを考え、話し合う。 ヒトの誕生について調べたいことを出し合い、予想し、調べる方法を考える。
第2時	
第3時	ヒトの受精卵の成長について、資料などを使って調べる。
第4時	
第5時	ヒトの子どもは、母親の体の中でどのように育つか資料を使って調べる。
第6時	調べてわかったことや考えたことをまとめる。
第7時	まとめたことを発表する。

「心のノート」を生かす工夫

◇これまでのいのちについての学びを振り返り、学習への興味・関心を高める。

◇単元終了後に、各家庭で保護者と子どもが語り合いながら記入する。



4 「心のノート」活用の実際

① 単元の導入として

5・6年用P.66「あたえられたいのち 支えられてきたいのち」に記入し、その内容を全体で話し合い、これまでの学びを振り返った。

子どもたちは学校の内外でいのちについて多様な学びをしていることに気が付いた。

② 学習のまとめとして

単元の学習終了後に、保護者に5・6年用P.67「これからもっともっと かがやかせていきたい」へ子どもと一緒に記入しながら、我が子の成長の様子や喜び、生命の尊さを語ってもらうよう依頼した。



5・6年用P.66～67の記入例

生活科で活用する

本場面におけるポイント

●活動への動機付けとして

導入の段階で、内容に関わる絵や写真を見て、取り組む活動への興味や関心を深めることができるようにする。

●補助的な教材等として

学習の中でワークシートの一部として生かして、活動の内容や方法について広げられるようにする。

●振り返ったり今後につなげたりするときに

活動したことを振り返ったり、この後やりたいことを見つかけたりするときに生かす。



●学校生活を豊かに広げていく学習活動で意欲と見通しをもつための活用(第1学年)

1 単元名 がっこうたんけんたい

2 ねらい

- ・学校で発見したことや関心をもったものに直接触れ、積極的に関わろうとする。
- ・楽しく安心して遊びや生活をしようと工夫する。
- ・学校には自分に関わる多くの人がいることや、様々な場所や物があることに気付く。

3 単元展開の構想(全21時間)

〈実施時期5～6月〉

子どもの意識と学習活動	教師のはたらきかけ
1 こうていであそんでたのしもう ② ・校庭の施設や草花、生き物に自由に触れ、楽しむ。	◆「はっけんカード」や「おねがいカード」を色別で用意し、子どもが意欲を高め、関心を深められるようにする。 ◆学級全員の発見したことが集約できる床地図をもとに、学び合いやすい環境をつくる。 ◆「心のノート」P.80～85の活用 校舎内を探検する事前の動機付けで、このページを一緒に開き、見通しがもてるようにする。
2 こうていにあるものをさがそう ⑥ ・見つけてきたものを絵や短い文に表して、床地図に貼ったり、その場所に行ったりして紹介し合う。	
3 わたしたちのたんけんたいをつくらう ③ ・探検隊をつくり、必要なものを準備する。	
4 こうないをたんけんしよう⑧ ・校内の様々な教室や施設に行き、それらを使ったり、人と触れ合って遊んだり、話したりする。	
5 お気に入りやしょうかいしよう ② ・自分のお気に入りや、自信をもってみんなに知らせる。	

4 「心のノート」活用の実際

本単元では、学校の人や施設に関心を深める活動を通して、子どもが学校への親しみを深め、学校生活を楽しく過ごせるようにしたいと考えた。

そこで第4小単元「こうないをたんけんしよう」では、1・2年用P.84～85「おせわになつてます!」の中の「あいについてみよう」「おしえてもらおう」という投げ掛けを生かして、探検活動へ



活動の見通しをもつために生かすページ

具体的な活動や体験につなげて自立への基礎を養う

の動機付けをした。すると、子どもは、「うちの学校にもそんな部屋があるよ」「もっとこんな人がいるよ」と発言し、関心を広げる様子が見られた。

●地域の生活に関心を広げる学習活動での活用(第2学年)

1 単元名 自分の町となかよし

2 ねらい

- ・身近な地域の人や場所に親しみをもち、自分の生活を広げようとする。
- ・地域で関わったこと、気付いたことなどを表現する。
- ・自分たちの生活は、地域の施設や自然、人と関わっていることに気付く。

3 単元展開の構想(全17時間)

〈実施時期9～10月〉

子どもの意識と学習活動	教師のはたらきかけ
1 学校の周りにはどんなところがあるだろう② ・経験などをもとに学校の周りの好きなところを発表する。	◆よく知っている人や親しい人などについて話し合い、地域と関わろうとする意欲を高める。 ◆カードに書いたり対話したりして、子どもの気付きを引き出すようにする。 ◆「心のノート」P.88～91の活用 ・地域の人に目を向ける手掛かりとする。 ・「新聞」作りの一部を取り込んで、「心のノート」の活用への意欲を高める。
2 実際に行ってみて、そのよさをつかもう ④ ・歩き方を計画し、グループで活動し、地域のよさを探す。	
3 どんなところがよかったか発表しよう④ ・発表をもとに、さらに行ってみたいところなどを広げる。	
4 「おすすめのおしよ」を確かめについてみよう③ ・関心別のグループで、2回目の地域での活動をする。	
5 町しらべ「おすすめのおしよ」ほうこく会しよう④ ・体験したことや調べたことを絵や文に表して交流する。	

4 「心のノート」活用の実際



1・2年用P.90～91に書き込んでみる



おいしさの秘密を店で取材

(1)地域の様々な人に関心を広げる

1・2年用P.88～91「あなたがそだつ町」には、子どもと関わりのある多様な人との思いが表されている。2回目の地域での活動の前にこのページを見て、今までの経験等を話し合い、子どもの関心を広げるようにした。

(2)「新聞」に書き込む機会をつくる

P.90～91「○○○○新聞」のページの中で、3つのコーナーの好きな一つの枠を学級で一緒に書き込んだ。そうすることによって、日常生活の中でも他のところをもっと書いてみたいという意欲が高められると考えた。

音楽科で活用する

本場面におけるポイント

- 教材に対する理解を深めることに生かす
授業の終末で、内容に関わるページに学んだことや自分の考えなどを記入することにより、教材である郷土の伝統音楽に対する理解を深めることに生かす。
- 教材のイメージを膨らませることに生かす
導入の段階で、内容に関わるページの写真を見たり、文を読んだりすることで、教材のもつ豊かな自然の美しさへのイメージを膨らませることに生かす。



鑑賞の授業での活用事例(第1学年)

- 1 題材名 我が国とアジアの民謡を聴こう
- 2 ねらい 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞する。
- 3 教材
(例)「安来節」(島根県) / 「ソーラン節」(北海道) / 「こきりこ節」(富山県)
「プンムルノリ」(朝鮮半島) / 「平安の喜び」(モンゴル) / 「草原情歌」(中国)
- 4 題材の指導計画(2時間)と「心のノート」活用の実際

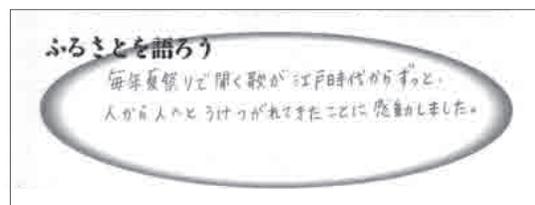
(1) 我が国の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴を比較する。(1時間)

- ・CDで日本各地の民謡とアジア地域の諸民族の音楽を聴く。
- ・共通点や相違点など気付いたことを話し合う。

(2) 郷土の伝統音楽の特徴から、音楽の多様性を感じ取る。(1時間)

- ・郷土の民謡保存会による演奏を鑑賞する。
- ・前時に聴いた日本各地の民謡やアジア地域の諸民族の音楽と比較して、気付いたことを発表する。
- ・郷土の民謡保存会の方から、曲の歴史的・地域的な背景などの説明を聞く。
- ・保存会の方の演奏を再度鑑賞する。
- ・**中学校用P.120「ふるさとを語ろう」**の欄に、郷土の伝統音楽の鑑賞を通して感じたことや自分の考えなどを記入する。

中学校用P.120～121



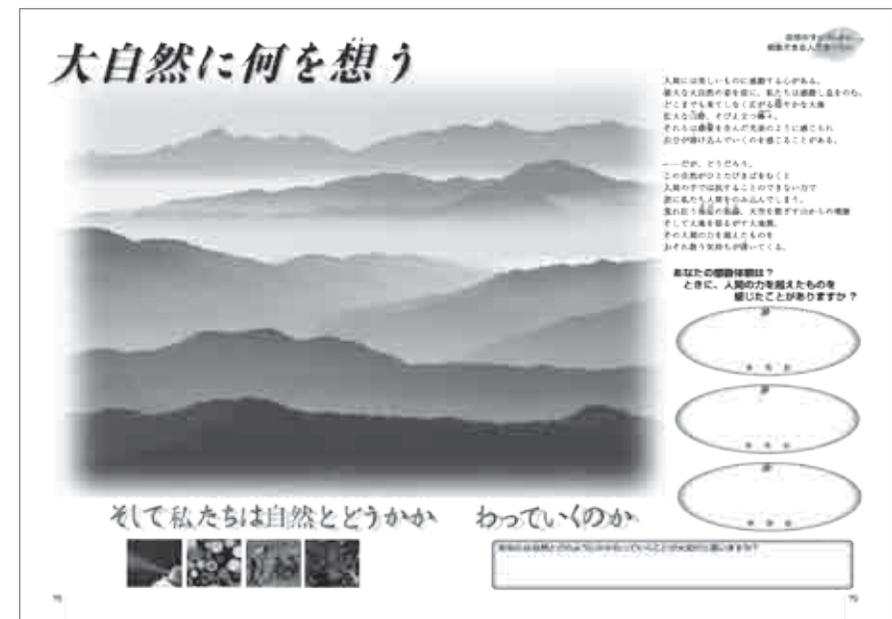
留意点 中学校用P.120の「ここにはいつもの風景 いつもの音 そしていつもの顔がある」という文章を読むことにより、郷土をつくりあげてきた伝統と文化、先人や地域の人々に対する認識を深めたい。

教材に対して、理解を深めたりイメージを膨らませたりする

歌唱の授業での活用事例(第2学年)

- 1 題材名 情景を想像しながら歌唱を工夫しよう
- 2 ねらい 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい自己のイメージや感情を広げ、創意工夫して歌う。
- 3 教材 共通教材「夏の思い出」
- 4 題材の指導計画(3時間)と「心のノート」活用の実際
 - (1) 範唱を聴き、歌詞の内容や曲想を味わう。(0.5時間)
 - ・中学校用P.78～P.79「大自然に何を想う」を読み、自然の美しさを感じ取ろうとする姿勢をもつ。
 - ・CDで範唱を聴き、歌詞が表す情景を捉え、歌詞の内容や言葉のリズムと旋律、速度、強弱との関わりなどを感じ取る。
 - (2) 曲想を生かし、曲にふさわしい表現を工夫する。(1.5時間)
 - ・グループごとに、曲の形式や楽譜に記された様々な記号などを捉えて、情景を想像しながらどのような表現が適切か話し合う。
 - ・話し合った内容をもとに、グループで斉唱する。
 - (3) 思いや意図をもって歌う。(1時間)
 - ・グループごとに斉唱の発表をする。
 - ・お互いのグループの表現についてよいと思ったことなどを話し合う。
 - ・情景を想像しながら全体で斉唱する。

中学校用P.78～79



留意点 中学校用P.78～P.79「大自然に何を想う」は、大型テレビなどを使って提示するのも効果的である。自然の美しさに感動したり、自然の中で癒される自己に気付かせたりしたい。

図画工作科で活用する

本場面におけるポイント

● 絵や写真を生かした動機付け

気に入ったページや題材と関連するページの絵や写真を見て、思いを膨らませ、表現する意欲を高める。

● 表したいことを探すヒント

表したいことや作りたいものを探すときや、表す方法を考えるときのヒントにする。

● 感じる心を高める学習で

特に視点3「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の内容のページを生かして、美しさを感じる心を大切にしようとする気持ちを高める。



● 感謝の気持ちを込めた絵カードを作る (第2学年)

1 題材名 かんしゃの気持ちをこめて絵カードをつくろう

2 ねらい

- ・材料を生かして、絵カードの表し方を発想し、思いのままに表そうとする。
- ・お世話になっている人に対して、感謝の気持ちを込めて表し方を工夫し、絵カードを作る。

3 展開の構想 (全4時間)

〈実施時期9月〉

子どもの意識と学習活動	教師のはたらきかけ
<p>どんな人にお世話になっているかな</p> <p>・お世話になっている人への気持ちを思い起こし、カードを作って贈ろうという気持ちを高める。</p>	<p>◆「心のノート」P.42～45の活用</p> <p>「ありがとう」という気持ちを伝えたい人を探るときにこのページを話し合いに生かす。</p>
感謝の気持ちを絵カードにして伝えよう	
<p>絵カードにどんな工夫ができるかな</p> <p>心の込もった絵カードを作ろう</p> <p>・立体カード、飛び出すカードの表し方を知る。</p> <p>・自分らしい工夫を考えて楽しく作る。</p> <p>みんなでカードを見合って楽しもう</p>	<p>◆紙や素材、表し方については教師の方でもヒントを用意しておく。</p> <p>◆心の込もった絵カードにするには、どんなことに気を付けて作るかを考えられるようにする。</p> <p>◆簡単な言葉を含める方法や、紙以外の素材を生かす方法など、楽しく作るための助言をする。</p> <p>◆実際に手渡す活動は事後に行う。</p>

4 「心のノート」活用の実際

子どもはいろいろな人にお世話になり、それぞれの人に様々な思いをもっている。授業の導入でその気持ちを引き出すために、1・2年用P.48～51「ありがとうをさがそう」のページを広げた。

そして「このページに「ありがとう」を表したい人がいっぱいいるよ。」と投げ掛けると、子どもたちがこのページに描かれた人以外にも、おじいちゃん、隣の家の人、通学路を守ってくれる人、お店の人など、次々と見つけ出した。さらに



1・2年用P.48～49

絵や立体に表すことの喜びや楽しさを高める

相手への感謝の気持ちを表す方法を話し合うことで、「カードを作って贈ろう」という気持ちが高められた。

特に、本題材は9月の「敬老の日」の頃に学習を設定しているため、祖父母への気持ちをカードにしたいと考える子どもが多く見られた。

● 美しい自然の雄大さを心いっぱい感じ取り作品に表す (第4学年)

1 題材名 木々を見つめて

2 ねらい

- ・身近にある木々を見たり触れたりしたことから表したいことを思い付く。
- ・用具のいろいろな扱い方を試し、木々の特徴を表すことができるよう工夫する。

3 展開の構想 (全6時間)

〈実施時期5月〉

学習活動の流れ	
第1時	木を見たり触ったりしながらその特徴を感じる。
第2時	描いてみたい木を選び、どのような視点をもって描くか構想を練る。
第5時	
第6時	自分の気持ちを話したり、友人の考えを聞いたりする。

「心のノート」を生かす工夫

◇木々も人間と同じような心や力をもっていると感じたことを振り返らせる。

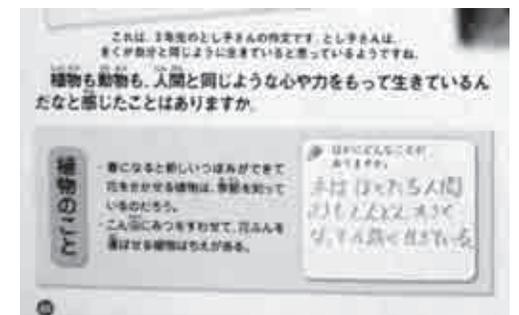
◇古くから人間は動植物と心を通わせながら生活してきたことを理解させ、自然に対する思いを深めさせる。

4 「心のノート」活用の実際

(1) 授業の導入として

3・4年用P.60～61「植物も動物もともに生きている」を用い、「木も人間と同じような心や力をもって生きていると感じたことはあるか。」と投げ掛けた。

子どもたちは「どんどん大きくなるよね。」「春になるときれいな花を咲かせるね。」など話し合いを通して、木の生命力や美しさに気付き、興味・関心を高めた。



3・4年用P.60

(2) 授業のまとめとして

友達の作品を鑑賞しながら、作品のよさに加えて木の生命力や美しさに関する内容を記していた。そこで、授業のまとめとして3・4年用P.62「人びとは、植物や動物といっしょに生きてきた」を開き、古くから人々が動植物とともに生活してきたことを語り、樹木をはじめとする自然を大切にしようとする気持ちを深めさせた。



3・4年用P.62

家庭科で活用する

本場面におけるポイント

- **家族の一員としての役割を考える**
家庭の仕事内容を理解するとともに、それに対して自分がどのように関わってきたか考えることができる。
- **自分の生活と自然環境との関わりを考える**
家庭生活を取り巻く環境、特に自然への影響を考慮しながら、よりよい家庭生活を工夫して積極的に取り組むことができるようにする。
- **身近な人々との関わりを見つめ直す**
自分の生活を支えてくれる人々の支えとその思いに気付くことで、感謝の気持ちを深めることができるようにする。



● 家族の一員として家族に協力しようとする (第5学年)

- 1 題材名 自分にできること 家庭の仕事
- 2 ねらい 家庭生活に関心を持ち、家族の一員としてできる仕事を考えたり、協力して仕事を分担したりする。

3 題材展開の構想 (全3時間) 〈実施時期 7月〉

学習活動の流れ	
第1時	家庭の仕事を分類し、自分ができる仕事を考える。
第2時	家庭で実践してきた仕事についてまとめる。
第3時	まとめたことを発表し、これからも続けていくために必要な工夫や環境に対する配慮などを話し合う。

「心のノート」を生かす工夫

◇導入として電子黒板に5・6年用P.98を映し、これまでの自分と家庭生活のかかわりを振り返らせる。

◇学習のまとめとして、家庭生活と環境とのかかわり、自分にできる環境への配慮を5・6年用P.71への記入を通して考えさせる。

4 「心のノート」活用の実際

① 題材の導入として

5・6年用P.98「あなたは家で家族の手伝いをしていますか?」を電子黒板に映し、そこに示されている手伝いについて、どの程度実践しているか実態を把握した。

その後、家族の一員としてこれまでどのような家庭の仕事に取り組んできたかを話し合いながら、家庭の仕事の種類を分類した。

② まとめでの活用

「家庭の仕事をするときに、環境のために気を付けたいことはどのようなことか。」と投げ掛け、5・6年用P.71「わたしたちに何ができるのだろう」への記入を通して考えさせた。

その内容を基に話し合い、環境を考えた工夫をしながら、継続して取り組むこととした。



電子黒板の利用



5・6年用P.71の記入例

家族の一員としての役割を考えるきっかけをつくる

● 身近な人々との関わりを考え、感謝の気持ちを伝える (第6学年)

- 1 題材名 考えよう これからの生活
- 2 ねらい 自分や身近な人々の生活や環境との関わりに気付き、快適な生活の仕方を工夫することができる。

3 題材展開の構想 (全8時間) 〈実施時期 2月〉

学習活動の流れ	
第1時 第2時	身近な生活と環境との関わりや、生活の仕方を調べる。
第3時 第4時	調べたことをまとめ、発表する。
第5時 第8時	身近な人々への感謝の気持ちを伝える方法を考え、実践する。

「心のノート」を生かす工夫

◇5・6年用P.58へ記入させ、毎日の生活を支えてくれる人々とその思いを考えさせる。

◇5・6年用 P.59に記入させ、感謝の気持ちを伝えるために何が出来るか考えさせる。

4 「心のノート」活用の実際

① 子どもの思考を広げるために

「生活を支えてくれる人々」と問われて、子どもたちが考えるのは、学級担任や保護者である。しかし、自分の生活には多くの人々の支えがあることに気付かせたい。

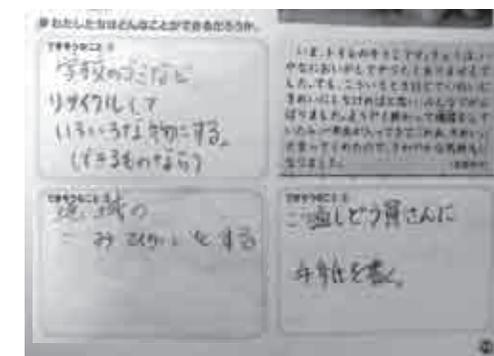
そこで5・6年用P.58「支えてくれる、その思いを感じよう」を基に、自分の生活を支えてくれる人々とその思いを考えさせた。

② これまでの自分を振り返る

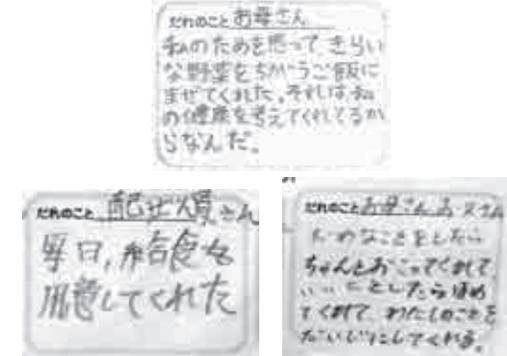
毎日の生活の中で多くの人の支えがあったことに気が付いた子どもたちに5・6年用P.56～57「「ありがとう」って言えますか?」を開かせ「普段から感謝の気持ちを表すことができているかな。」と問い、ボタンに触れさせた。そして、それぞれの理由について全体で話し合った。

③ 感謝の気持ちを具体的に表すために

支えてくれていることへの感謝の気持ちを表すための方法を考え、5・6年用P.59「その思いに、こたえよう」へ記入させた。その内容をその後の実践に結び付けた。



5・6年用P.59の記入例



5・6年用P.58の記入例

技術・家庭科で活用する

本場面におけるポイント

- 生活や産業の中で利用されている技術について考える
技術分野の学習に関するガイダンスにおいて、補助資料として活用して、技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割について考えることができる。
- 家庭と家族関係について考える
家族について学習する補助資料として活用し考えを記入することで、家族関係をよりよくするためにはどうしたらよいかを考えることができるようにする。
- 家庭生活と地域との関わりについて考える
体験活動や地域との交流の前後に活用して、家庭生活と地域との関わりを考えることができるようにする。

●「生活や産業の中で利用されている技術」について考えるときの活用事例（第1学年）

- 1 題材名 生活や産業の中で利用されている技術（技術分野の学習に関するガイダンス）
- 2 ねらい
技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割と、技術の進展と環境との関係について関心をもたせる。
- 3 指導計画（4時間）と「心のノート」活用の実際
 - (1) 技術（テクノロジー）とは（1時間）
世の中で利用されている技術にはどのようなものがあるか、見つけて分類する。
材料、加工、エネルギー変換、生物育成、情報等の技術があり、それらにより現在の生活や産業が支えられていることに気付かせる。
 - (2) 日本の伝統的なものづくりの技術（2時間）
「〇〇寺の五重塔」を例に、日本の伝統的な木材を加工する技術にはどのようなよさがあるのか考える。
五重塔が地震に強い構造になっていて、その構造は現在の高層建築設計にも利用されていること、緻密な加工により丈夫で美しい建物が作られていること、木材が腐食しても、その部分だけを修繕する技術を利用することで建築物が長持ちしてきたことに気付かせる。さらに、伐採した木材を長期間大切に利用することが、環境負荷を軽減していることにも気付かせる。
 - (3) 技術（テクノロジー）とのつきあい方（1時間）
木材を加工する技術以外にも、数多くの日本の技術が現代の生活や産業を支えたり、環境保全に役立っていることを教科書や参考資料で確認する。

「心のノート」P.124～P.127を読む。「高層建築」「五重塔」を写真で確認するとともに、葺き替えを行うことで長持ちする家屋や伝統的な板金の技術を利用して作られている新幹線についても確認する。P.126に「優れた日本の伝統や文化」として、特に素晴らしいと感じた技術について記入する。



中学校用P.126～127

家族・家庭と子どもの成長への考えを深める「心のノート」

●「よりよい家庭と家族関係」について考えるときの活用事例（第2学年）

- 1 題材名 わたしと家族
- 2 ねらい
家庭や家族の基本的な機能について知るとともに、家族関係をよりよくする方法を考える。
- 3 指導計画（3時間）と「心のノート」活用の実際
 - (1) 家庭や家族の基本的な機能について考える。（1時間）
・資料や新聞等を利用して家庭の役割を考え、発表する。
 - (2) 家族関係をよりよくする方法を考える。（2時間）
・家族関係をよりよくするために、家族の一員として何ができるかを具体的に考える。

・「心のノート」P.114～115を読み、自分の理想の家庭を考えて「心のノート」P.115に記述し、それをもとにして発表や話し合いを行う。



中学校用P.114～115

●家庭生活と地域との関わりを考えるときの活用事例（第3学年）

- 1 題材名 家庭生活と地域
- 2 ねらい
家庭生活は地域の人々とのつながりの中で成り立っていることに気づき、地域との関わりについて考える。
- 3 指導計画（4時間）と「心のノート」活用の実際
 - (1) 地域の様々な人々との関わりや社会連帯について考える。（1時間）
⇒ 考えたことを「心のノート」P.98に記入する。
 - (2) 地域の活動や行事等を調査したり、様々な人々と関わったりする。（2時間）
 - (3) 地域の幼稚園や保育所、高齢者施設等での活動を振り返り、話し合う。（1時間）
⇒ 学んだことを「心のノート」P.99に記録する。

保育園実習を通して幼児の遊びの役割を知り、保育士に話を聞いて自分かてきる幼児とのかかわりを考えてい。 ○○年□月△日

中学校用P.98の子どもの記述

保育園実習で社会連帯の仕方を二つ学んだ。一つは保育士のように仕事としてやること。二つめは幼児と遊ぶことのように簡単なことと実際にやってみると、そして一歩前にはにかたやること。 ○○年△月□日

中学校用P.99の子どもの記述

保健体育科で活用する

本場面におけるポイント

- 健康な生活と疾病の予防について理解する授業で「心のノート」を活用する
とくに、「生活行動・生活習慣と健康」の授業で活用する。
- 自主的に踊るダンスの楽しさや喜びを味わえるように、「心のノート」を活用する
とくに、フォークダンスの授業で活用する。



●健康な生活と疾病の予防について理解する授業での活用(第3学年)

- 1 単元名 生活行動・生活習慣と健康
- 2 目標
健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること、また、生活習慣の乱れは生活習慣病などの要因となることを理解する。
- 3 単元展開の構想(全4時間)

子どもの意識と学習活動	教師のはたらきかけ
1 心身の健康について考える。 ○今の自分の生活について考える。 ・基本的な生活習慣は乱れていませんか？ ・投げやりになつたりしていませんか？ ・心のコントロールができていますか？ ○教師の発問により、以下の4点を考える。 ・公生活と健康 ・運動と健康 ・休養及び睡眠と健康 ・調和のとれた生活と生活習慣病	1 「心のノート」を授業の導入で活用する。 ○今の自分の生活を見つめる。 ◆「心のノート」P.19の活用 自分の生活習慣を見つめ直し、基本的な生活習慣が乱れ、投げやりな生活になっていないか考える。 ○基本的な生活習慣の確立の大切さや健康に影響を及ぼす夜更かし、ダイエット、運動不足等に触れて考えさせる。
2 基本的な生活習慣について考える。 ○保健の授業を通して、感じたことを次の点に留意して考える。 ・基本的な生活習慣の確立が、体だけでなく心にも多大な影響を与えていること。 ・反省すべき点は反省し、改善できる範囲で改善していく努力をすること。	2 生活習慣について学習する。 ○感じたことをP.18にまとめる。 ◆「心のノート」P.18の活用 保健の授業で考えたことを「心のノート」に書き留める。これまでの自分を振り返り、考えさせる。

4 「心のノート」活用の実際

子どもが自分の生活習慣を見つめ直し、「心のノート」に記入した欄へは教師が必ずコメントを書き加えるようにする。生活習慣を見つめることは、子どもにとって大切なことである。教師と共に考え、改善していくテーマもあるので、子どもと教師が共に協力していくような内容を記述するよう心掛けたい。



「心のノート」記入例

心身の発達を心の健康に生かす

●自主的に踊るダンスの楽しさや喜びを味わう授業での活用(第3学年)

- 1 単元名 フォークダンス(ソーラン節)
- 2 目標
子どもが自主的にフォークダンス(ソーラン節)に取り組み、踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊れるようにする。
- 3 単元展開の構想(全8時間)

子どもの意識と学習活動	教師のはたらきかけ
1 自主的に取り組むことについて考える。 ○自主的に取り組む中で、互いの違いやよさを認め合おうとすることや、自らの責任を果たそうとすること、健康・安全を確保することなどができるようにする。 2 フォークダンスの授業(ソーラン節) ○文化的背景や情景を思い浮かべて、音楽に合わせてみんなで踊って交流して楽しむことができるようにする。ステップや動き方、音楽、小道具、地域などの踊りに見られる特有の動き等の異なった特徴を捉え表現する。 3 ダンスの交流会を行う。 ○ダンスの発表や交流の際には、これまでの練習の成果が表現できるように意識させる。	1 「心のノート」を授業の導入で活用する。 P.26「中学生だもの 自分で考え判断し実行するのはあたりまえ。」の言葉を読み上げ、主体的に取り組む気持ちを考える。 ○ダンスの練習風景  3 「心のノート」の活用 ・ダンスの交流後には、「心のノート」P.119「後輩に伝えていきたいこと」に記入させる。

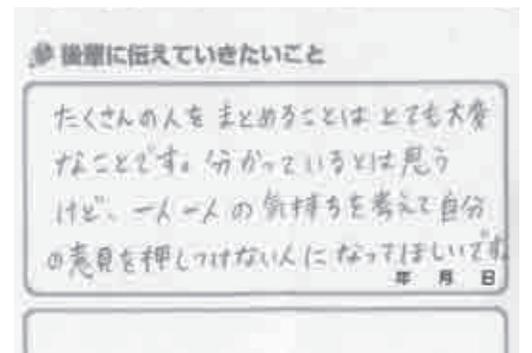
4 ダンス(ソーラン節)練習の留意点

・子どもが自主的に練習できないときには、「心のノート」の関連ページを提示し、子どもの意識を高めていきたい。

5 「心のノート」活用の実際

フォークダンス(ソーラン節)発表後、ある子どもは「心のノート」P.119「後輩に伝えていきたいこと」に右のような記入をした。

子どもにとって、ダンス(ソーラン節)の発表は、感動の残る発表ではあったが、「心のノート」に記述することにより、改めて自分の感動を冷静に捉えることができた。このように感動した気持ちを「心のノート」に言葉で表すことにより、これからの自分の生き方につなげていくことができる。



「心のノート」記入例

外国語科で活用する

本場面におけるポイント

- **コミュニケーションについて考えるきっかけとする**
外国語の学習にあたり、積極的に自分の考えを伝えたり、相手の考えを理解したりするなど、コミュニケーションを図ろうとする態度をもたせ、学習意欲を高める。
- **多様なものの見方や考え方を理解し、国際協調の精神を養う**
我が国や世界の言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てることで、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養う。



● 外国語学習の意義・コミュニケーションの意義について考えさせる (第1学年)

- 1 題材名 外国語学習の意義について考えよう (オリエンテーションの終末で使用)
- 2 ねらい 「ことば」は心と心を結ぶものだからこそ、相手を「知りたい」、相手に「伝えたい」という気持ちが大切であるということに触れる。
- 3 指導計画 (1時間) と「心のノート」活用の実際



中学校用P.68～69

年度当初の授業のオリエンテーションで、**中学校用P. 68～69「コミュニケーションは心のキャッチボール」**を読み、考えたことをアンケート用紙に、今後の学習の目標として書き留めた。

中学校での「読むこと」「書くこと」も含めた今後の学習に向け、知識や技能の習得だけではなく、実際にそれを運用していくためには、ジェスチャーやアイコンタクトなどの非言語コミュニケーションによる意思の伝達も含め、コミュニケーション能力の基礎を養うことが重要である。

～生徒の感想より～
私は英語を話せるようになったり、書けるようになったりしたいと思います。やる気を大切に、相手の話がちゃんと聞き取れるようにがんばりたいです。

このページには「人とかかわりにしりごみしているとあなたの気持ちは伝わらないし、あなたも相手の思いを受け取ることはできません。」とある。外国語をよりよく学習するために、伝えようとする気持ちや受け取ろうとする気持ちを大切にすることを押さえ、言葉が国を越え、人と人を結ぶものだという事を感じさせ、意欲を持って外国語学習に入らせたい。

国際理解を深め、自分の日々の生活について、改めて考えをめぐらせる

● 伝統文化・習慣を知り、国際交流を考えた事例 (第3学年)

- 1 題材名 世界・日本の伝統文化を知り伝えよう
- 2 ねらい 日本や郷土で育まれてきた伝統文化のよさについて理解を深め、国際社会の中で日本の独自性を持ちながら世界に貢献していくことの大切さについて考える。
- 3 指導計画 (4時間) と「心のノート」活用の実際

- 第1次 文化・習慣について知る
・世界の国々の文化・伝統を紹介するスピーチを聞く。

中学校用P.128～129「世界の平和と人類の幸福を考える」に、外国の文化を知り、感じたことを欄に記入する。

- ・グループに分かれ、外国の人々に日本文化を紹介するスピーチを作成することを伝え、発表内容や分担を決める。

～生徒の感想より～
たくさんの国があって、たくさんの文化があって、たくさんの伝統があることはすてきなあと思いました。その文化を体験するとさらに交流が深まると思います。

中学校用P.124～125「我が国を愛しその発展を願う」を見て、自分たちの日々の生活の中の「日本文化」について考えさせる時間を設定し、これからの発表準備へ向け、気持ちを高める。

- 第2次 原稿・発表準備・グループ内リハーサル
第3次 原稿を作るだけでなく、聞いている人にとってわかりやすくなるよう工夫させる。



中学校用P.124～125

- 第4次 発表会 ・発表を行い、内容について質問やコメント・評価を行う。

発表会を行った後、**中学校用P.136～137「日本人としての自覚をもって」**を見て、真の国際人としての自分の役割について考える。

私たちの日々の生活の中には、外国の人々や異文化と接する機会が多くある。我が国や世界の生活や文化について理解を深めるとともに、日本の文化について発表する経験を通じて、魅力ある日本の伝統や文化について伝えていく立場であることを再認識し、一人一人が日本人として、真の国際人として担っている役割について考えさせる。



中学校用P.136～137

道徳の時間の導入で活用する

本場面におけるポイント

- 書き込んである内容を生かす
あらかじめ書き込んである内容を発表したり紹介したりして、話し合うことへの意欲を高める。
- その場で書き込んで話し合う
関係のあるページの記入欄の問い掛けに対して自分の思いを書き込み、主題への関心を高める。
- 絵や写真、言葉から問題意識を高める
主題に関わる絵や写真、言葉などを全員で見たり、読んだりして、問題意識を高める。



●みんなが書き込んだことを集計し紹介する導入（第2学年）

- 1 主題名 じぶんの力でがんばる〔内容項目1-(2)〕
- 2 中心的な資料 「マラソンたいかい」(文部省資料・平成7年)
- 3 ねらい 自分でやろうと決めたことは粘り強くやり抜こうとする気持ちを育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫

◇活用するページ: 1・2年用P.8~9「あなたのことをおしえてね」

◇導入での生かし方: このページは、子どもが自分のプロフィールについて自由に記録する「フェイスシート」である。本時では、その中の「できるようになりたいこと」に書かれた内容を集計し、その結果を導入に生かす。子どもは、学級全体の傾向に関心をもち、話し合いへの意欲を高めることが期待される。

5 展開の概要

学習活動の流れ	
1	「心のノート」の内容を整理した「2年〇組できるようになりたいことベスト5」を聞いて、感じたことを発表する。
2	資料「マラソンたいかい」の絵話を視聴して、主人公あやの気持ちを中心に話し合う。 ○息が苦しくなって走るのをやめてしまったあやの思い ○ゆみと走り方についていろいろ話をしているときのあやの気持ち ○ゴールインしたときのあやの気持ち
3	今までにやり遂げたことやがんばり切れなかったことなどを、あやに手紙で伝えよう。
4	教師の願いを聞く。

6 「心のノート」活用の実際

最初に各自が「心のノート」を見る時間をつくり、その後、「2年〇組できるようになりたいことベスト5」を伝えた。ベスト5の実際は次のとおりであった。

- ①さか上がり ②早起き ③習い事
- ④手伝いを続けること ⑤毎日勉強

その後、感じたことを発表し、全体での話し合いを方向付けた。

また、終末では、P.9の「しょうらいのゆめ」の欄に書き込んである内容について触れ、子どもがこれからに向かって前向きな気持ちをもてるような話をまとめてみた。



子どもがその気になって話し合いたくなるきっかけとして

●自分自身を見つめ直し、ねらいとする価値につなげていく導入（第3学年）

- 1 主題名 自分らしさ〔内容項目1-(5)〕
- 2 中心的な資料 「うれしく思えた日から」(文部科学省資料・平成23年)
- 3 ねらい 自分の特徴に気付き、よいところを伸ばそうとする態度を育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫

◇活用するページ: 3・4年用P.28~29「自分のよいところはどこだろう?」

◇導入での生かし方: このページは、自分のよいところや気になるところを振り返り、「自分自身」を見つめ直すページである。よいところだけにしぼると、書くことができない子どももいるため、「自分の直したいところ」や「今は苦手でも、将来〇〇になりたい」など、自分自身を幅広く捉えて考えることができるようにしていく。その際、子どもが記入しやすくなるように、このページを拡大したものを黒板に掲示し、はじめに担任が書き方を示す。

5 展開の概要

3・4年生用P.28~29「自分ってどんな子かな?」を配布して、自分自身について振り返ってみるように話をした。

はじめは、自分のよいところについて書けない子どももいたが、担任が書き方を示すことで、子どもたちも「自分のよさ」や「気になるところ」について自由に書き始めることができた。また、子どもたちの中には、ノートに書かれている挿絵を参考にして、自分自身を振り返り、ノートに書いている子どももいた。



子ども自身が考えた自分のよいところや気になるところが記入されていた。

資料を読んだ後の展開前半、資料の人物について話し合う場面では、導入時に「心のノート」に書いた自分の記述内容と資料の主人公を比較しながら話し合う子どもの姿が見られた。

●絵や言葉を見ながら問題意識を高める導入（第5学年）

- 1 主題名 感謝する心〔内容項目2-(5)〕
- 2 中心的な資料 「あと30分おくれたら」(文部省資料・昭和56年)
- 3 ねらい 私たちの生活が人々の協力や助け合いで成り立っていることを理解し、感謝する心情を育てる。

4 「心のノート」を生かす工夫

◇活用するページ: 5・6年用P.56~57「『ありがとう』って言えますか?」

◇導入での生かし方: 「はい」と「いいえ」の2つのボタンのどちらを押すか迷う場面を設定して、話し合いたい問題についてより明確につかむことができるようにする。

5 「心のノート」活用の実際

まず、次のような投げ掛けから入った。

「最近特にお世話になった人を思い浮かべてみよう。」
約30秒後、「では、56~57ページのボタンを見つめてみよう。いつもの自分はどうか。『ありがとう』って言えますか。」と問い掛け、ボタンをみんなで押す時間をつくった。



自分は「ありがとう」って言えるだろうか

道徳の時間の導入で活用する

本場面におけるポイント

- 道徳的価値への気づきを促す
「心のノート」の絵や写真を見たり、言葉を読んだりすることによって、道徳的価値に気付かせることができる。
- 生活場面での問題意識を高める
問い掛けに対する自分の思いを書き込んだり、友達の意見等を聞いたりすることによって、自分の生活場面での問題意識を高めることができる。
- 資料への関心・理解を深める
中心的な資料の人物や出来事等を十分理解するために、導入で資料に関係するページを読んだり、教師の補足説明を聞いたりすることも考えられる。



● 絵からイメージして、自分の経験を発表する事例（第2学年）

- 1 主題名 いろいろな立場や考え [内容項目2-(5)]
- 2 中心的な資料 「言葉の向こうに」(文部科学省資料・平成24年)
- 3 ねらい それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して寛容の心をもとうとする判断力を育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫
中学校用P.60～61の絵を見てイメージし、自分の経験を発表することにより、人にはそれぞれの見方があるとわかっていても、自分の見方で物事を考えてしまいがちな自分に気付くことができるようにする。
- 5 展開の概要と「心のノート」活用の実際
(1) 「心のノート」の絵が何に見えるか考え、吹き出しに書く。



この絵は何に見えるますか？



アヒルかな？



うさぎにも見えるわ



- (2) 見えたものを発表し、人それぞれに見方が異なることに改めて気付く。



友達の相談ごとをつまらないことと想ったことがある。

少し不まじめな人だと思っていたが、話してみると部活動をいっしょけんめいがんばっていることがわかった。

- (3) 「心のノート」の「他の立場や考えを理解していない自分に気付いた経験」を発表し、「言葉の向こうに」を読む。(以下略)



動機付けをし問題意識を高めるために

● 動作化などを取り入れ、生活場面を振り返る事例（第1学年）

- 1 主題名 自分だけがよければ… [内容項目 4-(2)]
- 2 中心的な資料 「はばたけ青い鳥」(文部省資料・平成6年)
- 3 ねらい 利己心に打ち勝って、よりよい社会秩序をつくろうとする心情を育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫
「心のノート」の場面を動作化などで表現し、自分の生活場面での姿を思い出すことにより、誰もがもっている人間的な心の弱さを考えることができるようにする。
- 5 展開の概要と「心のノート」活用の実際
(1) 中学校用P.96～97の絵を見て、身近にいる「自己虫」はどれか探し、その場面を動作化などにより表現してみる。



めいわくだ!

- (2) それぞれの「自己虫」に名前を付け、その行為をどう思うか発表する。



もっとみんなのことを考えてよ!

- (3) 自分の心に、このような「自己虫」がないか自分の生活場面での姿を思い出す。そして、「自分だけがよければいい」という考えに問題があることに気づき、読み物資料「はばたけ青い鳥」を読む。(以下略)

どんな人の心にも、こんな「自己虫」が生まれがちだね。



1時間を通して活用する①

本場面におけるポイント

- ねらいとする道徳的価値へ方向付けを図る
導入で「心のノート」の「大切なそれぞれの仕事」の絵と文を活用し、勤労への意識化を図る。
- 読み物資料として
「心のノート」の登場人物の気持ちを想像することを通して、ページそのものを読み物資料として扱う。
- 振り返りの場面で
今までみんなのためにがんばってきたかどうか、「心のノート」に書き込む活動を通して、今までの自分の生活を振り返る。



●導入・展開で活用した事例（第2学年）

- 1 主題名 わたしのしごと〔内容項目4-(2)〕
- 2 中心的な資料 1・2年生用P.76～77「大切なそれぞれのしごと」
1・2年生用P.78 読み物資料
1・2年生用P.79「わたしのしごと」
- 3 ねらい 働くことのよさを感じて、みんなのために働こうとする心情を育てる。
- 4 展開の概要

学習活動の流れと主な発問など	留意点・「心のノート」の生かし方
1 「心のノート」P.76～77「大切なそれぞれのしごと」の文や写真から、いろいろな仕事について話し合う。	◇「心のノート」P.76～77の活用 ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
2 「心のノート」P.78を読み、話し合う。 ○帰りにそうじをしているとき、「わたし」はどんなことを考えていたか。 ○教室の友達はどうな気持ちだったか。 ○先生にほめられた「わたし」は、どんな気持ちだったか。	◇「心のノート」P.78の活用 読み物資料として活用する。 ◇役割演技などの表現活動を取り入れ、多様な考えを引き出す。
3 今までの自分の生活を振り返る。	◇「心のノート」P.79の活用 「わたしのしごと」を書き、今までの生活を振り返る。
4 勤労の大切さについて、教師の説話を聞く。	◇後日「先生・家の人から」の欄にコメントを書いて返すことで、道徳的実践意欲を高める。

子どもが本気になって話し合いたくなるきっかけとして

5 「心のノート」活用の実際

① 導入

1・2年生用P.76～77「大切なそれぞれのしごと」の文を読み、それぞれの写真がどんな場面かを話し合う。

- ・消防士が火を消している。
- ・美容師が髪の毛を切っている。
- ・農家の人が稲を刈っている。
- ・教室の掃除をしている。
- ・洗濯ものを干している。 など



1・2年生用P.76～77

② 資料を読んで、話し合う。

1・2年生用P.78を読んで話し合う。

教師が範読し、主人公「わたし」を通して、働くことの大切さについて考えさせ、勤労について自分の感じ方、考え方に気付かせる。



1・2年生用P.78

③ 今までの自分の生活を振り返る。

1・2年生用P.79「わたしのしごと」を書く活動を通して、勤労に関わる体験を想起して、自分の在り方を自覚させる。

- ・黒板をきれいにしている。
- ・給食の準備をいつも手伝っている。
- ・進んでごみを拾っている。
- ・プリントやノートを配っている。
- ・電気をつけたり消したりしている。 など



1・2年生用P.79

1時間を通して活用する②

本場面におけるポイント

- 詩に込められたメッセージを、自分との関わりで考える学習に生かす
詩に込められたメッセージを自分なりに受け止め、考えることを授業の中心にする。授業で様々な考えを共有していくことで、自己の考えを深め、広げていく。
- 書く活動を通して、自分の考えを深く見つめていく
「心のノート」の構成を生かして、詩を読みながら自分の考えを書いてまとめていく。その中で、自分の考えを整理し、見つめていくようにする。
- 「心のノート」を掲示とワークシートとして活用する
活用するページを拡大印刷して、資料提示に生かす。また、印刷した心のノートは裏面も含めて、ワークシートとして活用する。

● 「心のノート」の詩を生かした授業展開 (第6学年)

- 1 主 題 名 やわらかい心を目指して〔内容項目2- (4)〕
- 2 中心的な資料 「よりそうこと、わかり合うことから」(「心のノート」小学校5・6年)
- 3 ね ら い 素直な気持ちで、相手の立場に立って考え、広い心をもとうとする心情を育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫
「心のノート」を資料やワークシートとして生かす。
- 5 展開の概要

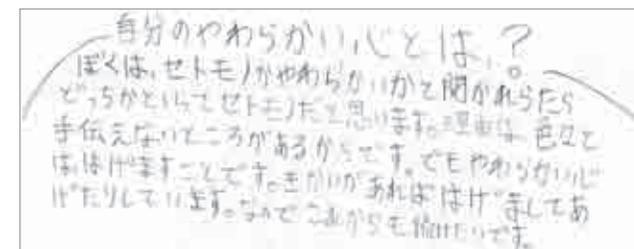
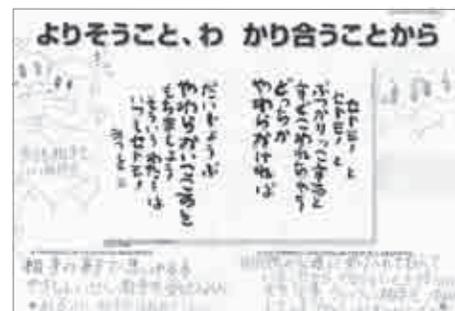
学習活動の流れと主な発問など	◇留意点 ◆評価
1 ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。 ○失敗や過ちを許してもらったことはどんなことか。 ・野球でエラーしたときの、「ドンマイ」がうれしかった。 あいだみつを氏についての説明を聞く。	◇児童の思考が友情など、他の道徳的価値へ流れてしまうこともあるので、ねらいとする道徳的価値に目を向けられるように話し合いを進める。 ◇行為だけでなく、心情も問う。
2 資料を読んで、謙虚と寛容について考え、話し合う。 詩を全員で音読して、どんなメッセージが込められているのか考える。 ○「やわらかい心」とは、どんな心だと思おうか。 発問① ・人に合わせて自分を変えられる心。 ・何でも受け入れる心。 ・人とぶつかっても平気な心。	◇実際に瀬戸物の食器を見せて、感覚をとらえさせる。 ◇詩を音読してから、個人で考える時間を確保する。
○あいださんはどんな思いで「そういうわたしはいつもセトモノ」と言っているのか。(中心発問) 発問② ・やわらかい心をもちたいけど、なかなかできない。 ・やわらかい心にあこがれるなあ。自分もなりたい。	◇「やわらかい心」のイメージをふくらませて書くことで、寛容な、広い心を考えて、価値理解を深める。 ◇あるべき「やわらかい心」の大切さと、わかっていてもできない思い、両面を見つめることで価値理解及び人間理解を深める。

「心のノート」にある詩を生かして自分自身を振り返る

学習活動の流れと主な発問など	◇留意点 ◆評価
・セトモノの心は誰にでもあるんだよ。 ・みんなもそうだから、安心させてあげたい。 3 学習したことについて、自分を振り返る。 ○自分の中のやわらかい心やセトモノを感じるの、どんなときか。 ・友達と考えが違うときも、受け入れるようにした。 ・家族に注意されたとき、素直に謝れなかった。 4 学習のまとめをする。 教師の説話を聞く。	◆「心のノート」への記述から、自分なりの考えをもっているか。 ◇ねらいとする道徳的価値に関わって、自分はどうかあるのかを振り返る。 ◇考えたことを話し合うことで、仲間の考えを受け止め、他者理解を深める。 ◆自分の考え、あり方を正しく見つめられているか。

6 「心のノート」活用の実際

「心のノート」を掲示物と、ワークシートとして活用する。



「心のノート」は、ワークシートとして活用する。裏面は、例えば自分との関わりで考えたことを書くなど、自由に生かす。



書く活動の場面

発問①

- ・優しく、思いやりのある心。
- ・相手の気持ちを受け入れる心。
- ・こわれず、何でも受け入れる心。

子どもが受け止めたメッセージを、話し合いで共有する。

発問②

- ・とても難しいこと。そうなるように、一歩ずつ進んでいこう。
- ・そんなに完璧じゃなくてもいいんだよ…。



板書

1時間を通して活用する①

本場面におけるポイント

●自分の夢について考える

高校生の投書に対して「自分の夢をもつにはどうしたらよいか」という返事を書くことが、実は自分の夢や生き方について考えることにつながる。

●自分の在るべき姿やこれからの人生を考える

詩の中にある「私はどう在りたいのか」「在るべき自分の姿なのか」というところで、自分自身を振り返り、自らの価値観を見つめ、自己の生き方を考える。

●これからの自分が、どう前向きに人生を歩んでいくかを言葉で表現する

主題に関わる絵や写真、言葉などを全員で見たり、読んだりして、問題意識を高める。



●自分の人生を前向きに生きようとする態度を育てる事例(3年)

1 主 題 名 自分の人生を切り拓く〔内容項目1-(4)〕

2 中心的な資料 中学校用P.30～31「自分の人生は自分の手で切り拓く」
中学校用P.16～17「この人生の主人公」

3 ねらい

中学校用P.16～17の詩を読み、理想の実現を目指して自己の人生を前向きに切り拓いていこうとする実践意欲を育む。

4 「心のノート」を生かす工夫

◇中学校用P.30の投書を読んで感想を述べ合い、夢をもつにはどうしたらよいか考えさせる。

◇中学校用P.16～17の詩をもとに、自分自身の人生について考えたことを詩にして、思いや考えをまとめる。

5 展開の概要

学習活動の流れと主な発問など	留意点・「心のノート」の生かし方
1 中学校用P.30にある「高校生の投書」を読んで感想を述べ合い、中学校用P.31に高校生への返事を書く。	◇P.30の投書の感想を小グループで述べ合い、P.31に記入させ、投書の返事を自分へのメッセージにする。
2 中学校用P.16～17にある「この人生の主人公」を読み、話し合う。 ○どうして心の声が聞こえてくるのだろう。 ○どうしたら胸を張って生きていけるのだろうか。	◇P.16～17の詩を読んで、流されたり投げやりになったりする自分を乗り越えるように、自分の在り方や自分の人生について考えさせる。
3 これまでの自分の人生を振り返り、自分の人生をどう生きていきたいか「この人生の主人公」をもとに詩に表わす。	◇P.16～17の詩をもとに、自分がどのように生きていきたいかを詩にして思いをまとめる。
4 完成した詩を教室に掲示し、作品を読み合う。	



話し合いや書くことを通して、自分の夢や人生について考える

6 授業の実際

(1) 話し合いを生かして、自分の考えを書いてまとめる。

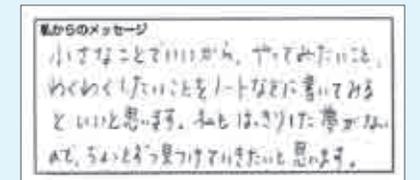
中学校用P.30にある「高校生の投書」を読んで、感想を述べ合う。その後、中学校用P.31にある「私からのメッセージ」に夢をもつにはどのようにしたらよいか、高校生への返事を書く。

■高校生の投書に対して小グループで感想を述べ合うことで、夢をもてない高校生に共感することや、どうしたら夢をもつことができるのか考えを深めることができた。この小グループでの話し合いで、投書への返事を書くベースができた。



小グループでの話し合い

■夢がもてない高校生に、どうしたら夢をもつことができるかという返事を書いた。これは投書への返事ではあるが、実は自分自身が夢をもつためにどうしたらよいかという自分へのメッセージになった。各自が話し合いをもとに、自分の夢について考えを深めることができた。



中学校用P.31

(2) 授業を生かして、自分の思いを詩に表す。

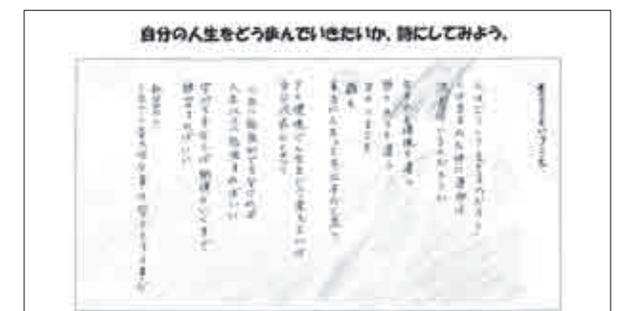
中学校用P.16～17にある「この人生の主人公」を読み話し合う。その後、自分の人生をどう生きていきたいか、「この人生の主人公」をもとに詩に表わす。

■「この人生の主人公」の詩を読み、心の声が聞こえる理由や胸を張って生きていくにはどうしたらよいかを話し合った。3年生は進路選択の時期でもあり、自分の人生を悔いのないよう生きていきたいという考えが多かった。

■「この人生の主人公」の詩を基に、自分の人生や夢、これからの生き方を詩に表した。詩から自分の人生に前向きに、真剣に向き合っていることがわかった。



中学校用P.16～17



生徒が書いた詩

1時間を通して活用する②

本場面におけるポイント

- **道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める**
1時間を通して活用する教材として「心のノート」を生かし、ねらいとする道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方について深める。
- **体験を書き込んで、自分の生き方を振り返る**
自分自身のものの見方、考え方、感じ方などを確かめたり、まとめたりすることで、自分を振り返ることができる。
- **話し合いで主体的な学びができる**
子どもが友達の考え方について理解を深めたり、自分の考え方を明確にしたりすることができ、主体的に道徳的実践力を育む上で効果的である。



● 道徳的価値やそれに基づいた人間としての生き方が自覚できる生かし方 (3年)

- 1 主題名 感謝の心〔内容項目2-(6)〕
- 2 資料名 中学校用P.64～67「ありがたい心の贈り物に…」
- 3 ねらい
互いに支え合って生きていることを自覚し、感謝の心を持ち、それにこたえていこうとする実践意欲を培う。
- 4 「心のノート」を生かす工夫
◇ 中学校用P.67「あなたの生き方がそのこたえになっていく」を生かして、教師が発問し、ねらいとする道徳的価値の追求につなげる。
◇ 子どもに本時のねらいに関わる体験を想起させ、感じたことや考えたことも含めて、中学校用P.67「あなたにはどんな『ありがとう』がありますか?」に記述させることで、自分自身の振り返りに役立てさせる。

5 展開の概要

学習活動の流れと主な発問など	留意点・「心のノート」の生かし方
1 中学校用P.64～67「ありがたい心の贈り物に…」を読み、感想を述べ合う。	◇ 板書に整理して、展開や終末における補助発問や話し合いで役立てる。
2 中学校用P.66の5通の手紙を読み、心に響いた手紙とその理由を発表する。	◇ ワークシートに記述し、ネームカードで意思表示させ、生活体験を思い起こさせる。
3 中学校用P.67「あなたの生き方がそのこたえになっていく」とは、どういうことを考え、話し合う。	◇ ワークシートに記述し、意図的な指名等により、交流させる。
4 中学校用P.67「あなたにはどんな『ありがとう』がありますか?」に記述し、自分自身を振り返り、考えをまとめる。	◇ 記述した内容を発表・交流し、相互に感想を述べ合わせ、余韻を残して学習を結ぶ。

表現し考えを深めるために工夫しながら活用する

6 授業の実際

- (1) 自分の考えを深めさせるための話し合いの機会を充実させる。

中学校用P.67「あなたの生き方がそのこたえになっていく」とはどういうことを考え、話し合う。

- 話し合いは、話すことと聞くことが並行して行われる。2人1組の対話や小集団による話し合いなどで、子どもが主体的に考え、その考えを深められるような場面を設定した。
- 学習活動3では、グループで「あなたの生き方がそのこたえになっていく」について、自分と友達の意見は、どこが同じでどこが違うのかなどの視点を基に話し合わせ、子どもの考えを深めさせた。子ども自身の体験も出し合わせることを手掛かりに、ねらいとする道徳的価値に気づき、深く感じたり考えたりできるような話し合いの機会を充実させた。



- (2) 自分の考えを書いたり、まとめたりする。

中学校用P.67「あなたにはどんな『ありがとう』がありますか?」に記述する。

- 書く活動を通して、自分自身のものの見方、考え方、感じ方などを確かめたり、まとめたり、記録に留めたりすることができる。また、それらを基に、今までの自分を振り返ることができる。
- 学習活動4では、「あなたにはどんな『ありがとう』がありますか?」について、自分自身と向き合わせ、自分の体験を想起させた。また、ねらいとする道徳的価値を追求するため、考えをまとめさせ、グループで交流させた。



道徳の時間の終末で活用する

本場面におけるポイント

- **考えたことを整理する**
「心のノート」の言葉や文、自分が記入したことなどを生かして、考えたことを自分なりにまとめる。
- **感動したことを確かめる**
「心のノート」にある名言やメッセージを見て、感動したことを確かめ、自分の心に刻もうとする。
- **関連するページからこれからへの課題をもつ**
「心のノート」での問い掛けや投げ掛けを自分のこととして受け止め、これからの生き方についての思いや課題をもつ。



● 「心のノート」を読むことで感動したことなどを確かめる（第6学年）

- 1 主題名 分け隔てのない心〔内容項目4-（2）〕
- 2 中心的な資料 「愛の日記」（文部省資料・平成6年）
- 3 ねらい 誰に対しても差別や偏見をもつことなく、公平にして、正義の実現に努めようとする態度を育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫
◇活用するページ: 5・6年用P.84～87「**どうしてゆがめてしまうのか？**」
◇終末の段階での生かし方: 終末で、P.84～85を開いて子ども一人一人が読む時間を作り、自分の感動などを確かめられるようにする。

5 展開の概要

学習活動の流れ
1 「公平でないな。」と感ずることについて話し合う。
2 資料「愛の日記」を読んで、「わたし」の気持ちや考えを中心に話し合う。 ○さびしそうなリャンちゃんを見たときの「わたし」 ○父の話を聞きながら考えを巡らせる「わたし」など
3 誰にも分け隔てなく接している人について、本で読んだりしたことを話し合う。
4 5・6年用P.84～85を一人一人が見て、自分の感じたこと、考えたことを確かめる。



「心の窓をくもらせない」

◇教師が読むのではなく、一人一人が自由に読んだときの受け止め方を大切にする。P.87の「心の窓をくもらせない」などを生かすことも考えられる。

6 「心のノート」活用の実際

道徳の時間の終末では、教師が「こうしてください」「こうすることが大切です」と考え方を強く示し過ぎて、反感を抱いてしまうこともある。

そこで、「このページにいいことが書いてあるよ。」と誘うように「心のノート」を配布して、「一人一人で見ながら今日の話を振り返ってみよう。」と投げ掛けた。

子どもが自ら考えを整理し今後につなげる

そうすることで、子どもは自分なりの価値観をつくり、生き方への思いや課題をもつことができると考えた。

不公平だなと疑問をもっても、どうしていいのかわからない。このクラスにも、今日のことと似たようなことがあるかもしれない。もっと自分に積極的になろう……。



「心のノート」のメッセージを感じ取る

● 「心のノート」に書かれている言葉を紹介し合って今後につなげる（第1学年）

- 1 主題名 みんなのことを考えて〔内容項目4-（1）〕
- 2 中心的な資料 「ごちそうさまのあとで」（文部科学省資料・平成23年）
- 3 ねらい みんなで使うものを大切に、約束やきまりを守ろうとする心情を育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫
◇活用するページ: 1・2年用P.72～75「**やくそくやきまりをまもろう**」
◇終末の段階での生かし方: P.75に書き込んである内容を紹介し合うことによって、日常の中でみんなで使うものを大切にしたり、約束やきまりを守ろうとしたりする気持ちを高めていく。

5 展開の概要

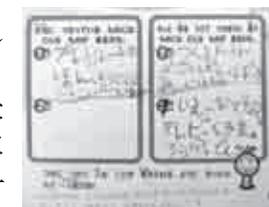
学習活動の流れ
1 あふれたごみ箱や汚れているトイレなど約束やきまりが守られていないものや場所の写真を見て、感じたことを発表し合う。
2 資料「ごちそうさまのあとで」を読んで、スプーンかごの気持ちやみっちゃんやけんちゃんの気持ちについて話し合う。 ○スプーンが整理されているときのスプーンかごの気持ち ○スプーンがはみ出して入れられたときのスプーンかごの気持ち ○スプーンを揃えてくれたみっちゃんやけんちゃんの気持ち
3 次に使う人のことを考えて行動できたこと、できなかったことを思い起こす。
4 P.75に書き込んである内容に目を通したり、紹介し合ったり、新たに書き込んだりする。

◇P.75「やくそくやきまりをまもろう」に記述されている内容に共感的なコメントをしておき、終末段階で自らの記述だけでなく、教師のコメントにも目を通すことができるようにすることで、ねらいとする道徳的価値に対する考えを深められるようにしておく。

6 「心のノート」活用の実際

子どもは、「心のノート」のP.75に大切に使っているものや、これからもっと気を付けて使おうと思うものを記述していた。

また、P.74の挿絵を見て、みんなで使用するものを紹介し合ったときは、身近なものを単に紹介するだけでなく、そのときの出来事にも触れて、話し合う姿が見られた。4-（1）の「公德心」の視点を子ども自身が自分の経験を基に捉えることができたものと考えられる。



子どもの記入例

道徳の時間の終末で活用する

本場面におけるポイント

- 道徳的価値についての自覚を深め将来の実践へつなぐ
終末場面での「心のノート」の活用は、追求した道徳的価値や内容について考えを深めたり、まとめたりすることにより、道徳的価値への憧れをもち、実践への密かな決意をするのに役立つ。
- 余韻をもたせ今後の活動につなぐ
終末場面は短時間での効果的な活用を工夫し、関連ページを読んだり、書き込みを行ったりしながら、余韻をもたせて終わることに心掛けたい。



● 様々なページの多様な活用を考えた事例 (第3学年)

- 1 主題名 君ならどう生きる [内容項目3-(1)]
- 2 中心的な資料 「たとえぼくに明日はなくとも」 (文部省資料・平成5年)
- 3 ねらい
限りある生命を精一杯生きることの大切さを理解させるとともに、かけがえない生命を尊重しようとする心情を育てる。
- 4 展開の概要

(1) 「心のノート」中学校用P.84を読み、感想を話し合うことにより、ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。

(2) 資料を読み、正一と父親の言動をもとに、生命について考える。

(3) 私たちは、二度とない人生を、どのように輝かせているかについて話し合う。

(4) 「心のノート」の関連ページを活用してまとめる。



5 「心のノート」活用の実際

◆ 導入と同じページを読み、余韻をもたせて終わる事例

指示・発問例



この授業の初めに読んだ、84ページの詩をもう一度読んでみよう。

同じところを読んだのに、別の詩を読んでいるような感じで驚いた。正一君の切なさや、決心が全部この詩の中に表れているような気がして涙が出そうになった。



道徳的価値への憧れと、実践意欲を育む

◆ 導入と異なる関連ページを読んで、感想を出し合う事例



指示・発問例

「心のノート」86ページの「いつか終わりがあること」を読んでみよう。



指示・発問例

この詩を読んで、人生や命についてどんなことを考えましたか。



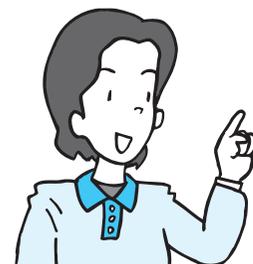
「自分の命だって、きっと終わりがやってくる」という言葉に、ドキッとしました。正一君は、そのときが早かっただけで、ぼくたちも同じなんだと思った。

前半は、なんか悲しくなるけど、後半は、やる気が出てくる詩だ。どうしたら自分を輝かせられるか考えてみようという気になった。早く自分なりの答えを見つけない。

◆ 関連ページへの書き込みや紹介をして終わる事例

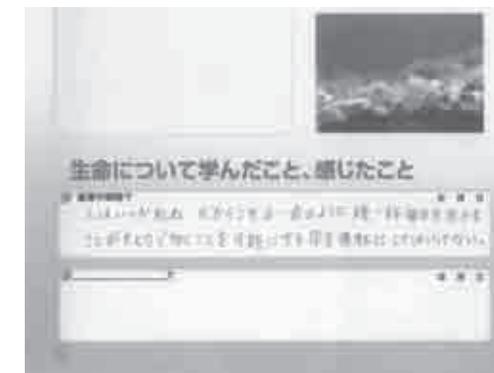
中学校用P.74

指示・発問例



今日の学習を通して学んだこと、感じたことを74ページの「道徳の時間で」のところに書き込もう。

中学校用P.72~73



指示・発問例

「74ページのほか、73、75ページにも記入できる欄があります。感じたこと、考えたことがあったらいつでも自由に記入してください。74ページは、皆さんが生まれた日のことや幼かった頃のことを家の人に聞きながら記入することもできます。誕生日などに取り組むのもいいですね。」

道徳の時間の事前に活用する

本場面におけるポイント



- **機会を見て話題にする**
朝や帰りの話合いなどで話題にし、日常的な関心を掘り起こしておく。
- **記入する機会をつくる**
事前に学級の全員で記入する機会をつくることで、一人一人の問題意識を高められるようにする。また、書いた内容を実態把握などに生かす。
- **家庭に呼び掛ける**
事前に家庭での話合いや書き込みを依頼しておく。

● 事前に家庭で話題にしてもらい、その内容を授業に生かす事例（第1学年）

- 1 主題名 自分の仕事をがんばる〔内容項目4-(2)〕
- 2 中心的な資料 「みんなのニュースがかり」（文部科学省資料・平成24年）
- 3 ねらい 働くことのよさを感じて、みんなのために働こうとする態度を育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫
◇活用するページ: 1・2年用P.78～79「わたしのしごと」
◇事前における生かし方: 授業が近付いたときに、学級通信などでP.78～79の内容を話題にして、家庭でしている仕事を話し合ってもらう。また、できればP.79に励ましの言葉を書いてもらうようにする。

5 展開の概要

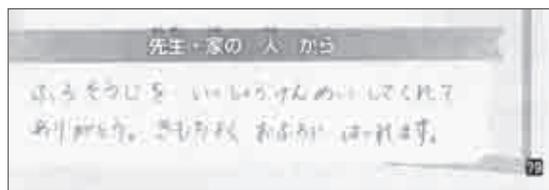
学習活動の流れ
1 家で自分が、今、特にがんばっている仕事について話し合う。
2 資料「みんなのニュースがかり」を読んで、主人公けいすけの気持ちを考える。
3 自分がみんなのためになる仕事をしたことを発表し合う。
4 家の人にどんなふうに励ましてもらったかについて確かめて、意欲を高める。

6 「心のノート」活用の実際

2学期の後半に、家庭でP.78～79を話題にして、子どもを元気付ける言葉をP.79に書くことを依頼した。

道徳の時間では、終末でそれらを生かした展開を工夫した。

なお、家庭の事情等に配慮して教師が事前に書き込むようにすることも考えられる。



保護者の元気付ける言葉が子どもを励ます

● 道徳の時間につなげるために朝や帰りの話合いの中で用いる事例（第3学年）

- 1 主題名 節度のある生活〔内容項目1-(1)〕
- 2 中心的な資料 「目ざまし時計」（文部省資料・平成3年）
- 3 ねらい 自分でできることは自分でやり、節度のある生活を行おうとする態度を育てる。

あらかじめ「心のノート」を用いておくことで道徳の時間が活性化する

- 4 「心のノート」を生かす工夫
◇活用するページ: 3・4年用P.12～15「ふみ出そうひとり立ちへのたしかな歩み」
◇事前における生かし方: 本主題の授業が近付いたときに、朝や帰りの話合いなどでP.15を話題にして、どれかを書き込み、発表し合う機会をもつ。

5 展開の概要

学習活動の流れ
1 どんとときに家の人から「自分のことは自分でしなさい」と言われるか発表する。
2 (1) 資料「目ざまし時計」を聞いて、リカに共感しながら話し合う。 (2) 後悔したことや、自分なりにがんばれたことなどを思い起こす。
3 P.15を開いて、書いたことを確かめ、付け加えたいことがあるときは付け加える。

6 「心のノート」活用の実際

3年のある学級では、学期の区切りなどに「心のノート」P.12～15に書き加える機会をついている。この授業の前にも同じように開いて、自由に見て話し合うようにした。授業では、そのこととつなげて話し合う場面を終末につくった。

● 子どもの実態把握のために教師が「心のノート」を生かした事例（第6学年）

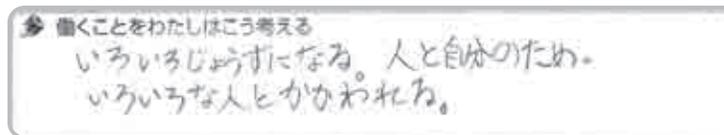
- 1 主題名 働くことの大切さ〔内容項目4-(4)〕
- 2 中心的な資料 「ぼくの草取り体験」（文部省資料・平成6年）
- 3 ねらい 働くことの意義を理解し、公共のために働こうとする気持ちを育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫
◇活用するページ: 5・6年用P.92～95「働くってどういうこと?」
◇事前における生かし方: 本授業の前にP.93の記入欄に書いておくことを呼び掛ける。また、書いたことについて見取り、授業に役立てる。

5 展開の概要

学習活動の流れ
1 「働く」ことのイメージを発表し合う。（「心のノート」に記述したことを生かす。）
2 資料「ぼくの草取り体験」をもとに話し合う。
3 「働く」ことのイメージをふくらませ「心のノート」のP.93に書き加える。
4 「心のノート」のP.95を見て意欲を高める。

6 「心のノート」活用の実際

P.85に子どもが書く内容には、「人と自分のため」「生き延びるため」「生きがいとするため」「楽しむためのお金をもらうため」など、多くの考えが表れていた。それらを読み取り、授業での指名に生かしたり、教師からの情報を提示したりした。



P.93に書き込んだ「働くことをわたしはこう考える」

道徳の時間の事後に活用する

本場面におけるポイント

- **道徳的価値についての考えをさらに深め、発展させる**
道徳の時間に学習した道徳的価値についてのページを活用して考えを深め、さらに関連したページを活用することによって考えを発展させることができる。
- **他の活動につなげ、自己理解を深める**
記述した内容を各教科等の学習と関連付けて活用して考えを発展させたり、同じページに重ねて記述したりすることで、何度も自己を見つめ、自己理解を深めることができる。
- **様々な人の生き方に学ぶ**
自分以外の人による記述から、より客観的に自己を見つめるとともに、保護者や地域の人々の考えを知り、よりよい生き方を考えることができるようにする。

●重ねて活用して自己を振り返った事例(第1学年)

- 1 主題名 反省と向上 [内容項目1-(5)]
- 2 中心的な資料 「じいちゃんへ」(文部省資料・平成3年)
- 3 ねらい 自らの生活を振り返り自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を求めようとする態度を育てる。
- 4 展開の概要

- (1) 校長講話「自分らしさの発見」を思い起こす。
- (2) 資料を読んで、筆者が大工になろうとした理由を考える。
- (3) 大工の師匠として祖父を選ぼうとしたのはどんな気持ちからかを考える。
- (4) 自らのよさを将来の職業に結び付けて考える筆者から学ぶことを考える。
- (5) 校長講話「自分らしさの発見」を再び思い起こしながら自分の個性について「心のノート」に記述する。

事後「友達から見た自分」を参考に「心のノート」に再度記述する。

- 「友達から見た自分」の記入用紙はP.37「自分のこんなところを」「こうしたい」を「あなたのこんなところを」「こうすれば」に変えて印刷した用紙を使用する。

5 「心のノート」活用の実際

- **中学校用P.36～37「あなたらしさがあなたの個性」**を複数回活用することで様々な角度から自己を見つめ、本授業の事後でも再度自己を振り返るようにした。
- 他の道徳の時間の後にも、自己を振り返りながら活用できる。

- 1回目 生命の尊重の授業後で活用
- 2回目 家族愛の授業後で活用



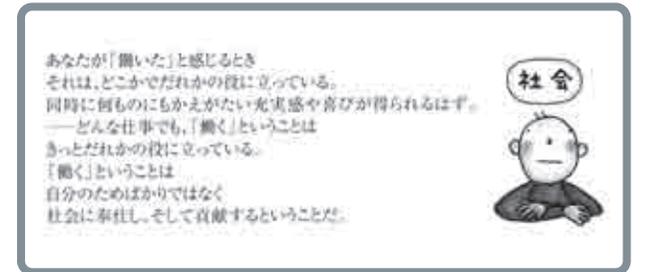
中学校用P.37

- 3回目 校長の講話を思い起こし活用
- 4回目 本授業の事後で活用

より多面的に自己を見つめ、自己理解を深める

- (発展として) 道徳の時間に学習した道徳的価値について関連ページを活用した。
・授業後に**中学校用P.108～111「考えよう「働く」ということ」**を読み、働くことは生きがいにもつながることを考えた。
職場体験学習に活用することもできる。

中学校用P.111



●記述内容を発展させて活用した事例(第3学年)

- 1 主題名 わたしの家族 [内容項目4-(6)]
- 2 中心的な資料 「スダチの苗木」(文部省資料・平成6年)
- 3 ねらい 父母への感謝と敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚を高めようとする態度を育てる。
- 4 展開の概要

- (1) 進路アンケートの内容を知る。
- (2) 資料を読み、職業欄に「運転手」または「農業」と書いた両親の気持ちを考える。
- (3) 給料の全てを母に渡し、子どものために働き続ける父の思いを考える。
- (4) 自らの生い立ちを語った父の気持ちを考える。
- (5) 筆者はスダチの苗木にどのようなことを感じているのか話し合う。
- (6) 事前にかけてもらった家族からの手紙を読み、家族について考える。

事後「心のノート」を読み、記述し、それをもとに作文を書き、保護者から手紙や感想をもらう。

5 「心のノート」活用の実際

- 学習した道徳的価値にかかわるページを活用して考えを深めた。
・**中学校用P.112～115「家族だからこそ…」**を読み、家庭を築いたときの考えを記述した。
・「心のノート」に記述したことをもとにして今の「家族への思い」を作文にした。
・「心のノート」への記述や作文を家族に読んでもらい、会話のきっかけをつくった。
・家族からの感想や手紙をもらい、家族との交流に役立てた。
- 国語科や技術・家庭科等の授業でも活用できる。

中学校用P.115



時々、家族以外の人から父の背中にかけてられる責任の重さに、父がいつか耐えられなくなるのではないかと心配になる...

大きな責任への心配をありがとう。父より

外国語活動で活用する

本場面におけるポイント

- 道徳の内容項目を意識して、言語を用いたコミュニケーションの大切さを実感する
内容項目2-(2)は、特にコミュニケーション能力の土台となるものである。他の人との関わりに関する内容を意識して、さらに子どもの意欲や学習の成果を高めていく。
- 多様な表現活動を通じて、体験的な学びをする
「困った人を助けるとき、外国語でどうするか」のような活動や、プレゼンテーションなどの表現活動を通して、体験的な学びを深めていく。
- 世界とのつながりを、「心のノート」を通じて考えていく
導入で「心のノート」一心は世界を結ぶ一を読むことで、世界とのつながりを感じ、それぞれの文化に対する視野を広げていく。

4 外国語活動での活用

● 「心のノート」を活用し、内容項目を意識して活動する実践(第5学年)

- 1 単元名 May I help you?
- 2 ねらい 人を助けるときや、感謝の気持ちを表すときの表現に親しみながら外国語を通じた友達との関わりを楽しむ。
- 3 指導計画(全3時間)

学習活動の流れ	
第1時	Thank youの表現に親しむ。
第2時(本時)	<ol style="list-style-type: none"> 1 様々な場面のThank youを確認する。 2 「心のノート」高学年P.44~45を読んで、親切な行動やそれを支える思いについて考える。 3 教師による May I help you? の表現を聞いたり、それらをくりかえし言ったりしてその表現に慣れる。 4 ペアをつくり、「困ったカード」を用いて“May I help you?” “Thank you”の表現に親しむ。 5 もう一度、「心のノート」高学年P.44~45を読み、今日の学習を振り返る。
第3時	学習したことを劇にして、さらに表現に親しむ。

5 「心のノート」活用の実際

① 導入での活用

配布された「心のノート」を真剣に読む子ども。親切な行為や、それを支える心情について、それぞれに考えていた。

4 「心のノート」を生かす工夫



5・6年用P.44~45

導入で「心のノート」を読んで、親切な行為の根底にある思いやりについての考えを深める。それにより、ただ“May I help you?” “Thank you”の表現をするだけでなく、行為を支える思いも考えながら表現に親しむことができる。



導入で「心のノート」を読む子ども

多様な表現活動や体験的な学びに生かす

② 表現活動に親しむ

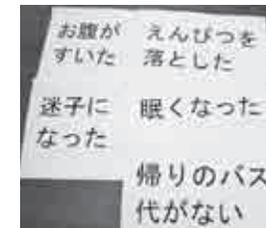
右の「困ったカード」を用いて主な活動を行った。子どもが2人組をつくり、そこで教師が「困ったカード」を提示し、一人の子どもはその



劇の表現を楽しむ様子

「困ったしぐさ」をする。もう一人の子どもは“May I help you?”と言いながら手助けをして、助けられた子どもは“Thank you”と返す。この活動を2人分繰り返したら、また次のペアをつくっていく。

児童はスキット(寸劇)を楽しみながらも、助けようとする思いやりや助けられる喜びを感じていたようだった。



● 外国の文化について調べ、プレゼンテーションをする事例(第6学年)

- 1 単元名 外国の文化を調べて、プレゼンテーションをしよう
- 2 ねらい 調べ活動などを通して外国の文化への理解を深め、自分の考えをもつ。
- 3 指導計画(全4時間)

学習活動の流れ	
第1時	世界の国々への意識を高め、テーマにそってグループごとに調べ学習をする。 ○「心のノート」5・6年用P.108~110を読み、外国への意識を高める。 ○少人数のグループをつくり、調べ学習を始める。
第2時 第3時	調べたことをまとめ、プレゼンテーションの準備をする。
第4時	グループ毎にプレゼンテーションを行う。 ○学習を振り返り、まとめる。

※調べ学習については、事前に学校司書などに相談しておくことよい。

5 「心のノート」活用の実際

① 導入での活用

テレビにコンピュータを接続して資料提示をすることにより、学習への意欲が高まっていた。



② 調べ学習・プレゼンテーション

自分の好きな国の文化なので、児童は興味をもって積極的に調べ、まとめていた。少人数グループにすることで、プレゼンテーションでも一人一人の活躍の場が設定できた。



学校司書の協力を得て調べ学習を進めた

総合的な学習の時間で活用する

本場面におけるポイント

- **問題に目を向ける**
子どもが多様な問題に目を向けて学習課題をつくる時の情報として生かす。
- **学習方法や心構えを学ぶ**
体験的な追究活動をする時の学び方や心構えなどを考える補助教材として生かす。また、追究の観点や方法を広げるために役立つ。
- **学んだことを書き留める**
学習を通して感じたこと、考えたことを忘れないようにするために書き留めておく。



● ボランティア精神を育てる体験活動の中で生かした事例 (第3学年)

- 1 単元名 お年寄りとともに——一人暮らしのお年寄りを支える会の人と—
- 2 ねらい ◇一人暮らしのお年寄りが喜んでくれることが様々にあることに気付く。
◇お年寄りに喜んでもらうために、工夫して会を開くことができる。
◇自分のやりたい活動を考えて見通しをもって進めようとする。
- 3 学習で生かす「心のノート」のページ
3・4年用P.36～39「**礼ぎ—形を大切に—して心をかよわせ合う**」
3・4年用P.48～53「**みんなにささえられているわたし**」
- 4 単元計画と「心のノート」を生かす場面

活動のおよその流れ(全23時間)	留意点・「心のノート」の活用
1 一人暮らしのお年寄りからの手紙を読んで感じたことを話し合う。② ・お年寄りが困っていることはどんなことか。 ・自分たちにできそうなことはどんなことか。	◇事前に一人暮らしのお年寄りに依頼して、気持ちなどを書いてもらったものをを用いる。
一人暮らしのお年寄りが喜んでくれる交流の会をしよう	◇準備の途中で、お年寄りとの心の通わせ方を考えるために、P.36～37を用いて話し合う。
2 交流の計画を立てて準備を進める。⑤ 3 交流の会を開く。③ (社会福祉協議会の方と一緒に) 4 うまくいかなかったこと、できなかったことはどんなことか考える。② 5 次の交流の会でもっと工夫しよう。⑥	◇1回目ですぐうまくできなかったことをどのように直し、加えたらよいのかについて考えられるようにする。
もっと工夫した交流の会をして喜んでもらおう	◇お年寄りから聞いた話の中で書いておきたいことをP.50に書き留めるように促す。学習で用いた学習シートの内容を転記することも考えられる。
6 もう一度交流の会をして、お年寄りにもっと喜んでもらおう。(ふれあい活動、劇や合奏の実演など)③ 7 活動を振り返って、これからできそうなことを考えよう。②	

※このほかにも7の学習活動などで、P.76～79「**みんなのために流すあせはとても美しい**」の中のP.78～79の記入欄などを生かすことも考えられる。

様々な体験活動を通して自分らしい生き方を考える

5 「心のノート」活用の実際

(1) 交流会の準備のときに役立つ

より心の込もった活動にしたいという考えから、気持ちのよい礼儀について考えるとき、P.36～37を見て考えられるようにした。活動の中ではおよそ次のような流れでこのページを生かした。

- ① P.36に書いてあることを発表したり、気付いたことを書き加えたりする。
- ② P.37の内容を参考にして、練習をする。
- ③ 難しかったことを話し合い、一人一人がめあてをもつ。

(2) お年寄りから学んだことを記録する

子どもたちは、お年寄りが今までどんなことをがんばってきたか、またどんなことが好きなのかを聞いたりする。その中で、子どもが忘れたくないと思うことがいくつもある。

そこで、「忘れないように自分の心のページに記録しておこう。」と投げ掛けて、P.50を紹介した。子どもは、思い思いに書き込んでいた。



大切にしたい礼儀にどんなものがあるだろう



自分の心にしっかりと記録を

● 地域生活での問題に目を向ける体験的な学習の導入で生かした事例 (第5学年)

- 1 単元名 この町をどうする—環境会議を開こう—
- 2 ねらい ◇地域生活の特色や問題をつかむために、自ら地域に関わろうとする。
◇身の回りの環境を改善するためにできそうなことを進んで考える。
- 3 学習で生かす「心のノート」のページ
5・6年用P.80～83「**ぐるりとまわりを見渡せばよくしていきたいこの社会**」
- 4 単元の流れの概要(全30時間)

学習活動の流れ
◆ 地域の生活環境にどんな問題があるだろう④ (※P.80・81を活用する)
◆ 町の生活環境の調査をしよう⑥ ・調べたいことははっきりさせよう ・実際に聞いたり調べたりしよう
◆ 役所の人に聞いてみよう④
◆ 調べたことをもとに環境会議を開こう⑥



このページから子どもの問題意識が広がる

P.80～81を見ると、子どもは「ほかにもこんなところがあるよ」と次々と発表する。「今、どうなっているんだろう」「どんな感じだろう」という疑問が、子どもの問題意識となって、生活環境を調査しようという意欲を高めることにつながられる。

総合的な学習の時間で活用する

本場面におけるポイント

- 課題設定を促す
「心のノート」は子ども一人一人の課題設定を促すことに生かすことができる。
- 学習活動のヒントにする
体験的な学習や問題解決的な学習の具体的内容と関連付けることが可能である。
- 自己の生き方を考えられるようにする
様々な課題の中で、自己の生き方を考えることができるようにする。

● 自然環境から自己の生き方を考える学習活動の中で生かした事例 (第2学年)

- 1 単元名 人間と自然環境
- 2 目標 ◇自然環境に対する関心を高め、今日的課題とその原因を見つけ、問題解決へと結び付ける力を養う。
◇自然を愛し、環境保全への態度を育み、これからの自分の生き方を考えることができるようにする。
- 3 単元計画と「心のノート」を生かす場面

活動のおよその流れ	「心のノート」を生かす場面
オリエンテーション(1時間) 本学習活動のねらいを知るとともに、自然環境への関心を高める。	○「環境クイズ」にチャレンジしよう! クイズの一部に「心のノート」にある写真を用いて、自然環境への関心を高める。
課題設定(2時間) 自然環境の今日的課題について様々な資料を基に考え、本学習活動での個人別テーマを決定する。	○「イメージマップ」を書こう! イメージマップを作成するための一資料として中学校用P.75を生かす。
課題探究活動(10時間) 個人別・グループ別テーマを基に、課題探究活動の活動計画を作成し、活動を進める。	○探究活動を深めよう! それぞれの探究活動に関連のある「心のノート」のページを意識させるようにする。
学習のまとめ(2時間) 課題探究活動の結果と自分の生き方について考えた内容を報告書にまとめるとともに、多様な方法を用いてわかりやすい発表を行う。	○これからの生き方を考えよう! 本学習活動の成果を基に、中学校用P.78～79を生かして今後の自然との関わりについて考える。

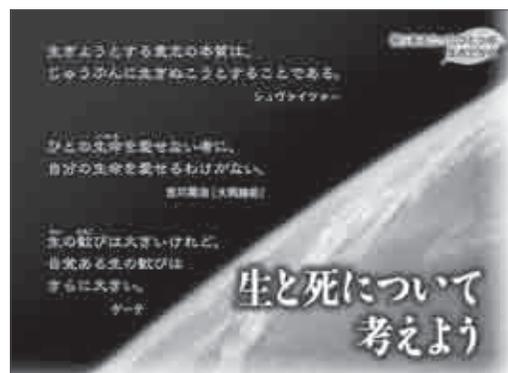
4 「心のノート」活用の実際

(1) 「環境クイズ」にチャレンジしよう!

「大気汚染」の問題例
地球をりんごの大きさに例えると、空気の層はどれくらいの厚さでしょうか。
ア りんごの皮くらい イ りんごの皮5枚分
ウ りんごの皮10枚分 エ りんごの皮50枚分

正解はアの「りんごの皮くらい」である。中学校用P.75の写真を提示し、地球の地平線上にうっすら白く見える空気の層を再確認することで空気の層が限られたものであることを再確認することができる。

生命に関する中学校用P.75の内容から環境を考える



体験的な探究の中で自己の生き方を考える学習に生かす

(2) 「イメージマップ」を書こう!

「イメージマップ」のまん中に中学校用P.78～79の写真を印刷した。子どもは、これを見て自然についての「願い」「疑問」「気付いたこと」等について思いをめぐらせた。

ある子どもは、写真を見ながら、右の図のように「ごみ」「空気」「水」「森林」「食べ物」「異常気象」等を書き出した。そして、これらの言葉や疑問をつなげて、自分の興味・関心のあるテーマを探究するようになった。

本活動でのイメージマップづくりに「心のノート」の写真を使用したことにより、「心のノート」活用の促進にもつながった。



◀子どものイメージマップ記入例▶



(3) 探究活動を深めよう!

清掃工場にフィールドワークに出掛けたある子どもが、「心のノート」のP.98に「ごみは永遠に出るもの。だから一人一人が気をつけないとだめ。今はごみの分別があまりされていないのでしっかりとやろうと思った。」と記述した。

そこで、教師は「環境学習で学んだことを今日からの行動に生かそう。」と言葉を掛け、子どもの具体的な行動への意欲を喚起させた。

(4) これからの生き方を考えよう!

学習発表会で、子どもは「オゾンホールができる経緯」をまとめ、右のように「紙芝居」を使って被害の大きさについて訴えた。

その後、「心のノート」に自然との今後の関わりについて自分の考えをP.79に記入した。「かつて素晴らしく便利と言われていたフロンガスが、地球のオゾンホールを破壊していた。私は、これまで便利さや快適さを第一に考えてきましたが、これからは地球環境にとって何が大切かを第一に考えていきたいです。」と記入していた。

これからの自己の生き方を考える上で、「心のノート」も大いに活用できるようにしたい。



中学校用P.98の記入例



紙芝居で学習発表する子ども

学級活動で活用する

本場面におけるポイント

- 学級における人間関係を見直す
望ましい人間関係について考えるための資料などとして生かす。
- みんなでやってみたいことを考える
話し合い活動の前に、自分のアイデアをまとめる場として生かす。
- 学級生活向上への意欲を高める
子どもが自分の学級の生活を一層充実させるための手掛かりとして生かす。



※以下では、学級活動(1)学級活動(2)についての指導事例を3つ取り上げている。

●友達のよさを感じ、望ましい人間関係を広げるために生かした事例(第2学年)

- 1 題材 友達パワーで元気よく〔学級活動(2)ウ 望ましい人間関係の育成〕
- 2 ねらい 学級の友達のだれとでも遊び、仲よくしようとする意欲を高める。
- 3 「心のノート」を生かす工夫

◇活用するページ: 1・2年用P.44～47「友だちといっしょ」

◇学習での生かし方: P.46～47「ともだちパワーをあつめよう」のページをファイルに綴じておき、子どもたちには、いつでも書いてよいことを話しておく。日頃から、朝の会・帰りの会などで投げ掛けておくようにする。

4 展開の概要

- 1 ① P.46～47の友達からもらった「はげましのことば」や「うれしかったことば」を紹介し合う。
② 思い付いた他の言葉を書き加えて、友達との出来事をさらに思い起こす。
- 2 どんな言葉が特に元気が出るのかについて出し合う。
- 3 それぞれ、どんな元気が出るのかを考えて、「パワー」の名前をつける。
- 4 自分は、友達が「どんなとき」に、「どんな言葉」をかけたか、めあてを立てる。

5 「心のノート」活用の実際

P.46～47は、友達からの言葉を書く欄になっており、うれしい言葉をもったとき、自由に「心のノート」ファイルを開いて書き込むことができる。子どもたちの様子を見ながら、言葉が集まってきたところで、本時の授業に生かすようにすると効果的である。

また、それぞれに「パワー」の名称を工夫してつけることで、友達関係をより大事にしようとする気持ちが高められると考えた。



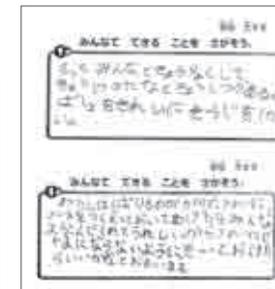
子どもが集めた「ともだちパワー」

楽しい学級生活づくり、やさしい仲間づくりの手掛かりとして

●話し合い活動の入門期に議題を決めるための手掛かりとして生かした事例(第1学年)

- 1 議題 みんなで話し合おう〔学級活動(1)〕※事前指導
- 2 ねらい 話し合い活動の入門期として、「みんなでやってみたいこと」を見つけて、学級の議題を決めることができるようにする。
- 3 「心のノート」を生かす工夫
◇活用するページ: 1・2年用P.86～87「お世話になってます」
◇学習での生かし方: 朝の会などで、「みんなでやってみたいこと」を書いておき、自分の意見として発表するときに生かす。
- 4 「心のノート」を生かした授業の概要

- 1 自分が書いた「みんなでやってみたいこと」を発表し合う。
- 2 分類する。「遊び」「きまり」「係」など
- 3 多かった内容や、すぐに話し合った方がよいものを見つける。
- 4 学級会で話し合う議題を決める。



議題箱と用紙を用意し、いつでも書けるようにしておく、次回からは事前に司会グループと担任でこの活動を行い、学級会を行うことができる。

●学級生活向上への動機付けや意欲付けの題材として生かした事例(第4学年)

- 1 題材 ますます楽しい学級に〔学級活動(2)ア 希望や目標をもって生きる態度の形成〕
- 2 ねらい 学級生活への希望や願いをもち、学級生活を一層楽しいものにできるようにする。
- 3 「心のノート」を生かす工夫
◇活用するページ: 3・4年用P.84～87「学校はどんなところ?」
◇学習での生かし方: 3・4年用P.84～85を用いて自分たちの学級生活のよさを膨らませ、さらに、P.87を用いて学級における一人一人の役割意識などを高める。
- 4 「心のノート」を生かした授業の概要

- 1 自分たちの学級にはどんなよいところがあるか。
(P.84～85の記述を自由に生かして話し合う)
- 2 もっと楽しい学級にするにはどうすればよいだろう。
(学級における集団生活の改善点などにも目を向ける)
- 3 学級のために自分ができることを見つけてみよう。
(P.87の4つの欄にめあてを決めて書く)



より楽しい学級にするためにこんなことができる

子どもたちが書いたこのページを、しばらく教室に掲示しておく、毎日帰りの会で振り返ることができる。また、自己評価や他者評価ができることで意識化につながり、自分や友達のよさや伸びを知ることができ、さらには学級の質的向上にもつながる。

学級活動で活用する

本場面におけるポイント

- 自己理解を深める
自分に自信の持てない子どもが多い中で、自己を見つめ欠点や短所も含めて自分をまるごと好きになることで自尊感情を育むことができる。
- 望ましい勤労観・職業観の育成に生かす
望ましい勤労観・職業観の育成は、進路指導における基本的な内容であり、「心のノート」にはこれらの学習に生かすことのできるページが多くある。
- 主体的な進路学習につなぐ
「心のノート」は、子ども自身による主体的な進路学習に生かせる内容・構成になっている。自己の生き方を見つめ、自己の目標を定めて努力することに役立つ。



※以下では、学級活動(3)についての指導事例を3つ取り上げている。

●自己理解を深める場面での活用事例

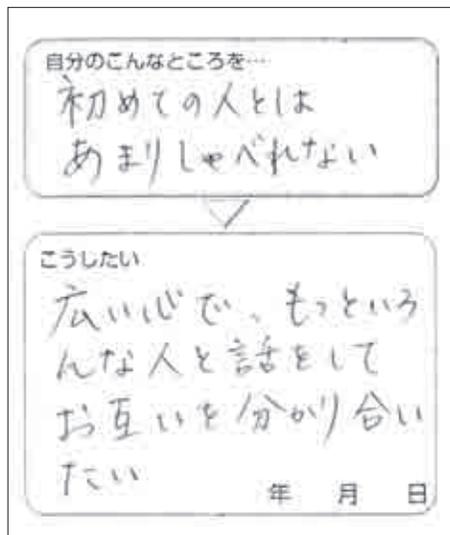
- 1 題材名 自分を知ろう (第1学年)
- 2 ねらい
自分の個性・能力・適性を知ることの必要性を伝えることから自尊感情を育み、個性等の伸長を図る。
- 3 活動と「心のノート」活用の実際



中学校用P.34~35

中学校用P.34~35「自分をまるごと好きになる」を読む。

- 自分を伝えよう。
(時間を計って、ゲーム的要素を取り入れる)
①自分にできることをできるだけたくさん相手に伝える。
②自分の好きなものをできるだけたくさん相手に伝える。
③自分の性格、特技、長所や短所を相手に伝える。
- 相手の特徴やよさを伝えよう。
相手の特徴や長所をワークシートに書いて交換する。
中学校用P. 32~33「あなたらしさがあなたの個性」を読み、相手が渡してくれたシートの内容を参考に「でこぼこの自分だけれど…」を記入する。



中学校用P.37

●職業の意義について考える活動での活用事例 (第2学年)

- 1 題材名 職業の意義
- 2 ねらい
働くことの意義を理解させ、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。

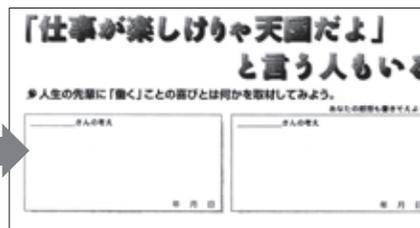
自己理解を深め、進路について考える場面での活用

3 活動と「心のノート」活用の実際

- 「人は何のために働くの?」について考えよう。
①自分の意見を短冊に書き、黒板に貼る。
②KJ法を用いて、黒板の短冊を整理する。
- みんなの考えの共通点について話し合おう。
①整理した短冊の共通点は何かを明確にする。
②提示された職業の三要素について、説明を聞く。
中学校用P.108~109「考えよう「働く」ということ」を読み、理解を深める。
- 感想や意見を発表しよう。
職場体験学習等を通して自分が感じたこと、考えたことや働くことの意義について意見交換する。
中学校用P.110~111「「働く」ということには社会を支え、世の中に貢献する力がある。」を見て、特にP.111の書き込み欄などに家庭や地域での取材をもとに記入する。

「心のノート」の内容を補助資料として扱う

中学校用P.109「働くことがもっている大きな意義」には、進路学習で扱われる「職業の三要素」としての経済性、個人性、社会性に関する内容が記述されている。「職業の三要素」についてよりわかりやすく理解させるための補助資料として用いることができる。



中学校用P.111

●夢や目標の実現について考える場面での活用事例 (第3学年)

- 1 題材名 将来設計
- 2 ねらい
夢の実現までに出会う様々な試練や問題を想定させながら、問題解決のための方法について考えることを通して、自己実現への意欲を喚起する。
- 3 活動と「心のノート」活用の実際

- 夢や目標をもつことは、なぜ大切なのだろう。
夢や目標をもつことについて意見交換する
中学校用P.30~31「自分の人生は自分の手で切り拓こう」を読み、生きていく上で夢や目標をもつことが大切であることに気付く。P.32を記入する。
- キャリアをデザインしてみよう。
人生の目標として考えられることを提示し合う。
中学校用P.23「人生の目標について」を参考資料として活用する。
マイ・キャリアデザインのワークシート(「~年後のわたし」)を記入する。

- 夢の実現までをシミュレーションしてみよう。
①目標達成までにどんなことが予想されるか発表する。
中学校用P.24~25「努力することってすばらしい」を参考に問題を予想する。
②そのとき、どんな心境になるか。
●「目標達成必勝法」ワークシートを完成させよう。



中学校用P.32

クラブ活動で活用する

楽しい活動の中で、自発的、自主的な態度を育てる手掛かりとして

本場面におけるポイント

- **クラブ活動における個性の伸長を図る**
クラブ活動への興味や期待を大切にしながら、協力して活動する意欲を高める手掛かりとして生かす。
- **クラブ活動において自発的・自主的な態度を育てる**
各クラブの特色を生かした活動の内容を深めるために生かす。
- **クラブ活動の次年度への意欲を高める**
次年度に向けた活動への意欲を高めるための資料として生かす。



個性の伸長を図りながら協力して活動する意欲を高める事例（第4学年）

4年生になった子どもたちは、初めてのクラブ活動をとて楽しみにしている。学級でクラブの紹介をして希望調査をするときに、「心のノート」を活用することで、興味・関心を追究しながら、自己を生かすことができる。

【学級での事前指導の中で活用】

- ① 自分が好きなことや興味があることを書く。(P.32)
- ② 紹介し合う。
- ③ クラブの紹介を聞いて、自分が入りたいクラブを選ぶ。
- ④ 迷っているときには、子どもたち同士でアドバイスをする。



3・4年用P.32～33



ヘルシーおやつクラブの活動

1学期最後のクラブ活動の時間には、1学期の振り返りを行うようにするとよい。その際クラブ活動1年目の4年生には、特にクラブ活動の楽しさや自分の活動のよさを感じることができるようになるため、内容だけでなく、自分の活動の様子や活動をして思ったことなども振り返って紹介できるようにしたい。

【1学期最後のクラブ活動の時間に活用】

- ① クラブ活動の中で楽しかったことや協力したこと、工夫したこと、思ったことなどを考える。4年生は「心のノート」ファイルを持って行き、P.33に書く。
- ② 4年生は書いたことを基に発表する。
- ③ 5・6年生は、運営面や計画、実際の活動について考えたことを発表する。
- ④ 2学期に生かしたいことを考える。

クラブ活動の時間の中での活用事例（5・6年）

学校や地域の特色を生かした様々なクラブがあるので、そのクラブの特性をより生かすことができる活動にするために、「心のノート」を活用することができる。

【第1回目のクラブ活動の時間とその後継続して活用】

例) 生け花クラブ・茶道クラブ・さわやかスポーツクラブでの活用 (P.40～41)

クラブによっては、外部からの講師を招いて活動したり、チームワークを発揮して活動したりすることが多い。子どもたちにとっては、「あいさつ」「礼儀」「エチケット」を学ぶよい機会にもなるので、心のノートを活用することで、地域の方とのふれあいや、4・5・6年生の交流がよりよいものになるようにしたい。



5・6年用P.40～41

例) 自然科学クラブでの活用 (P.70～71)

校区内の自然を巡る内容のクラブでは、このページを活用して事前に目的意識をもつことで、協調性や責任感、規範意識などについて考えながら活動することができるようにする。また活動する中で、普段は、何気なく見たり遊んだりしている場所が、とてもかけがえのない場所であることを再認識したり、命の大切さに気付いたりすることにもつながるように、継続して書くようにするとよい。



5・6年用P.70～71

来年への意欲を高める場としての活用事例（5年）

5年生に、来年度は最上級生となることを意識できるようにするため「心のノート」を活用するとよい。中心となってクラブ活動を進めてくれた6年生の姿をしっかりイメージすることで、来年1年間のクラブ活動でリーダーシップを発揮することができるような態度を育てたい。

【1年間を振り返る活動の中で活用】

- ① クラブ活動での6年生の姿を思い出す。
- ② 楽しい活動と、やるべき仕事をがんばっていた6年生の姿に気付く。
- ③ 6年生の姿と自分の活動を振り返り、来年度への思いを書く。

新年度、もう一度「心のノート」ファイルを開き、このページを見直すことで、さらに自覚を促し、意欲を高めることができる。



5・6年用P.22～23

児童会活動で活用する

本場面におけるポイント

- 高学年としての自覚を促す
自発的・自治的な活動を通して、学校生活の充実と向上を目指すために生かす。
- 集会活動を事前・事後指導で交流を深める
異学年の子どもたちの交流を通して、望ましい人間関係を築くために生かす。



● 高学年としてよりよい校風をつくる学校生活の充実と向上を目指す事例（第6学年）

最高学年の6年生にとっては、4月は学校のリーダーとしての意欲が高まる時である。自発的・自治的な活動を促すために、学級で「心のノート」を使って学習することで、学校の伝統や先輩たちが残してくれたものに、気付かせることができる。

【学級の朝の会・帰りの会で活用】

- ① これまでの学校生活や昨年度の6年生を見てきて思うこと、または私たちの学校のよさを考え、思うことを書く。
- ② 実際に自分にできそうなことや、やってみたいことを書く。
- ③ 発表し合い、今後の活動の意欲を高める。



5・6年用P.102～103

学校のよさや伝統を再確認することで、愛校心や高学年としての自覚が生まれる。さらに、活動していく中で感じたことを、ファイルに綴じた「心のノート」に継続的に書き込んでいくことも心の成長の足跡として有効であり、「役割・責任」の大切さを実感する場となる。

● 委員会活動への自発的・自治的な活動の意欲を高める事例（第5・6学年）

最初の委員会活動のときに、「自分たちの学校のために!」と意欲をもって集合した子どもたちに、「この委員会で自分たちにできることは何か」を考えさせたい。5・6年の子どもたちに、自分たちでできることを考える場を与えることで、自主的な活動へと促すことができた。

【1回目の委員会活動の時間に活用】

- ① 昨年度の活動を振り返りながら、今年度の活動計画を立てるときに、他に「私たちにできることはないか」を考える。
- ② できそうなことを書く。
- ③ その中から、1年間の活動計画に入れたい内容を決めていく。



5・6年用P.58～59

子どもたちが自分たちにできることを考え、計画して、協力しながら実践する中で、楽しみながら学校生活の充実と向上に役立つ活動に取り組むことができる。学期末ごとなどに、心のノートファイルをもって集合し、委員会活動の振り返りを行うこともできる。

目的に合わせて「意欲付け」や「つなぐ手掛かり」として

● 朝の集会活動をつなぎながら異学年の交流を深める事例（第3学年）

全校児童朝会では、事前・事後指導を充実させたり、次の活動に生かすようにすることが大切である。例えば修学旅行で平和について学んだ6年生が「構成詩：平和への道」を発表する場合、3年生の事前指導でその内容を確認しておいたり、事後指導で発表の内容を振り返り、自分と重ねて考え、これからの自分のことを考えたりすることが考えられる。また、このことを生かして3年生としての集会活動に生かすなど、つなぐこともできる。

【事前指導】

- ① 学級で6年生の発表の内容を確認め合う。



【6年生の発表を見た後の事後指導】

- ② 「心のノート」を手掛かりに、自分の心を見つめ、みんなが仲よくなるために大切なことを考える。



【3年生が担当する集会につなぐ】

- ③ 今月の生活目標「友達となかよくしよう」の発表の内容を考える。



3・4年用P.40～41

● 「6年生を送る会」の事前・事後指導で望ましい人間関係を築く事例（第1学年）

1年生の場合、1年間を振り返ると、周りの人たちにいろいろな場面で助けてもらったことに気付く。「6年生を送る会」の前に、6年生に向けて「ありがとう」と言いたいことを書かせることで、子どもたちは、いろいろな場面で6年生にお世話になったことを思い出すことができる。

【準備の時間を使って事前指導】

- ① 6年生へ「ありがとう」と言いたいことを「心のノート」に書く。



【「6年生を送る会」別れを実感した後の事後指導】

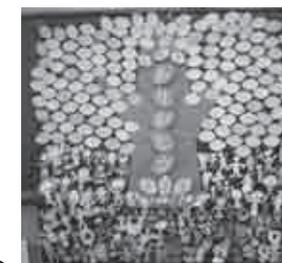
- ② 「心のノート」を見ながら、掲示用の葉っぱの形の「ありがとうカード」にメッセージを書く。
- ③ その葉っぱで大きな木を作り、6年生への卒業のプレゼントにする。



1・2年用P.50～51

6年生は、P.46～47などを使い、誰に対しても思いやりの心をもって接することを継続して考えられるような場をつくっておくとよい。このような工夫をすると、高学年の子どもたちが「低学年の子どもたちを思いやる心」を、低学年の子どもたちが「高学年にあこがれる心」をもつことができるようになる。

葉っぱで作った6年生へのプレゼント



生徒会活動で活用する

本場面におけるポイント

●望ましい人間関係や集団活動を見つめる

「心のノート」の内容は、自他を見つめ、よりよい人間関係を築こうとする態度、生徒会の一員であるという自覚やその責任を果たして生活しようとする態度を育成していく上で有効である。

●自主的、実践的な態度を育む

異年齢集団による交流、ボランティア活動などは、道徳的実践の指導をする重要な場である。その活動と「心のノート」を関連付けることによって、よりよい学校づくりに参画しようとする意欲が高まる。



●望ましい人間関係を築くために生徒会活動の中で活用した事例

1 ねらい

学校生活を送る中で、自分たちの学級や学校に対して愛着や誇りをもつことは大切なことである。そこで、互いに協力してよりよい校風を樹立しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

2 活動と「心のノート」活用の実際

○よりよい学級について考える。

中学校用P.102を読み、自他を振り返らせ、「正義を実現するために自分ができること」に書き込み、それを基に学級活動で話し合う。

○生徒総会で提案する内容を考える。

書き込んだ内容を基に、中学校用P.118「この学校をよりよくするために」に書き込み、学級として提案する内容を考え、深める。



中学校用P.100～101

○「仲間づくり標語」を考える。

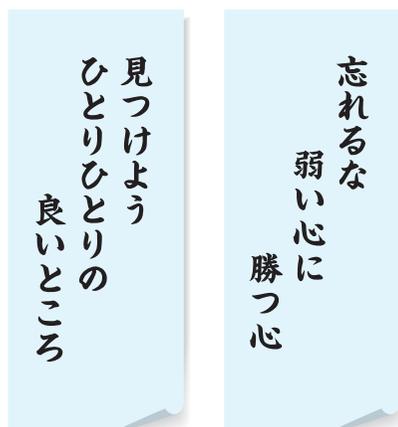
生徒会が主催して、よりよい仲間づくり、学校づくりのための標語を作る。

○作った標語や「心のノート」を掲示する。

生徒会委員会が、「仲間づくり標語」の優秀作品や「心のノート」を学級や学校掲示板などに掲示する。

○「この学校が好き」を創る。

中学校用P.116～117「この学校が好き」を生かし、生徒会執行部と学級代表で学校のよいところ、改善すべきところをまとめ、集会で発表する。それを受け、生徒会としてよりよい学校づくりに取り組む。



よりよい学校づくりに参画しようとする意欲が高まる「心のノート」

●自主的、実践的な態度を育むために生徒会活動の中で活用した事例

1 ねらい

学校生活を送る中で、自分たちの学級や学校に対して愛着や誇りを持ち、互いに協力してよりよい校風を樹立しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

2 活動と「心のノート」活用の実際

○先輩の学校に対する思いを知る。

上級生(2・3年生)は、中学校用P.117を読み、中学校用P.119「後輩に伝えていきたいこと」に書き込み、交流する。

○集会で先輩の思いを発表する。

書き込んだ内容を基に、「後輩に伝えていきたいこと」を生徒集会で発表する。

○よりよい学校づくりのために、自分たちは何ができるかを考える。

下級生(1・2年生)は、中学校用P.118「この学校をよりよくするために」に書き込み、よりよい学校づくりのための自分の考えをまとめる。生徒会だよりで広報する。



中学校用P.116～117



中学校用P.118

具体的な取組事例

① アイアイ運動(愛のあいさつ運動)

生徒会執行部、学級代表が中心になり、毎朝校門であいさつ運動をする。また、全校集会や昼の放送等において、あいさつの励行を呼び掛ける。

② 学校クリーン作戦

生徒会委員会が呼び掛け、ボランティアを募り、放課後、トイレや階段、廊下などの校内清掃活動を行う。



③ 垂れ幕作成

生徒会委員会が中心になり、行事を盛り上げるため、垂れ幕を作成し、校舎壁面に掲示する。

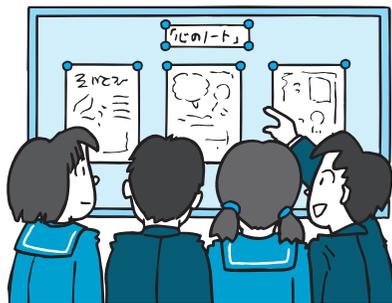
学校行事で活用する

学校行事への意欲を高め、そのときの思いを温めるために

本場面におけるポイント

●学校行事の充実に生かす

学校行事は、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動であり、学校行事に意欲的に取り組むには、学級、学年、学校の子どもが信頼関係をもって同じ目標に向けて連帯感を高めることが大切である。したがって、「心のノート」の特に集団や社会とのかかわりに関するページを生かすことができる。



●各種活動への積極的参加の契機とする

「心のノート」をポスターとして生かして、工夫した掲示を心掛け、活動への参加意欲を高めるようにする。

●体育祭の事前・事後における活用事例

1 題材名 学校行事「体育祭」を成功させよう

2 ねらい

先輩から受け継いだ学校の伝統を大切に、子ども一人一人がその役割と責任を果たし学校行事に積極的に参加しようとする意欲を高める。

3 活動と「心のノート」活用の実例

事前

(1) 自分たちの学校の体育祭の特色や伝統について話し合う。

- ・抽選で縦割りの団を組織して団対抗で競技する。
- ・団対抗の応援合戦が白熱する。
- ・学級旗と団旗、応援歌を作る。
- ・生徒会も競技の企画、運営に参加する。
- ・一人一役の係の責任を果たす。



(2) 特色や伝統を受け継ぎ守って体育祭を成功させるためには、どんなことが大切かを考え発表する。

(3) 体育祭での自分の役割について考え、**中学校用P.106～107「集団の中の自分に胸を張れ!!」**に記入する。

※この中で子ども一人一人が「心のノート」に記述した内容をまとめ、学校だよりや掲示物で紹介するなどして、体育祭への雰囲気づくりをした。

事後

(1) 体育祭の感想を話し合う。

子どもの感想から

- ・各団の団長やリーダーなど3年生の活躍がすばらしかった。
- ・みんなが協力して作った応援歌や振り付けでの応援合戦が感動的だった。
- ・係の人たちの進行がなめらかだったので予定通りに進んだ。
- ・学級旗や団旗が工夫されていた。

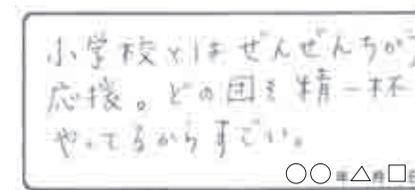
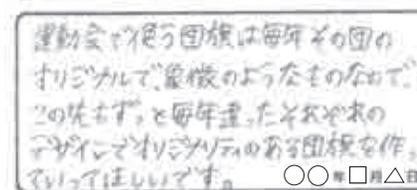
(2) 中学校用P.116～117「この学校が好き」を読む。

(3) 中学校用P.119「後輩に伝えていきたいこと」に記入する。

(4) 「心のノート」への記述内容を団ごとにまとめた掲示物を作成し、校内に掲示する。

体育祭について後輩に伝えていきたいことの記入例

後輩に伝えていきたいこと



●合唱コンクールへ向けた活用事例

1 題材名 すばらしい歌声をとどけよう

2 ねらい

合唱への取組を通して、一人一人を認め合い、目的に向かって協力してやり遂げることによる成就感や連帯感を味わうとともに、責任感と協力の態度を養う。

3 活動と「心のノート」活用の実例

(1) 合唱練習の状況についての感想や意見を出し合う。

- ・言葉をはっきり歌うことや強弱をつけることが大切だ。
- ・音がうまくとれない。・他のパートにつられてしまう。
- ・時々、ふざけてしまう。・練習準備に時間がかかる。



(2) 中学校用P.104～105「**集団、そして一人一人が輝くために**」を読み、「Free Space 感じたこと、考えたことを自由に書いてみましょう」に記入する。

(3) 「心のノート」への記述内容を生かした学級スローガンとともに「心のノート」のページを教室や廊下などに掲示する。



中学校用P.104～105

(4) 合唱コンクール当日、掲示物を会場にもっていき、全体の意欲を喚起する。

合唱コンクール、燃えた！
お互いを知り合えたし、協力することのすばらしさも知った。

わたしの喜びがみんなの喜びになり、みんなの喜びがわたしの喜びに感じられた。

家庭や地域社会との連携の中で活用する

家庭や地域社会と学校をつなぐ「心の架け橋」を大きくする

本場面におけるポイント

- **道徳の時間の授業公開に生かす**
道徳の時間の授業参観で「心のノート」を用いて、保護者などの関心を高める。
- **協力体制づくりに生かす**
保護者会や地域の人々との協議会などで生かして「心のノート」への理解を深める。
- **道徳性を養う環境づくりに生かす**
地域の施設に「心のノート」の関連ページを置いたり、内容をポスターにして掲示したりする。



● 道徳の時間の授業を家庭や地域に公開する場で生かした事例

ある学校では、道徳の時間を公開するに当たって、「心のノート」を事前の活動や地域の講師との打ち合わせなどに積極的に生かすようにした。そうすることによって、その活動の中で子どもに感じ取らせたい道徳的価値について、共通理解を深めることができると考えたからである。また、道徳の時間の公開に合わせて「心のノート」を次のような方法で生かした。

◎公開授業の概要

- 1 主題名 ふるさとをほこる(4年)
〔内容項目4-(5)〕
- 2 中心的な資料
「太平洋と日本海をふるさとのさくらでつなごう」
(文部省資料・平成6年)
- 3 ねらい 郷土に親しみと愛情をもち、郷土を大切にしようとする心情を育てる。
- 4 活用するページ
3・4年用P.88～91「わたしたちの心を育ててくれるふるさと」
- 5 展開の概要
(1) 莊川桜について知る。(VTRの利用)
(2) 資料「太平洋と日本海を…」を読んで話し合う。
(3) 老人クラブの会長さんと、地域のよさについて話し合う。(「心のノート」の活用)
(4) 唱歌「ふるさと」を、参観者も含めてみんなで合唱する。

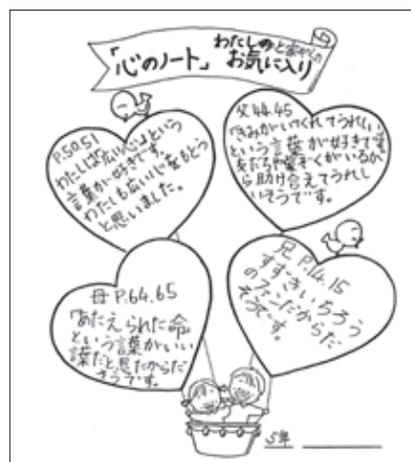
◎「心のノート」の活用を広げる工夫

ある子どもは、授業の後、「心のノート」わたしのお気に入り」のカードに、家族一人一人の気に入ったページを書いてきた。家族みんなで見て話し合ったのだという。そのことを学級で紹介して、他の子どもにも家庭で一緒に見てみることを勧めた。

◎「心のノート」活用の実例

◇協力してくれる老人クラブの会長との打ち合わせのときに、授業のねらいなどの理解を得るために用いた。

◇展開(3)の話合いのときに、事前に書き込んだP. 90～91を開いて、地域のよさや自慢できることを交流した。



「心のノート」わたしと家族のお気に入り

● 家庭や地域との協力体制づくりに生かした事例

(1) 共通理解を深めるために保護者会で話題にする

保護者会の日、子どもに「心のノート」のページのファイルを机の中に置いておくように伝え、会の中でファイルを机に出して、みんなで話題にした。保護者にとって「心のノート」の内容を理解する貴重な機会となったようだ。ただし、低・中学年段階ではこのような方法で進められることも多いが、高学年になると、「心のノート」のページに書いた内容を見られたくないと感じる子どもも多く、プライバシーに配慮しながら用いることが必要になる。

(2) 地域とともに歩む学校づくりのために「子育てシンポジウム」で用いる

地域に呼び掛けて「子育てシンポジウム」を開催した。また、それに先だって、「心のノート」の内容全体が描かれた鳥瞰図を生かしてアンケートを実施した。

当日は、下のようなプログラムで行った。まず、学校からは、日常の教育活動を報告したり、「心のノート」を使った家庭との交流について話題にした。

続いて、シンポジウムでは、学校、家庭、地域、それぞれの立場から日常考えていることを代表者が提案し、アンケートの結果も発表しながら話し合った。



子育てシンポジウムでの意見交流

子育てシンポジウム

- 1 はじめのことば
- 2 校長あいさつ
- 3 PTA会長あいさつ
- 4 学校の教育活動の様子と「心のノート」
- 5 子育てシンポジウム
◇子どもたちが今考えていること
◇保護者の声から
◇地域の人たちの願いから
～アンケートの集計結果について～
◇自由討議、全体討議
- 6 これからの連携について(まとめ)

● 子どもの心の豊かさを育てる環境づくりに生かした事例

(1) 道徳ポスターにして公民館に掲示する

月ごとにテーマを設定し、それに関連した「心のノート」のページや子どもの作品、保護者や地域の人々のメッセージなどを合わせたポスターを作成し、地域の公民館に掲示させていただいた。また、そこでは、「心の交流ノート」を置いて、ポスターを見た感想や意見などを自由に書いてもらえるようにした。

(2) 「心のノート」を公共施設に置く

公民館、高齢者施設のロビーなどに「心のノート」の関連ページを置いてもらい、地域の人々に内容を知ってもらうように努めている地域がある。地域ぐるみで子どもの心をどう育てるかについて、関心を深めていききっかけになると考えられる。



心をつなげる道徳ポスター「家族っていいね」

家庭や地域社会との連携の中で活用する

本場面におけるポイント

●学校における道徳教育の取組の様子を家庭に伝える

学校だよりなどで「心のノート」の活用事例を紹介することにより、学校で取り組んでいる道徳教育の様子を家庭に伝え、その理解を得ることができる。

●地域の掲示板を生かす

地域の掲示板等で「心のノート」の活用事例を掲示することにより、子どもたちの考えや活動の様子を、家庭、地域の人々に伝えることができる。

●家庭や地域社会の声を聞く

通信類や地域の掲示板、学校のホームページ等に「心のノート」の内容を紹介し、共に考えることで、家庭や地域の人々の声を聞くこともでき、より連携を図ることができる。



●学年通信での利用の事例

通信類として、学校だより、学年通信、学級通信、道徳通信、PTAだよりなど、様々なものが考えられる。また、ホームページの活用も考えられ、多様な媒体を複合的に活用することが大切である。

ある学校の2年生では、「生きる喜び」を主題とした道徳の時間の様子と中学校用P.80~81「かみしめたい人間として生きるすばらしさ」を学年通信に載せた。保護者へのアンケート欄には、中学校用P.83にある「あなたが目指す生き方とは」の部分の載せ、家庭からの感想・意見を記入していた。



「心のノート」P.83にある「あなたが目指す生き方とは」への保護者の記入

学校だよりや地域掲示板・ホームページなどを生かして取組を伝え、家庭・地域の声を聞く

●地域の掲示板を生かした事例

ある学校では、掲示用の学校だよりを作成して、学区の町内会に協力を依頼し、掲示板に掲示してもらった。地域産業の見学と、流通についての説明をした様子と、事後に子どもが中学校用P.79, P.110, P.122, P.126などに記述した内容を掲載した学校だよりを作成し、町内会の掲示板に掲示した。

また、別紙に、地域の人々が感想や意見を書く欄と、中学校用P.123の記入欄「ふるさとについて、あなたが伝えたいこと」を拡大コピーして掲示し、地域の人々にも記入していただいた。

☆子どもが「心のノート」に記入した内容

中学校用 P.78~79「大自然に何を想う」

・年輪を見てみると、400本もある木などもあり、すごいなあと感じました。時の流れについて考えました。

中学校用 P.110

「働く」ということには社会を支え、世の中に貢献する力がある」

・職業体験では、働くことはとても大変なことだと感じました。自分が実際に就職する時に備えて、心構えをしっかりともちたいと思いました。

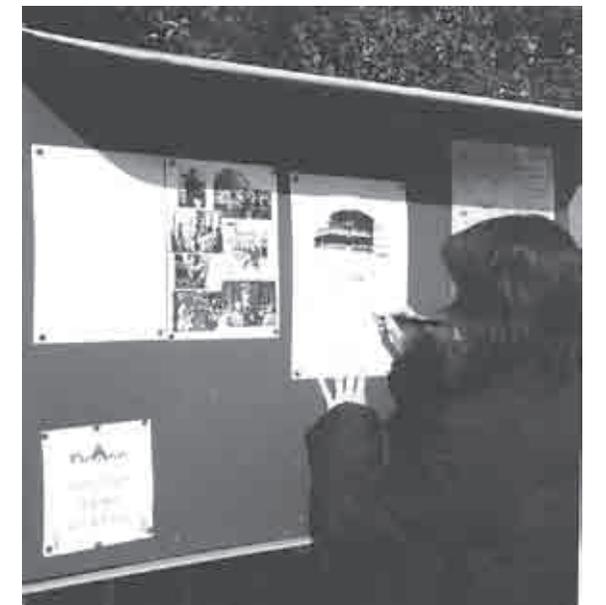
中学校用 P.122

「ふるさとに自分ができていることはなんだろうか」

・地元にもこういう産業があることを知り、驚きました。地域の人々の活躍の様子を知ることができてうれしく思いました。

中学校用 P.126~127「あなたは「日本の伝統や文化」の頼りになる後継者である」

・木は昔から伝統的に日本人の生活の中に生かされ、いろいろと使われていることがよくわかりました。



地域の掲示板に掲示された「心のノート」に記入する地域の人

地域の人々に「心のノート」を紹介し、活用してもらうことは、地域の行事が活性化したり、人間関係が広がっていったりすることにつながる。「心のノート」には学校で使うばかりでなく、地域の行事や活動に参加したときに、子どもが活用できるページが多くある。地域の様々な人々に「心のノート」を紹介しておくことで、さらに活用の幅が広がるのが期待できる。



留意点 いずれの場合も、教師が意図的に「心のノート」を生かし工夫を考えるとともに、子どもが記述した内容を紹介する場合には、本人の理解を得るなど十分な配慮が必要である。

学校間交流の場面で活用する

本場面におけるポイント

- **学校間交流のきっかけをつくる**ことができる
「心のノート」の関連する内容項目のページを活用することで、学校間交流を図ることができる。
- **それぞれの学校の子ども同士の相互理解が深まる**
「心のノート」を生かした多様な交流を通して、互いの理解が促され、自分たちの学校のよさにも気付く。
- **学校や郷土への連帯感を持続させる**
「心のノート」を媒介にして、例えば、社会の一員として、共に学校や郷土を愛し大切にしていこうとする連帯感を持続させることができる。



● 学校生活を充実させようとする態度や学校を愛する心を育てる場面での活用事例

小学校の取組（第6学年・学級活動）

- 1 題材名 いよいよ中学生
- 2 ねらい 中学校での新しい生活への関心を高め、充実した中学校生活を送ろうとする意欲やめあてがもてるようにする。
- 3 活動の概要と「心のノート」活用の実際

中学校生活への期待を話し合い、考える。

中学校へ疑問を送ろう!

- ① 中学校生活についての不安や疑問について話し合う。
・中学校ではどんな教科を勉強しますか。
・部活動は何種類ありますか。
・テストは、何回ありますか。
・どんな学校行事がありますか。
・どんな施設がありますか。
- ② みんなの疑問を一覧表にまとめて送る。

中学校を知ろう!

- ① 中学生から送られたメッセージや掲示物を見て感想を発表し合う。
- ② 回答してくれた中学生にメッセージを書く。
- ③ 5・6年用P.126～127「さあ中学生 そして未来へ」を活用して、自分へのメッセージを書く。



中学校の取組（第1学年・学級活動）

- 1 題材名 わたしたちの学校自慢
- 2 ねらい 学校や学級の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に対する敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立しようとする態度を育てる。
- 3 活動の概要と「心のノート」活用の実際

小学生の疑問に答えよう!

- ① 小学生から送られた疑問についての回答を考える。
・英語が新たに増えます。算数が数学、図画工作が美術、家庭が技術・家庭になります。
・運動部、文化部など十数種類あります。
・1つの学期に数回のテストがあります。
・文化祭、体育祭、陸上競技大会などがあります。
・立派な図書館、体育館があります。
- ② 小学生にメッセージを書く。

中学校用P.116～117「この学校が好き」を読み、「わたしたちの学校自慢」のワークシートに記入する。

中学校を伝えよう!

- ① 自分の学校の好きなところ、小学校とは違う点について掲示物にまとめて送る。
- ② 中学校用P.118～119「この学校をもっとすてきにしたい」などを活用し、発展的活動につなげる。

学校間交流を「心のノート」で橋渡し

● 地域社会の一員として郷土を愛する心を育てる場面での活用事例（生徒会活動）

- 1 題材名 私たちの郷土、ふるさとを語り合おう
- 2 ねらい 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、郷土の発展に努めようとする意欲を高める。
- 3 活動の概要と「心のノート」活用の実際

ふるさとのよさを探そう!

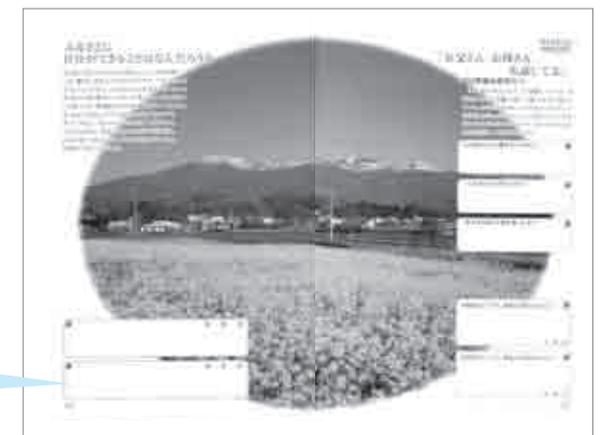
中学校用P.120～121「ここが私のふるさと」を読んで「ふるさとに自分ができることはなんだろうか」「お父さん、お母さんお話ししてよ」に自分の考えを記入し発表し合う。

- ① 同じ活動をした4つの中学校が、それぞれに意見をまとめ、生徒会活動を通して他の学校と交流し、郷土に関する様々な思いや発見、多様な意見や考えを知ることによって、さらに郷土への考えや地域社会の一員としての自覚を深める。
- ② 生徒会通信や学校だより等の発行物を配布して交流した結果を伝えるなどして、共に考えようとする意識を高める。



生徒会代表が集まって郷土についての意見交換

他の人の発言から、自分の知らなかった地域のよさを知ることでもできたし、自分の住んでいる地域への愛着に気付くこともできた。



中学校用P.122～123

● 特別支援学校との有志による交流活動を通して、相手を思いやる心を育てる場面での活用事例（生徒会活動）

- 1 題材名 スポーツ活動で交流しよう
- 2 ねらい スポーツ活動を通して、障害のある子どもについての理解と認識を深め、相手を思いやれるようにする。
- 3 活動の概要と「心のノート」活用の実際

- ① 特別支援学校の生徒と中学生がペアになり、スポーツ活動を行う。
- ② 活動後に、感想を述べ合う。
- ③ 今後、どのようなことに配慮して活動すればよいか考える。
- ④ 交流会終了後、学校に戻り、中学校用P.48～51「『思いやり』って…なんだろう?」を読んで、「日常生活や体験学習などを通して『思いやり』について感じたこと、考えたことがありますか?」に自分の考えを記入し、発表し合う。
- ⑤ 交流を通しての感想等は、廊下掲示したり生徒会通信を発行したりして全体に広める。

〈「心のノート」の活用例〉

「心のノート」の世界を広げる ファイルをつくってみよう

冊子版だけでなく、Web版の「心のノート」を上手に活用することで、以下のような取組を行うこともできる。

● 「心のファイル」(仮称)をつくってみると…

☆学習の記録が整理できる

「心のノート」だけでなく、学習カードや資料など、学習で使用した教材やカードをファイリングしていく。ファイルを見ると、一年間を通して、子どもがどんな学びをしてきたのか、いつでも振り返ることができる。子どもの個性を生かしたファイルを作成することで、継続的・発展的な活用への意欲を高めていきたい。(参考 P.24)

☆子どもの考えの記録ができる

授業で活用されていく「心のノート」には、子どもの考えや大切にしたいことなどが、子どもの言葉で記されていく。そんな「心のノート」をファイルにまとめていくことで、子どもの考えの記録が積み重なっていく。ファイルを見返したとき、子どもは以前と現在の自分を比べたり、成長を実感したりと、自分の心をさらに見つめていけるようにしたい。

☆教師と子どもの交流の場として活用できる

教師が、子ども一人一人のファイルを読むことで子どもへの理解をさらに深めたり、教師からのコメントを通して子どもを励ましたり、教師と子どもが、ファイルを通してじっくりと向き合い、相互の理解を深めていくことにも生かせる。

☆家庭と学校をつないだ活動ができる

子どもの思いや考え、学びをまとめたファイルは、家庭との連携にも生かせる。「心のノート」には、保護者が書くページもある。そうしたページを主として、子どもと保護者の考えを交流することで、学校での教育と家庭との連携が図られ、相互のつながりをより強くすることができる。(参考 P.96)



ファイルの名前は子どもが自分で決めるなど、主体的な活用を考えたい。

学習カードや資料が、いつもばらばらになってしまうけど、一つにまとめることもできるね!



ぼくだけの思いが詰まった宝物になったよ。

このようなファイルを作る際には、例えば以下の点に留意したい。

- ・ ファイルの趣旨を子どもに伝え、子ども自らによる活用を促す。
- ・ できばえや文量の競争とならないようにし、個性的な使い方も大切にする。
- ・ ファイルを作る学級間の教師での共通理解を丁寧に図る。 など

● 「心のノート」Web版の活用方法

◆ 子どもの記録にする活用例

必要なページをダウンロードして印刷、子どもに配布し、資料と共にファイリングしていくことで、子どもの学びの記録になっていく。教師は、その都度配布するので学年による重なりなどを心配することなく活用することができるなど、子どもや学級の実態等に合わせた活用方法が考えられる。



ウェブから直接ダウンロードすることができ、電子黒板や大型テレビに映して使用することもできる。また、拡大連写印刷をすると、簡単に掲示資料が作成できる。

「心のノート」には、美しい写真や印象的な絵が多く掲載されている。その美しさを大きく提示することで、子どもが学習へのイメージを広げることにもつながると考えられる。

さらに、コンピュータ室などで活用して、全員が個人で「心のノート」を保存したり、自分なりに整理したりと、情報機器を用いた使用方法も考えられる。

◆ 教員が活用しやすい環境をつくる

例えば担当者が一括して「心のノート」をダウンロードしておき、「心のノート」コーナーを設け、各学年、学級で印刷することも考えられる。

年間指導計画に沿って、各教員が工夫しながら授業ができるよう、「心のノート」を活用するための環境づくりも重要である。



第3章 「心のノート」の 効果的な活用を 促す計画例



「心のノート」中学生用『あなたらしさがあなたの個性』のイラストより

学校全体での活用を促す計画例

作成のポイント

●全教職員で内容を知る

「心のノート」の内容やその特色を知り、学校の中で生かすときの可能性をふくらませる。

●学校としての方針をもつ

学校としての「心のノート」の生かし方の方針や活用場面等について共通理解する。

●各計画に位置付ける

道徳の時間や各教科等の学習でどのように生かすかについて、活用場面や活用例などを計画に盛り込む。



●「心のノート」の活用を促すための計画を作成する手順の例

以下は、「心のノート」の活用を促す計画を立てるまでの一つの手順である。各学校の実態等により、それぞれの工夫を図ることが望まれる。

1 全教職員の共通理解を深める

職員会議で

◆全教職員で「心のノート」の特徴や使い方について共通理解を図る

○職員会議で、校長や道徳教育推進教師が、「心のノート」活用のために」などを用いて「心のノート」の意義、特徴などについて話す。また、学校の様々な教育活動で「心のノート」を生かすことができる可能性を話し合い、イメージをふくらませる。

全教職員で、小学校1・2年用から中学校用までの4冊の「心のノート」を回覧

職員会議で

◆学校としての「心のノート」の活用方針や活用場面等について共通理解を図る

○職員会議の中で、校長や道徳教育推進教師が、「心のノート」活用の方針を提案し、全教職員で共通理解を図る。

[例] 子どもが「心のノート」を進んで活用できるようにする

○子どもが、授業だけでなく、朝や帰りの話し合い、休み時間や放課後など学校生活の様々な場面で進んで活用できるように働き掛ける。

学年会で

○学年会の中で、教育活動のどのような場面で「心のノート」を生かすことができるかについて話し合う。

教科等部会で

○各教科等の部会において、各教育活動の特質に応じて「心のノート」をどのように生かすことができるかについて話し合う。

2 活用に向けた計画を立てる

◆道徳教育の全体計画等に活用の視点などを位置付ける

○「心のノート」を学校の中でどのように生かすかについて、道徳教育の全体計画などに位置付ける。
(「心のノート」活用の計画だけを独立させて整理することも考えられる。)

◆各教育活動の年間計画等に「心のノート」の活用を盛り込む

○「心のノート」の活用の視点を示した道徳教育の全体計画をもとに、道徳の時間をはじめとして、各教科等や生徒指導などの年間指導計画に「心のノート」を生かすことのできる場면을盛り込む。

子どもが自らの活用を促すための共通理解を

●「心のノート」活用の全体構想を作成するときの留意点

各教育活動の特質を生かした教育活動を進める上で無理のない活用を検討する
各教育活動における道徳性の育成は、各教育活動の特質を生かした指導をすることで成果が表れる。
したがって、子どもの心を育てる上で効果的であると思われる場合に、柔軟な形で「心のノート」を生かすことができるように計画に位置付けることを大切にする。

●「心のノート」を生かす共通理解を図るための流れのイメージ

以上のことを流れ図の構想で示すと、例えば、およそ次のように捉えることができる。

学校の重点(例) 心豊かな子どもを育てるために

「心のノート」を自分のために進んで活用する子ども

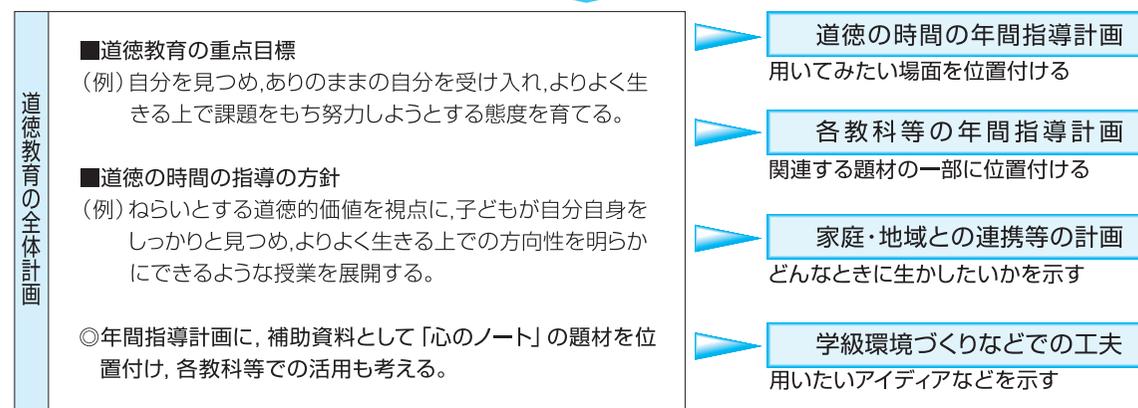
「心のノート」を生かす視点例

- 子ども自ら意欲的に活用しようと思えるか。
- 子どもの「心の成長の記録」となるか。
- 学校と家庭と地域社会との「心の架け橋」となるか。

子どもが「心のノート」を活用して生活や体験を振り返る場面

学校生活で	授業で	各教科 道徳の時間 外国語活動 総合的な学習の時間 特別活動
	授業以外で	朝や帰りの話し合い 休み時間 給食の時間 清掃時間 放課後 など
家庭生活で	家族の団らん 家庭における行事 など	
地域の生活で	地域における行事 日常的なふれあい など	

指導計画等への位置付け



道徳教育の全体計画例

作成のポイント

- 校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に、全教師で明確に位置付ける
学校として「心のノート」をどのように用いるかについて、一貫した基本方針を明示する。
- 道徳の時間や各教科等に位置付ける
教育活動のそれぞれの場面における「心のノート」の生かし方の方針を示す。
- 環境の整備や家庭・地域社会との連携などを考えて位置付ける
学校の環境づくりや、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図る際の「心のノート」の生かし方を考える。

道徳教育の全体計画への「心のノート」活用の位置付け方の例

以下は、全体計画の作成において「心のノート」の学校としての生かし方を位置付けるときの着眼点や手順などである。学校や地域社会の実態や特色に応じて多様に工夫することが大切である。

1 全体計画に位置付ける手順の例

- 1 学校の教育目標、道徳教育及び各学年の重点目標を基に、「心のノート」を学校としてどのように用いるかを検討し、整理する。
- 2 全教育活動を通じて生かせる道徳教育用教材として整理し、道徳の時間での生かし方を、1時間を通じた活用なども工夫しながら、道徳の時間の指導の方針の中に位置付ける。
- 3 各教科、総合的な学習の時間、特別活動での生かし方や、特に生かすことが考えられる内容を考え、整理する。
- 4 道徳的な環境を整え、家庭や地域社会との共通理解を深め相互の連携を図るため、「心のノート」の学校としての生かし方について検討し、計画に位置付ける。

2 全体計画に位置付けるときの留意点

- (1) 校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教師の参加と協力を得ながら、計画への位置付けを進める。
- (2) 学校の特色や実態及び課題に即した「心のノート」の効果的な使い方や重点的な生かし方を可能にする方針などを考えるようにする。
- (3) 小学校、中学校それぞれの活用の仕方の連続性や違いに着眼し、相互に連携を図り、長期的な視点で柔軟に位置付けるようにする。
- (4) 計画については、全教師による一貫性のある道徳教育を推進するために、道徳教育推進教師を中心に常に子どもの活用の様子を基に評価し、改善していくことが大切である。

「心のノート」の活用を位置付けた計画の評価について

例えば、年間の活用の様子を通して、次の観点から全体計画における「心のノート」の活用の位置付けなどについて評価する。

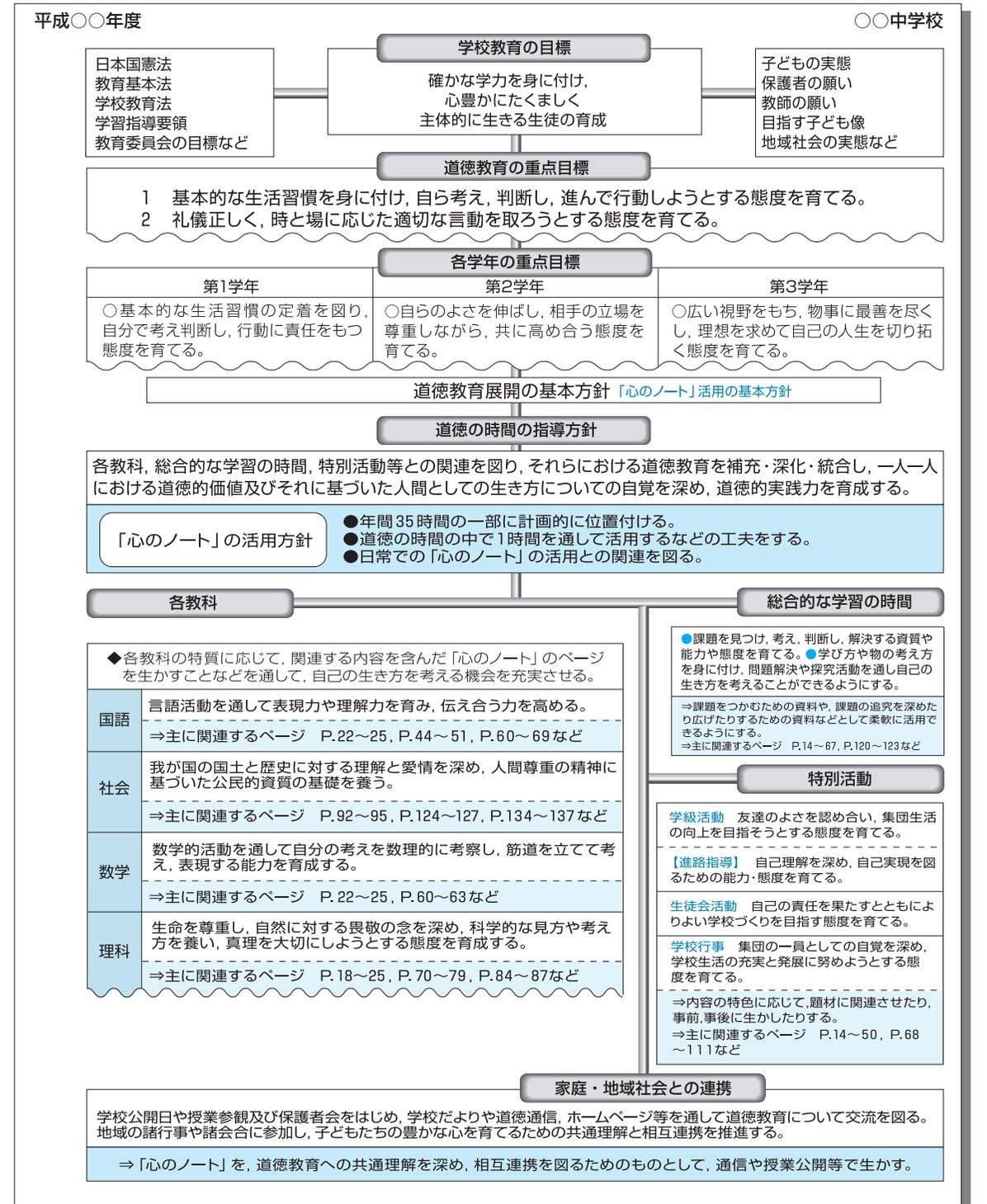
- 校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心として全教師で、学校の教育活動全体を通じた効果的な活用が図られたか。
- 道徳の時間において、「心のノート」の計画的な活用が図られていたか。
- 各教科等において、道徳性を養う視点から効果的に活用することができたか。
- 特色ある教育活動、生徒指導や環境づくり及び豊かな体験活動に積極的に生かすことができたか。

学校の教育活動全体を通して「心のノート」を計画的に生かすために

「心のノート」の活用を位置付けた道徳教育全体計画例

道徳教育全体計画（例）

●以下は「心のノート」の生かし方を見やすく整理した計画の一部である。



全教師で生きてはたらく諸計画をつくる

作成のポイント

- 道徳教育や道徳の時間の特質を全教師が理解すること。
→ [参考] 「道徳の時間」の学年段階・学校段階の一覧表
(小学校学習指導要領解説道徳編P.144~145, 中学校学習指導要領解説道徳編P.150~151)
- 教育活動全体を通じて行う道徳教育の相互の関連性を明確にし、学校として指導の具体的な場でどうすればよいかなど、基本的な考え方を明確にしておくこと。
- 全体計画の別葉に「心のノート」を位置付けたり、年間指導計画の「展開の概要」の中で道徳の時間における具体的な活用場面やその生かし方について整理したりするなど、実際の指導に役立つように工夫すること。

● 全教師が参画する諸計画づくり例

平成20年3月に告示された学習指導要領では、「第3章 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の1において「各学校においては、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開するため、次に示すところにより、道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成するものとする。」と規定された。

ある学校では、「道徳教育推進講座（校内研修）」で、校長の明確な方針の下、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力し合い、道徳の時間を要として各教科等における道徳性の育成にかかわる指導内容及び時期、それと関連する「心のノート」等を明示した各学年の道徳教育全体計画の別葉を作成した。全体計画をはじめとする諸計画は、具体的な教育実践に生きてはたらく計画になるように体制を整え、実際に活用できる有効で具体性のあるものになることに留意し、学校の実態や課題を踏まえて作成した。



手順1

教科ごとに、「各教科」の単元（教材）名、学習内容及指導する時期、関連する内容項目・心のノートを付箋紙に書き出す。



手順2

学年ごとに、「総合的な学習の時間」、「特別活動」の学習内容及時期、関連する内容項目・心のノートを付箋紙に書き出す。

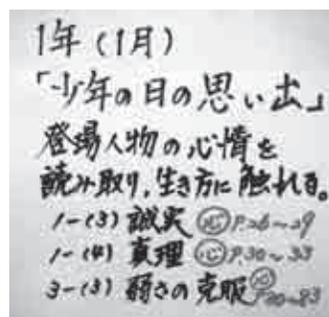


手順3

拡大した全体計画別葉（枠）に付箋紙を貼る。学年ごとに、「道徳の時間」内容項目の指導時期について協議・調整する。

この作成に当たっては、校区内の小学校や教育研究会道徳部会にも参加を呼び掛けた。それにより、小学校における内容項目の発展性や系統性を踏まえ、中学校における子どもの発達の段階などを全体にわたって理解することができた。また、各教科等における道徳性の育成にかかわる指導内容及び時期、それと関連する「心のノート」等について、複数の教師が話し合いながら作成することができ、計画の信頼性及び妥当性を高めることができた。

実際に作成した付箋（国語科）



「心のノート」を位置付けた全体計画別葉と年間指導計画例

● 「心のノート」の活用を位置付けた道徳教育全体計画別葉例

平成〇〇年度 道徳教育全体計画 別葉〔第1学年〕 〇〇中学校

月	道徳の時間	各教科										総合的な学習の時間		特別活動	
		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語	総合的な学習の時間	学級活動	生徒会活動	学校行事	
4	「町内会デビュー」 1- (3) 自主自律 心のノートP.26~29	「様々な文章を読む」 詩を音読して読み味わい、自分のもの見方を広げる。	「地球のすがた」 地球儀や地図により、大陸や海洋、その分布等について理解する。	「正の数・負の数」 正、負の加法・減法の仕組みを理解する。	「植物の生活と種類」 周辺の生物の観察を行い、生活していることを見いだす。	「明るい声」 歌詞の内容や曲意を感じ取り、表現を工夫して歌う。	「誘発されるイメージ」 感じ取った形や色彩の特徴や感じさせるところを描く。	「体づくり運動」 体の調子を整え、手軽な運動や積極的な運動を行う。	「技術とわたしたちの生活」 技術が生活や職業に果たしている役割を考える。	「Let's start」 英語の基本的な特徴を捉えて、正しく発音する。	「郷土まち探検」 自分たちが住む郷土について調べ学習を行う。	「1年生になって」 目標の設定、学級組織づくりを通して、中学校生活の充実を図る。	「生徒会オリエンテーション」 生徒会の計画や運営について理解する。	就任式、始業式、入学式、離任式、身体測定、健康診断、家庭訪問	
	「違うんだよ、健司」 2- (3) 真の友情 心のノートP.52~55	「心」のノート P.14~17 P.34~37 P.80~83	「心」のノート P.124~125 P.130~131	「心」のノート P.30~31 P.132~133	「心」のノート P.70~71 P.76~79	「心」のノート P.22~25 P.42~43 P.52~55	「心」のノート P.14~17 P.34~37	「心」のノート P.18~21 P.42~43 P.52~55	「心」のノート P.124~127	「心」のノート P.124~131 P.136~137	「心」のノート P.120~123	「心」のノート P.22~25 P.116~119	「心」のノート P.116~119	「心」のノート P.18~21 P.22~25 P.64~67	
	「銀色のシャープペンシル」 3- (3) 良心のめざめ 心のノートP.80~83														

月	道徳の時間	各教科 数 学	総合的な学習 の時間	特別活動		
				学級活動	生徒会活動	学校行事
4	「町内会デビュー」 1- (3) 自主自律 心のノートP.26~29	「正の数・負の数」 正、負の加法・減法の仕組みを理解する。	「郷土まち探検」 自分たちが住む郷土について調べ学習を行う。	「1年生になって」 目標の設定、学級組織づくりをして、中学校生活の充実を図る。	「生徒会オリエンテーション」 生徒会の計画や運営について理解する。	就任式、始業式、入学式、離任式、身体測定、健康診断、家庭訪問
	「違うんだよ、健司」 2- (3) 真の友情 心のノートP.52~55	1- (4) 真理を愛する、4- (1) 法やきまりの理解	4- (8) 郷土の発展に尽くした先人への尊敬と感謝の念	1- (2) 目標に向かう強い意志、4- (7) 学級の一人としての自覚	4- (7) 学校の一人としての自覚	1- (1) 基本的な生活習慣、1- (2) より高い目標、2- (6) 感謝
	「銀色のシャープペンシル」 3- (3) 良心のめざめ 心のノートP.80~83	心のノート P.30~31 P.132~133	心のノート P.120~123	心のノート P.22~25 P.116~119	心のノート P.116~119	心のノート P.18~21 P.22~25 P.64~67

● 具体的な「心のノート」の活用の仕方を明示した年間指導計画例

平成〇〇年度 第1学年「道徳の時間」年間指導計画〔授業記録〕

日時	平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇） 第〇校時				
主題名	自主自律 内容項目1- (3)				
ねらい	自主的に考えて自分を律して生きていこうとする実践意欲を育てる。				
資料名	「町内会デビュー」（文部科学省『中学校道徳読み物資料集』（平成24年））				
展開の概要	○黙って台所を出て行った明は、どんなことを考えていただろう。 ○ザクッ、ザクッと草を刈っている明はどんな気持ちだったのだろう。 ○明はどう考えて「よし。」と草や木を集めて運び始めたのだろう。 ○背筋を伸ばして大股で学校へ向かった明はどんなことを思っていただろう。				
心のノートの活用	中学校用P.26~29「自分のことは自分で決めたい」を活用し、自主自律について考えさせる。				
他の教育活動等との関連	学級活動（自己理解・生活設計）				
《授業評価（生徒アンケート）》	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
今日の道徳授業はためになった。	%	%	%	%	
自分の思いや考えを持ち、振り返ることができた。	%	%	%	%	
資料がよかった。	%	%	%	%	
成果と課題					

道徳の時間の年間指導計画例

作成のポイント

●道徳の時間の指導に位置付ける

1時間の道徳の時間を通して活用したり、学習過程の一部に位置付けたりする。

●年間を見通して位置付ける

低・中・高学年（中学校は3年間）構成であることを踏まえ、年間を見通して、計画に位置付ける。

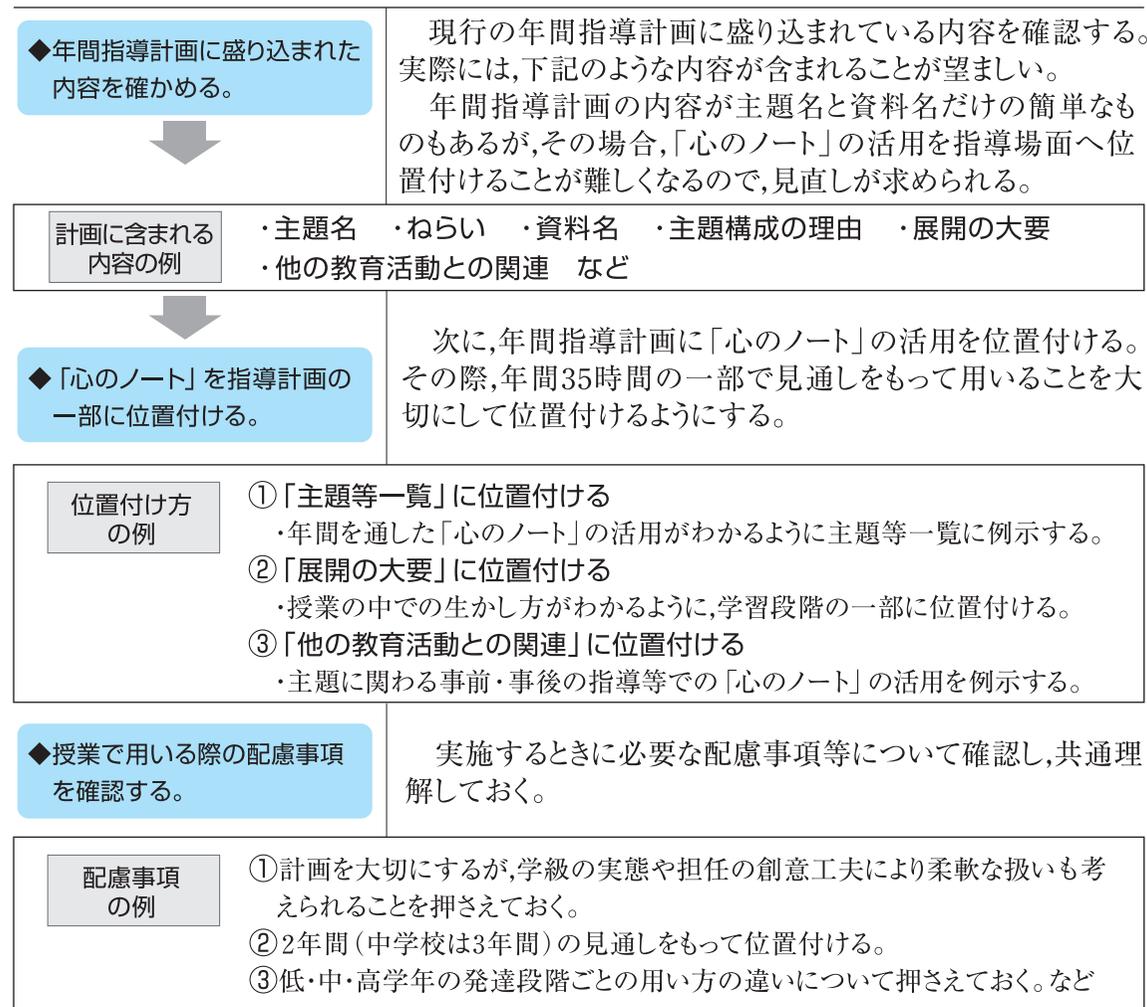
●柔軟に扱える計画にする

担任の年間指導計画による指導を基本としながら、創意工夫を生かすことのできる柔軟な扱いも大切にする。



●「心のノート」の活用を年間指導計画に位置付ける手順

「心のノート」の活用を年間指導計画に位置付けるまでの手順は、およそ次のようになると考えられる。各学校の実態によって、それぞれの工夫を図ることが望まれる。



道徳の時間に「心のノート」を見通しをもって生かし、指導の一層の充実を

●「心のノート」の活用を位置付けた年間指導計画例

1 「主題等一覧」に位置付けた例（第4学年）

月	週	主題名	内容項目	資料名	ねらい	「心のノート」の活用
4	1	よく考えて	1-(1)	少しだけなら	よく考えて行動し、節度ある生活をしようとする態度を育てる。 (情報モラルに関連)	
	2	みんなへの思いやり	4-(1)	あめだま	みんなで使う場所や物を大切にしようとする心情を養う。	終末 P.74「きまりやマナーを見つけよう」
	3	友達と力をあわせて	2-(3)	同じ仲間だから	友達と互いに助け合い、協力しようとする態度を育てる。	導入 P.44「ひとりじゃないからがんばれる」
5	1	勇気をもって	1-(4)	よわむし太郎	正しいことは勇気をもって行おうとする心情を育てる。	展開 P.22「なぜ勇気を出せないのだろう?」
	2	家族との協力	4-(3)	プラトレーのせいきゅう書	家族と協力して楽しい家庭を作ろうとする心情を養う。	終末 P.80「家族のために役立つ喜び」

2 「展開の概要」に位置付けた例（第5学年）

月	週	主題名	自由と規律
		資料名	うばわれた自由（文部省資料・平成3年）
6	3	○自由に対するイメージを出し合う。 ○資料を読んで話し合う。 ・王子に堅苦しく考えるなど言われたガリユーは、どんなことを考えたか。 ・牢獄の中で、ガリユーはどんなことを考えたか。 ・牢獄で王子の言葉を聞いたガリユーは、どんな気持ちだったか。 ○自由と自分勝手をはき違えてしまった経験について話し合う。 ▶「心のノート」P.20～21「自由ってなんだろう」を読んでまとめる。 ・自由とは「自分勝手」とはちがう ・自由は「楽ができる」ということでもない	

3 「他の教育活動との関連」に位置付けた例（第2学年）

月	週	主題名	わたしのしごと
		資料名	もりのゆうびん屋さん（文部科学省資料・平成23年）
展開の概要			
	1	自分の係活動や当番活動の仕事内容について発表し合う。	
他の教育活動との関連			
9月	3週	●「心のノート」P.76～77「大切なそれぞれのしごと」 事後指導として、朝の話し合いなどで「はたらくっていいね」について、参照することを促す。それぞれの場面について補助シートを配布するなどして、意欲を高められるようにする。	

学級における指導計画例

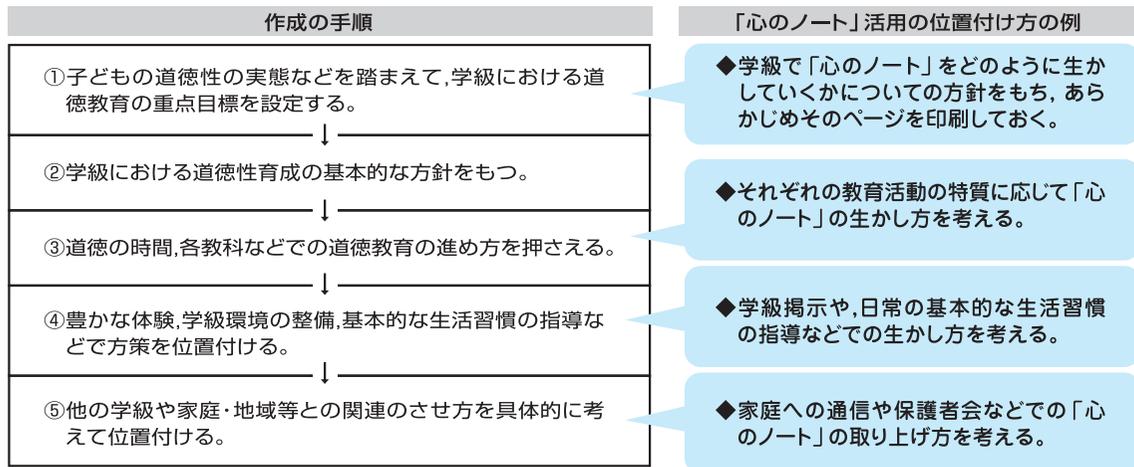
作成のポイント

- **子どもの実態をつかみ願いを受け止める**
学級の子どもの実態や、思い、願いなどをつかみ、「心のノート」の生かし方の発想につなげる。
- **学級における道徳教育の重点目標を捉えて方針化する**
学級における道徳教育で何を重点とするかについて考え、そこから、それぞれの生活場面や学習場面での使い方を多様に考える。
- **年間の見通しの中での周知な準備を行う**
学級での「心のノート」の年間の使い方の見通しをもつとともに、あらかじめそのページをダウンロードしてプリントアウトしておくなど、担任する教師が周知な準備を行う。

学級における指導計画への「心のノート」活用の位置付け方の例

1 作成の手順の例と「心のノート」活用の位置付け方の例

学級における道徳教育の指導計画には、学校、学年や学級の方針や願いなどによって様々な表現の仕方が考えられてよい。作成の手順としては、例えば、次の左のような方法が考えられる。その手順に則して、「心のノート」の生かし方を考えていくときに、例えば、次の右のような方法などが考えられる。



2 学級における指導計画に位置付けるときの留意点

学級で「心のノート」の活用を計画に位置付け、それをもとにして生かしていくときには、例えば次の点について留意することが大切である。

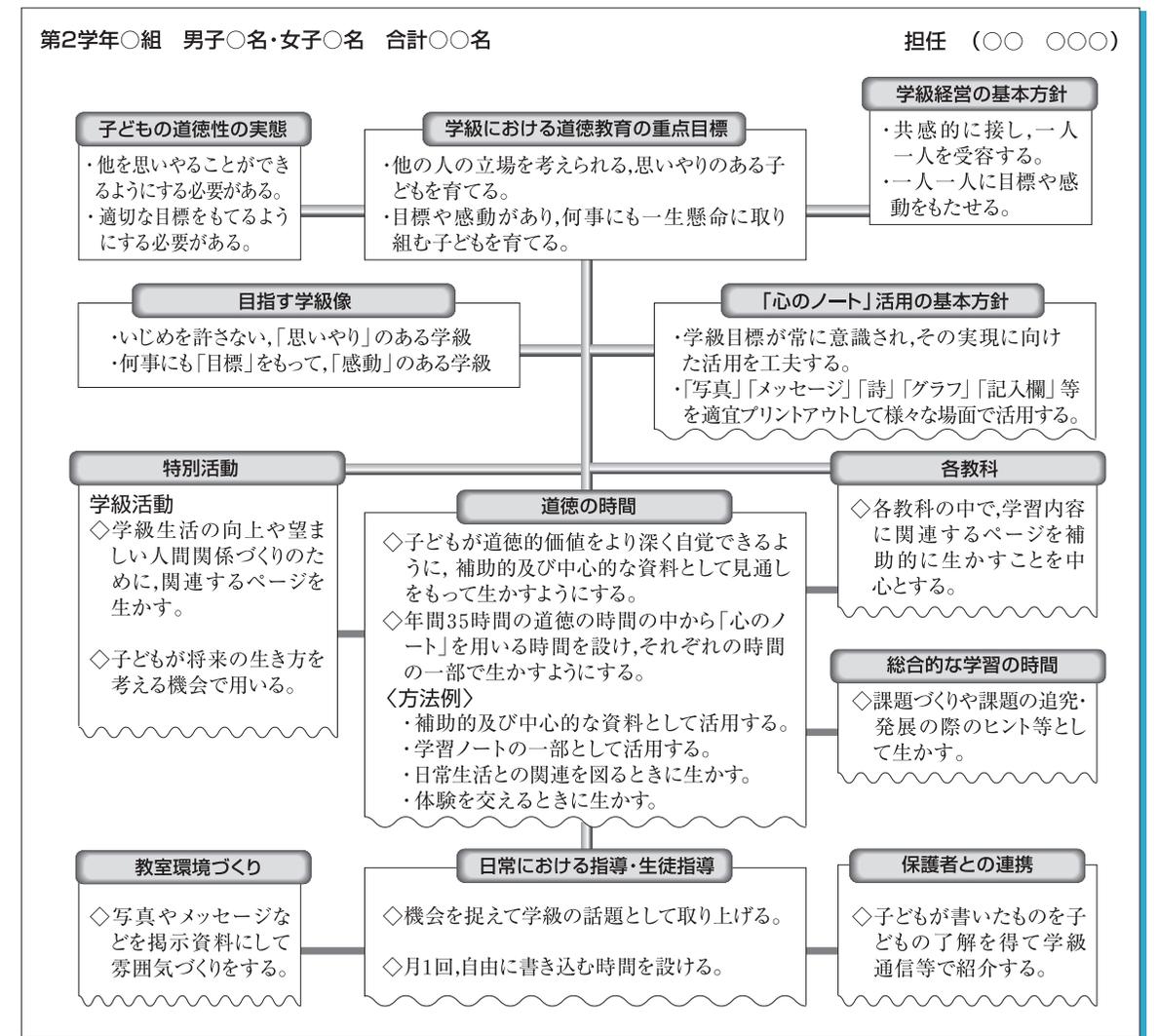
- (1) 教師は常に子どもの生活や学習の様子を見取りながら、計画に位置付けなかった場面も含め、機会を捉えて柔軟に「心のノート」を生かすようにする。
- (2) 「心のノート」の中の自由に書くことのできるページなどを生かして、学級生活の全体で子どもが継続的に活用することができるようにする。
- (3) 実際に「心のノート」を用いた日については、その日や場面などをメモするなどして、計画の修正や見通しのある生かし方に役立てる。
- (4) プリントアウトした「心のノート」は、専用のファイルにファイリングしておき、いつでもそのページをめくることができるようにする。
- (5) 専用のファイルは市販のものでもよいが、画用紙や厚紙に、子どもたちのイラストを描かせるなど、教師の創意工夫が生かされるようにする。

「心のノート」を生かし、目指す学級を実現するために

「心のノート」の活用を位置付けた学級における指導計画例

学級における指導計画例 (一部抜粋)

●以下は「心のノート」の生かし方を見やすく整理した計画の一部である。



◆計画のもとでの全教育活動での活用の実例

子どもには、各教科や総合的な学習の時間、特別活動などで考えた内容を「心のノート」に書き留めるように指導する。

右の写真は、[中学校用P.75](#)に道徳の時間や保健体育、理科の授業で考えた内容をまとめたものである。そうした様子の子どもの理解をもとに学級通信などで紹介している。



中学校用P.75の子どもの記入例

「心のノート」の活用記録の様式例

作成のポイント

●見やすく使いやすく作成する

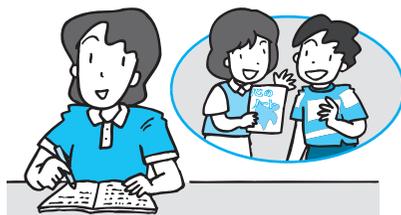
一目でわかるように枠を構成し、目次をそのまま生かすなどして書き込みやすいように工夫する。

●簡便で継続的に使えるようにする

長期間使うことを考え、簡便に書き込むことができ、続けやすいような工夫をする。

●教師間の連絡や引継ぎに役立つようにする

生かした場面、生かし方、子どもの様子などがわかるように工夫すると、連絡や引継ぎの内容が具体的になる。



●「心のノート」の活用記録用紙を作ろう

「心のノート」の活用記録用紙は、「心のノート」を用いたときの記録を残すための用紙である。作成する場合には、次の点について工夫すると利用しやすい。

例：「心のノート」を綴じ込んだファイルに、一緒に綴じ込むようにする。そのことにより「心のノート」と記録用紙を散逸することを防ぐことができる。

例：各内容で活用記録欄を設け、「心のノート」の裏面に貼っておく。繰り返し利用するときに便利である。

なお、方法としては、教師が使用している「心のノート」に直接書き込むことも考えられる。

●「心のノート」の活用記録用紙を効果的に使おう

記録用紙を学年等で効果的に用いるためには、例えば、次のような手順が考えられる。

①学年会等の打合せで話題にする

学年の教師が集まって、子どもの日常生活の様子や、道徳の時間、各教科等の年間指導計画を参考にしながら「心のノート」を生かすことができそうな場面について話題にし、メモしておく。

②記録用紙を貼り付けるなどする

「心のノート」の裏面に貼り付けたり、学年で共通に、ファイルに綴じておいたりする。

③実際に用いたときに書き込む

学級等で用いたときに、日付けと用いた場面を簡潔に書き込んでおくようにする。

④思い付いた工夫等をメモする

途中で有効な活用場面や用い方の工夫等を思い付いたときにその内容をメモしておく。

⑤年度途中や年度末に振り返る

年度途中に活用の様子を確かめて、その後の見通しをもった活用に役立てる。また、年度末に年間を通して用いてきた様子を確かめて、次年度への用い方の改善などに役立てる。



記録用紙を貼り込んだ教師用の「心のノート」

活用の足跡を振り返り、次年度に引き継ぐために

●「心のノート」の活用記録用紙で次の年度へ引き継ごう

「心のノート」は、どの冊子も複数学年にわたって子どもが活用する。学級担任が変わることも多く、引継ぎ事項の中に「心のノート」に関することも含めることで、次年度の学級経営などに生かされる。例えば、次の内容について引き継ぐようにしたい。

- ア 「心のノート」をどのような方針や重点をもって生かしたか
- イ 「心のノート」をどのようなときに用いたか
- ウ 「心のノート」について、子どもの実際の活用の様子はどうか

●「心のノート」の活用記録用紙の実際例

記録用紙は、次のように、簡便な様式から多様な情報を組み入れた様式まで様々に考えられる。学校の方針等によって工夫することが大切である。

例1 簡便な様式の記録用紙（一部）

「心のノート」の目次と日付、活用記録欄の3つの枠組みで作成した用紙

「心のノート」《3・4年用》活用のあゆみ						4年 組	
資料名	「心のノート」活用の記録			資料名	「心のノート」活用の記録		
内容項目	月/日	用いた場面		内容項目	月/日	用いた場面	
ふみ出そう ひとり立ちへの たしかな 歩み 1-(1)	6/25	学活	4年でがんばっていること	生きている ってどんなこと 3-(1)	11/6	道徳	ぼくの妹に
	11/1	朝の会	生活目標の指導				
今よりよくな りたいという 心をもとう 1-(2)	7/19	学活	夏休みの生活や学習	動物も植物 もともに生 きている 3-(2)	7/12	理科	夏の自然(観察)
	11/14	体育	マラソン大会の事前指導		12/3	理科	冬の自然(観察)
勇気を出せ るわたしに なるう 1-(3)	5/18	道徳	よむむし太郎	自然の美し さにふれて 3-(3)	10/11	理科	月の観察をした感想
	9/20	学活	いじめをなくすために		10/30	国語	読書指導(美しい心の本)

例2 情報を盛り込んだ記録用紙（一部）

関連する道徳の時間の資料や、教科等の内容を盛り込んだ用紙

「心のノート」《3・4年用》活用の記録						3年 組	4年 組
資料名	学年	道徳の時間の中心的な資料と関連活動			「心のノート」活用の記録		
		月	中心的な資料	出典	関連活動	月/日	用いた場面
ふみ出そう ひとり立ちへの たしかな 歩み 1-(1)	3年	9	目ざまし時計	〇〇	夏休みの反省		
		1	金色の魚	〇〇	新年の抱負		
よく考えるこ とがあなた をもっと伸ば す 1-(2)	4年	6	おひめさまと少年	〇〇	学級活動、日常の反省	6/25	学活 4年でがんばって いること
		1	少しだけなら	〇〇	コンピュータ室の利用	11/1	朝の会 生活目標の指導
	3年	6	どんどん橋の出来事	〇〇	生徒指導		
		9	まどガラスと魚	〇〇	学級活動、日常の反省		
		9	トムトムが見たものは	〇〇	日常生活・活動	9/12	帰りの会 ひとを傷つける 言葉

小学校学習指導要領（抜粋）

第1章 総 則

■第1 教育課程編成の一般方針

2 学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

道徳教育を進めるに当たっては、教師と児童及び児童相互の人間関係を深めるとともに、児童が自己の生き方についての考えを深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない。その際、特に児童が基本的な生活習慣、社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断し、人間としてしてはならないことをしないようすることなどに配慮しなければならない。

第3章 道 徳

■第1 目標

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。

■第2 内容

(省略) 118～119頁参照。

■第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 各学校においては、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開するため、次に示すところにより、道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成するものとする。

- 道徳教育の全体計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、児童、学校及び地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、第2に示す道徳の内容との関連を踏まえた各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示す必要があること。
- 道徳の時間の年間指導計画の作成に当たっては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習

の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、計画的、発展的に授業がなされるよう工夫すること。その際、第2に示す各学年段階ごとの内容項目について、児童や学校の実態に応じ、2学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導を行うよう工夫すること。ただし、第2に示す各学年段階ごとの内容項目は相当する各学年においてすべて取り上げること。なお、特に必要な場合には、他の学年段階の内容項目を加えることができること。

- 各学校においては、各学年を通じて自立心や自律性、自他の生命を尊重する心を育てることに配慮するとともに、児童の発達段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。特に低学年ではあいさつなどの基本的な生活習慣、社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断し、人間としてしてはならないことをしないこと、中学年では集団や社会のきまりを守り、身近な人々と協力し助け合う態度を身に付けること、高学年では法やきまりの意義を理解すること、相手の立場を理解し、支え合う態度を身に付けること、集団における役割と責任を果たすこと、国家・社会の一員としての自覚をもつことなどに配慮し、児童や学校の実態に応じた指導を行うよう工夫すること。また、高学年においては、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、自己の生き方についての考えを一層深められるよう指導を工夫すること。

2 第2に示す道徳の内容は、児童が自ら道徳性をはぐくむためのものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動においてもそれぞれの特質に応じた適切な指導を行うものとする。その際、児童自らが成長を実感でき、これからの課題や目標が見付けられるよう工夫する必要がある。

3 道徳の時間における指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- 校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。
- 集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの体験活動を生かすなど、児童の発達段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。
- 先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、児童の発達段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。
- 自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫すること。
- 児童の発達段階や特性等を考慮し、第2に示す道徳の内容との関連を踏まえ、情報モラルに関する指導に留意すること。

4 道徳教育を進めるに当たっては、学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、学校の道徳教育の指導内容が児童の日常生活に生かされるように必要がある。また、道徳の時間の授業を公開したり、授業の実施や地域教材の開発や活用などに、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図るよう配慮する必要がある。

5 児童の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする。

中学校学習指導要領（抜粋）

第1章 総 則

■第1 教育課程編成の一般方針

2 学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

道徳教育を進めるに当たっては、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに、生徒が道徳的価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない。その際、特に生徒が自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすることなどに配慮しなければならない。

第3章 道 徳

■第1 目標

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

■第2 内容

(省略) 118～119頁参照。

■第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 各学校においては、校長をはじめ全教師が協力して道徳教育を展開するため、次に示すところにより、道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成するものとする。

- 道徳教育の全体計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、生徒、学校及び地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、第2に示す道徳の内容と各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における指導との関連並びに家庭や地域社会との連携の方法を示す必要があること。
- 道徳の時間の年間指導計画の作成に当たっては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間との関連を考慮しながら、計画的・発展的に授業がな

されるよう工夫すること。その際、各内容項目の指導の充実を図る中で、生徒や学校の実態に応じ、3学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導を行うよう工夫すること。

- 各学校においては、特に、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、国際社会に生きる日本人としての自覚が身に付くようにすることなどに配慮し、生徒や学校の実態に応じた指導を行うよう工夫すること。また、悩みや心の揺れ、葛藤等の課題を積極的に取り上げ、人間としての生き方について考え深められるよう配慮すること。

2 第2の内容は、生徒が自ら道徳性をはぐくむためのものであり、道徳の時間はもとより、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間においてもそれぞれの特質に応じた適切な指導を行うものとする。その際、生徒自らが成長を実感でき、これからの課題や目標が見付けられるよう工夫する必要がある。

3 道徳の時間における指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- 学級担任の教師が行うことを原則とするが、校長や教頭の参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し指導体制を充実すること。
- ボランティア活動や自然体験活動などの体験活動を生かすなど多様な指導の工夫、魅力的な教材の開発や活用などを通して、生徒の発達段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。

4 道徳教育を進めるに当たっては、学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、学校の道徳教育の指導内容が生徒の日常生活に生かされるように必要がある。また、家庭や地域社会との共通理解を深め、授業の実施や地域教材の開発や活用などに、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得るなど相互の連携を図るよう配慮する必要がある。

5 生徒の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする。

「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表

参考

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校	
1 主として 自分自身に関すること	(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。 (2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。 (3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。 (4) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。	(1) 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。 (2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。 (3) 正しいと判断したことは、勇気をもって行う。 (4) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気に生活する。 (5) 自分の特徴に気が付き、よい所を伸ばす。	(1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。 (2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。 (3) 自由を大切に、自律的で責任のある行動をする。 (4) 誠実に、明るい心で楽しく生活する。 (5) 真理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。 (6) 自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。	(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。 (2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。 (3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。 (4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。 (5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	1 主として 自分自身に関すること
2 主として 他の人との かかわりに 関すること	(1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。 (2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 (3) 友達と仲よくし、助け合う。 (4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。	(1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。 (2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。 (3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。 (4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。	(1) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。 (2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 (3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。 (4) 謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすること。 (5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。	(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。 (2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。 (3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。 (4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。 (5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心もち謙虚に他に学ぶ。 (6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。	2 主として 他の人との かかわりに 関すること
3 主として 自然や 崇高なもの のかかわりに 関すること	(1) 生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。 (2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。 (3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。	(1) 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。 (2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。 (3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。	(1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 (2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする。 (3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。	(1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。 (2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。 (3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。	3 主として 自然や 崇高なもの のかかわりに 関すること
4 主として 集団や社会 のかかわりに 関すること	(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。 (2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。 (3) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。 (4) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。 (5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。	(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。 (2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。 (3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。 (4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。 (5) 郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもつ。 (6) 我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。	(1) 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。 (2) だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。 (3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。 (4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。 (5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。 (6) 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。 (7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。 (8) 外国の人々や文化を大切にする心を持ち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。	(1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。 (2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。 (3) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。 (4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。 (5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。 (6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。 (7) 学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。 (8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。 (9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。 (10) 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。	4 主として 集団や社会 のかかわりに 関すること

◆『心のノート』を生かした道徳教育の展開」編集協力者

作成協力者 (平成15年度)	職名は平成15年7月現在
赤堀 博行	東京都教育庁指導部指導主事 (50音順)
秋月 真也	静岡大学教育学部附属浜松中学校教諭
生田 敦	宇都宮大学教育学部附属小学校教諭
石岡 幸也	北海道札幌市立手稲東小学校教諭
上田 仁紀	滋賀県秦荘町立秦荘東小学校教諭
大木真理子	千葉県八街市立八街中学校教諭
生越 詔二	前東京都中央区立常盤小学校長
押谷 由夫	昭和女子大学教授
菊地 正直	東京都新宿区立牛込第二中学校長
坂本 哲彦	山口県教育庁岩国教育事務所指導主事
白木みどり	石川県松任市立北星中学校教諭
新宮 弘識	淑徳大学教授
菅 明男	東京都江東区立深川第三中学校教諭
鈴木 賢一	埼玉県鴻巣市教育委員会教育長
反町 京子	千葉県教育センター指導主事
土田 暢也	新潟県黒川村立黒川小学校教諭
内藤 雅人	山梨県総合教育センター研修主事
庭野 優子	東京都文京区立関口台町小学校教諭
林 敦司	鳥取県智頭町立土師小学校教諭
松原 好広	東京都昭島市立清泉中学校教諭
山下 守	鹿児島県教育庁人権同和教育課指導主事
横山 利弘	関西学院大学教授

なお、文部科学省においては次の者が編集に当たった。

大槻 達也	初等中等教育局教育課程課長
永田 繁雄	初等中等教育局教育課程課教科調査官
柴原 弘志	初等中等教育局教育課程課教科調査官
吉富 芳正	初等中等教育局教育課程課学校教育官・道徳教育調査官
坂下 裕一	初等中等教育局教育課程課教育課程第一係長
前川 浩一	初等中等教育局教育課程課教育課程第一係
武市 綾香	初等中等教育局教育課程課教育課程第一係

改善協力者 (平成23年度)	職名は平成24年3月現在
浅見 哲也	埼玉県教育委員会指導主事 (50音順)
大原 龍一	東京都町田市立町田第四小学校長
表迫 信行	東京都教職員研修センター統括指導主事
柿沼 治彦	東京都練馬区立中村中学校教諭
川崎 雅也	大阪府貝塚市教育委員会教育部参事
後藤 輝明	埼玉県富士見市立勝瀬小学校教諭
柴原 弘志	京都市教育委員会指導部長
庄司 量士	大阪市教育センター指導主事
高木 健吉	富山県富山市立堀川中学校教頭
谷田 増幸	兵庫教育大学大学院教授
田上佐知子	熊本県熊本市立大江小学校教諭
角田 千里	京都府京都市立神川中学校教諭
藤間 隆子	埼玉県加須市立加須平成中学校教諭
野村 宏行	東京学芸大学附属大泉小学校教諭
長谷 徹	東京家政学院大学教授
濱渕 雅樹	北海道教育大学附属釧路小学校教諭
林 由美子	相模原市立総合学習センター研修指導主事
松原 好広	東京都荒川区立第四中学校副校長
松本 好弘	広島県尾道市立久保中学校教諭
柳下 高明	埼玉県所沢市立牛沼小学校長
山西 香織	東京都文京区立窪町小学校教諭

なお、文部科学省においては次の者が編集に当たった。

塩見みづ枝	初等中等教育局教育課程課長
赤堀 博行	初等中等教育局教育課程課教科調査官
澤田 浩一	初等中等教育局教育課程課教科調査官
美濃 亮	初等中等教育局教育課程課学校教育官・道徳教育調査官
堀内 昭彦	初等中等教育局教育課程課教育課程第一係長
村山 嘉審	初等中等教育局教育課程課専門職・教育課程第一係長
村井 瞳	初等中等教育局教育課程課教育課程第一係
橋本 伸一	初等中等教育局教育課程課教育課程第一係
紺野 雅弘	初等中等教育局教育課程課教育課程第一係
菊池 幸博	初等中等教育局教育課程課教育課程第一係

平成25年3月

改訂版 「心のノート」を生かした道徳教育の展開 –「心のノート」活用事例集–

発行 文部科学省
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2